

クライアント構築手順書
【運用管理クライアント(介護)】
構築作業編

第4版

平成30年5月31日

変更履歴

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
1	2014/1/30	1.0 版	—	新規作成
2	2014/2/21	2.0 版	—	『クライアント構築手順書【運用管理クライアント(介護)】導入作業編』の修正に伴う版数変更
3	2017/12/11	3.0 版	目次	導入順序の変更（以下、変更履歴の項番 6、9、10、11、12、13、18、19、21、23）に伴う修正
4	2017/12/11	3.0 版	1.1. 初期設定手順	2017 年度のクライアント調達に伴い「1.1.2. 準備物」「1.1.4. 内容物確認」「1.1.5. 組み立て」を追記
5	2017/12/11	3.0 版	1.3. Internet Explorer	「1.3.5. InternetExplorer10 アンインストール手順」に InternetExplorer11 も同様な手順であることを追記
6	2017/12/11	3.0 版	1.4.JP1/Integrated Management - view 導入	導入順序変更に伴う項番修正 （導入作業編から構築作業編へ移動） 2.2.JP1/Integrated Management - view 導入 →1.4.JP1/Integrated Management - view 導入
7	2017/12/11	3.0 版	1.4.JP1/Integrated Management - view 導入	「1.4.4. 時刻変更設定」を追記 上記に伴い以降の手順の項番修正
8	2017/12/11	3.0 版	1.4.JP1/Integrated Management - view 導入	「1.4.JP1/Integrated Management - view 導入.doc」の項番 7「Program Files」を「Program Files(x86)」に修正
9	2017/12/11	3.0 版	1.5.JP1/AutomaticJobManagementSystem3 UserJobOperation - Definer 導入	導入順序変更に伴う項番修正 （導入作業編から構築作業編へ移動） 2.3.JP1/AutomaticJobManagementSystem3 UserJobOperation - Definer 導入 →1.5.JP1/AutomaticJobManagementSystem3 UserJobOperation - Definer 導入
10	2017/12/11	3.0 版	1.6.JP1/AutomaticJobManagementSystem3 - UserJobOperation - Client 導入	導入順序変更に伴う項番修正 （導入作業編から構築作業編へ移動） 2.4.JP1/AutomaticJobManagementSystem3 - UserJobOperation - Client 導入 →1.6.JP1/AutomaticJobManagementSystem3 - UserJobOperation - Client 導入
11	2017/12/11	3.0 版	1.7.JP1/Automatic Job Management System 3 - View 導入	導入順序変更に伴う項番修正 （導入作業編から構築作業編へ移動） 2.5.JP1 / Automatic Job Management System 3 - View 導入 →1.7.JP1 / Automatic Job Management System 3 - View 導入

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
12	2017/12/11	3.0 版	1.8.JP1 / NETM Remote Control - Manager 導入	導入順序変更に伴う項番修正 (導入作業編から構築作業編へ移動) 2.6.JP1 / NETM Remote Control - Manager 導入 →1.8.JP1 / NETM Remote Control - Manager 導入
13	2017/12/11	3.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入	導入順序変更に伴う項番修正 (導入作業編から構築作業編へ移動) 2.25.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入 → 1.9.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入
14	2017/12/11	3.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入	「1.9.9.SKYSEA 修正パッチの適用」の挿絵を変更
15	2017/12/11	3.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入	「1.9.3.前提条件」を変更 “ドメイン名 (NetBIOS) ¥KG-UserAdmin” でログオンすること → 「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること
16	2017/12/11	3.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入	「1.9.6.SKYSEA のインストール」の 27 ページに項番を変更したことによる警告メッセージについての記載を追記
17	2017/12/11	3.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト (SKYSEA)導入	最終頁(P.69)に注意事項として、リビジョンアップと修正モジュール適用実施の旨を追記
18	2017/12/11	3.0 版	1.10.ログ管理ソフト (Splunk) 導入	導入順序変更に伴う項番修正 (導入作業編から構築作業編へ移動) 2.26.ログ管理ソフト (Splunk) 導入 → 1.10.ログ管理ソフト (Splunk) 導入
19	2017/12/11	3.0 版	1.11.ネットワーク環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 1.4.ネットワーク環境設定→1.11.ネットワーク環境設定
20	2017/12/11	3.0 版	1.11.ネットワーク環境設定	前提条件(P.90)について LAN ケーブルを接続する旨の記載に変更 最終頁(P.91)に注意事項として、移行の手順を速やかに実施する旨を追記
21	2017/12/11	3.0 版	1.12.ウイルスバスター Corp. クライアント 導入	導入順序変更に伴う項番修正 1.6.ウイルスバスターCorp.クライアント導入 → 1.12.ウイルスバスターCorp.クライアント導入
22	2017/12/11	3.0 版	1.12.ウイルスバスター Corp. クライアント 導入	バージョン 10.6 の導入手順をバージョン 11.0 用に変更
23	2017/12/11	3.0 版	1.13.PC 検疫導入	導入順序変更に伴う項番修正 1.5.PC 検疫導入 → 1.13.PC 検疫導入
24	2017/12/11	3.0 版	1.13.PC 検疫導入	「1.13.5.検疫エージェントのインストール確認」の表内の項番 1 に以下の内容を追記 ※緑色になるまで数分程度時間がかかる場合がございます

項番	変更日付	版	変更箇所	変更内容
25	2017/12/11	3.0 版	全般	改版に伴いページ番号を変更
26	2018/5/31	4.0 版	目次	導入順序の変更（以下、変更履歴の項番 35、38）に伴う修正
27	2018/5/31	4.0 版	目次	項目追加（変更履歴の項番 39）に伴う修正
28	2018/5/31	4.0 版	1.1. 初期設定手順	1.1.2.、1.1.4.、1.1.4.2.、1.1.5.、1.1.5.2.に記載は例である旨を記載
29	2018/5/31	4.0 版	1.1. 初期設定手順	1.1.4.2.(3) 同封物の「モニター変換ケーブル」を「変換アダプタ」に修正
30	2018/5/31	4.0 版	1.1. 初期設定手順	1.1.6.(8) 「Dell Client System Update」が表示されない場合があるため、表示されなかった場合でも後続の作業を実施するように記載
31	2018/5/31	4.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト(SKYSEA)導入	1.9.9.1.と 1.9.9.2.の項目の順番変更
32	2018/5/31	4.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト(SKYSEA)導入	1.9.5.(10) 「サービス」を閉じる記載を追記
33	2018/5/31	4.0 版	1.9.情報漏えい対策ソフト(SKYSEA)導入	最終頁(P.69)に注意事項として、デバイス登録作業及び機器追加時の対応を追記
34	2018/5/31	4.0 版	1.11.ネットワーク環境設定	導入順序変更に伴う項番修正 最終頁(P.91)の注意事項内の項番を修正
35	2018/5/31	4.0 版	1.12. PC 検疫導入	導入順序変更に伴う項番修正 1.13. PC 検疫導入→1.12. PC 検疫導入
36	2018/5/31	4.0 版	1.12. PC 検疫導入	1.12.5.検疫エージェントのインストール確認 ウイルスバスターインストール後にアイコンが緑色になる旨を記載
37	2018/5/31	4.0 版	1.12. PC 検疫導入	1.12.5.検疫エージェントのインストール確認 VT 系クライアント構築している場合の注意事項について記載
38	2018/5/31	4.0 版	1.13. ウイルスバスター Corp. クライアント 導入	導入順序変更に伴う項番修正 1.12. ウイルスバスター Corp. クライアント 導入→1.13. ウイルスバスター Corp. クライアント 導入
39	2018/5/31	4.0 版	1.13. ウイルスバスター Corp. クライアント 導入	項目「1.13.8. エラー2902 が発生した場合の Corp. クライアントインストール手順」を新規作成

目 次

1. 構築作業編	1
1.1. 初期設定手順	1
1.1.1. 対象マシン／作業予定時間	1
1.1.2. 準備物	1
1.1.2.1. 準備物	1
1.1.2.2. 準備物（2017 年度以降調達分）	1
1.1.3. 前提条件	1
1.1.4. 内容物確認	2
1.1.4.1. 内容物確認	2
1.1.4.2. 内容物確認（2017 年度以降調達分）	3
1.1.5. 組み立て	4
1.1.5.1. 組み立て	4
1.1.5.2. 組み立て（2017 年度以降調達分）	4
1.1.6. 初期セットアップ	5
1.1.7. サービスの設定変更	6
1.1.8. ディスクの設定	6
1.1.9. 環境設定	7
1.1.10. サービスの設定	7
1.2. Microsoft .NET Framework	10
1.2.1 対象マシン／作業予定時間	10
1.2.2. 準備物	10
1.2.3. 前提条件	10
1.2.4. .NET Framework バージョン確認	10
1.2.5. .NET Framework 4.5 アンインストール手順	11
1.2.6. .NET Framework 4.5 アンインストール確認	12
1.2.7. .NET Framework 4.0 インストール手順	13
1.2.8. .NET Framework 4.0 インストール確認	14
1.3. Internet Explorer	15
1.3.1 対象マシン／作業予定時間	15
1.3.2. 準備物	15
1.3.3. 前提条件	15
1.3.4. InternetExplorer バージョン確認	15
1.3.5. InternetExplorer10 アンインストール手順	17
1.3.6. InternetExplorer10 アンインストール確認	18
1.3.7. Internet Explorer 9 インストール手順	18
1.3.8. Internet Explorer 9 インストール確認	20

1.4. JP1/Integrated Management - view 導入	21
1.4.1. 対象マシン／作業予定時間	21
1.4.2. 準備物	21
1.4.3. 前提条件	21
1.4.4. 時刻設定手順	21
1.4.5. AdobeAIR のインストール手順	22
1.4.6. JP1/Integrated Management - view のインストール手順	23
1.5. JP1/AutomaticJobManagementSystem3 UserJobOperation-Definer 導入	26
1.5.1. 対象マシン／作業予定時間	26
1.5.2. 準備物	26
1.5.3. 前提条件	26
1.5.4. JP1/AJS3 UserJobOperation-Definer のインストール手順	26
1.6. JP1/AutomaticJobManagementSystem3 – UserJobOperation-Client 導入	29
1.6.1. 対象マシン／作業予定時間	29
1.6.2. 準備物	29
1.6.3. 前提条件	29
1.6.4. JP1/AJS3-UserJobOperation-Client のインストール手順	29
1.7. JP1/Automatic Job Management System 3 – View 導入	32
1.7.1. 対象マシン／作業予定時間	32
1.7.2. 準備物	32
1.7.3. 前提条件	32
1.7.4. JP1/AJS3 - View のインストール手順	32
1.8. JP1/NETM Remote Control - Manager 導入	36
1.8.1. 対象マシン／作業予定時間	36
1.8.2. 準備物	36
1.8.3. 前提条件	36
1.8.4. JP1/NETM Remote Control – Manager のインストール手順	36
1.8.5. JP1/NETM Remote Control – Manager のインストール確認	40

1.9. 情報漏えい対策ソフト（SKYSEA）導入	41
1.9.1. 対象マシン／作業予定時間	41
1.9.2. 準備物	41
1.9.3. 前提条件	41
1.9.4. 留意事項	42
1.9.5. Windows ファイアウォールの有効化	43
1.9.6. SKYSEA のインストール	46
1.9.7. Windows ファイアウォールの無効化	50
1.9.8. OS 再起動	53
1.9.9. SKYSEA 修正パッチの適用	54
1.9.9.1. 拡張子の表示	54
1.9.9.2. 修正パッチファイル確認とフォルダアクセス権変更	57
1.9.9.3. 旧ファイルの別名退避	65
1.9.9.4. 修正パッチのコピー	67
1.9.10. ログオフ	68
1.10. ログ管理ソフト（Splunk）導入	70
1.10.1. 対象マシン／作業予定時間	70
1.10.2. 準備物	70
1.10.3. 前提条件	70
1.10.4. 留意事項	70
1.10.5. ログイン	71
1.10.6. Splunk Universal Forwarder のインストール	72
1.10.7. Splunk Universal Forwarder の初期設定	78
1.10.7.1. outputs.conf の編集	78
1.10.7.2. deploymentclient.conf の編集	83
1.10.8. 構築作業用媒体②のアンマウント／取出し	85
1.10.9. 設定内容の有効化	85
1.10.10. ログオフ	89
1.11. ネットワーク環境設定	90
1.11.1. 対象マシン／作業予定時間	90
1.11.2. 準備物	90
1.11.3. 前提条件	90
1.11.4. ネットワークの設定	90

1.12. PC 検疫導入	92
1.12.1.対象マシン／作業予定時間	92
1.12.2. 準備物	92
1.12.3. 前提条件	92
1.12.4. 検疫エージェントのインストール手順	92
1.12.5. 検疫エージェントのインストール確認	94
1.13. ウイルスバスターCorp.クライアント導入	95
1.13.1. 対象マシン／作業予定時間	95
1.13.2. 準備物	95
1.13.3. 前提条件	95
1.13.4. ActiveXの有効化の設定	95
1.13.5.ウイルスバスターCorp. クライアントのインストール手順	96
1.13.6. ActiveX の無効化の設定	101
1.13.7.ウイルスバスターのアップデート	102
1.13.8. エラー2902 が発生した場合の Corp.クライアントインストール手順	104

1. 構築作業編

1.1. 初期設定手順

1.1.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	30 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	30 分	<input type="checkbox"/>

1.1.2. 準備物

※調達方法と調達内容によって準備物は異なります。以降は例として記述します。

1.1.2.1. 準備物

項番	媒体	名称	確認
1	ダンボール (大)	デスクトップ本体	<input type="checkbox"/>
2	ダンボール (中)	モニタ	<input type="checkbox"/>
3	ダンボール (小)	マウス・電源ケーブル等	<input type="checkbox"/>
4	ダンボール (ミニ)	キーボード	<input type="checkbox"/>

1.1.2.2. 準備物 (2017 年度以降調達分)

項番	媒体	名称	確認
1	ダンボール (大)	デスクトップ本体	<input type="checkbox"/>
2	ダンボール (中)	モニタ	<input type="checkbox"/>
3	ダンボール (小)	マウス・電源ケーブル等	<input type="checkbox"/>
4	ダンボール (ミニ)	キーボード	<input type="checkbox"/>

1.1.3. 前提条件

項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>
2	ドキュメント	パスワード一覧	<input type="checkbox"/>

1.1.4. 内容物確認

※調達方法と調達内容によって内容物は異なります。以降は例として記述します。

1.1.4.1. 内容物確認

- (1) ダンボール（大）を開けます。
- (2) ダンボール（大）内にダンボール（小）とダンボール（ミニ）の2つとデスクトップ本体が存在することを確認します。
- (3) ダンボール（小）に以下の同封物が存在することを確認します。
 - ・ マウス
 - ・ 電源ケーブル
 - ・ モニタ変換ケーブル
 - ・ 書類 5 点
 - ① 「パソコンセットアップガイドのご案内」
 - ② DELL Important Information－512e Hard Drive
 - ③ Norma Official Mexicana<NOM>
 - ④ Important Information
 - ⑤ Dell OptiPlex 7010 セットアップと機能情報
 - ・ CD 2 枚
 - ① Resource Media
 - ② OPERATING SYSTEM
- (4) ダンボール（ミニ）にキーボードが存在することを確認します。
- (5) ダンボール（中）を開けます。
- (6) ダンボール（中）に以下の同封物が存在することを確認します。
 - ・ 液晶ディスプレイ
 - ・ ディスプレイ専用台
 - ・ ケーブル 3 種類
 - ① 電源ケーブル
 - ② DVI ケーブル（接続元が白色のもの）
 - ③ USB ケーブル
 - ・ セッティングガイド
 - ① CD 1 枚（DRIVERS AND DOCUMENTATION）
 - ・ 紙 2 枚
 - ① Monitors Product Information Guide
 - ② P1913S/P1913/P2213（モニタ接続図）

1.1.4.2. 内容物確認（2017 年度以降調達分）

※2017 年度の一括調達で調達した場合は、調達業者から「納品物一覧」が送付されますので、そちらでご確認してください。以降は、デスクトップ PC と 19 インチモニタを調達した場合の例です。

- (1) ダンボール（大）を開けます。
- (2) ダンボール（大）内にダンボール（小）とダンボール（ミニ）の 2 つとデスクトップ本体が存在することを確認します。
- (3) ダンボール（小）に以下の同封物が存在することを確認します。
 - ・ マウス
 - ・ 電源ケーブル
 - ・ 変換アダプタ
 - ・ 書類 3 点
 - ① OptiPlex 3050 Small Form Factor Quick Start Guide
 - ② Safety and Regulatory Information
 - ③ 「パソコンセットアップガイド」のご案内
- (4) ダンボール（ミニ）にキーボードが存在することを確認します。
- (5) ダンボール（中）を開けます。
- (6) ダンボール（中）に以下の同封物が存在することを確認します。
 - ・ 液晶ディスプレイ
 - ・ ディスプレイ支柱
 - ・ ディスプレイ台座
 - ・ ケーブル 4 種類
 - ① 電源ケーブル
 - ② VGA ケーブル
 - ③ DisplayPort ケーブル
 - ④ USB ケーブル
 - ・ セッティングガイド
 - ① CD 1 枚（DRIVERS AND DOCUMENTATION）
 - ・ 紙 2 枚
 - ① Safety and Regulatory Information
 - ② P1917S/P1917SWh（モニタ接続図）

1.1.5. 組み立て

※調達方法と調達内容によって組み立て手順は異なります。以降は例として記述します。

1.1.5.1. 組み立て

- (1) 以下の同封物を取り出します。
 - ・ ダンボール（大）ーデスクトップ
 - ・ ダンボール（中）ーディスプレイ・ディスプレイ専用台・電源ケーブル
 - ・ ダンボール（小）ーマウス・電源ケーブル
 - ・ ダンボール（ミニ）ーキーボード
- (2) 液晶ディスプレイとディスプレイ専用台の包装紙を取ります。
- (3) ディスプレイ専用台に接続されているケーブルのビニールを取ります。
- (4) ディスプレイ専用台の真ん中と液晶ディスプレイの背面を取り付けます。
※液晶ディスプレイを上から取り付けます
- (5) デスクトップの電源ケーブルをデスクトップと電源タップに接続します。
- (6) キーボードの USB ケーブルをデスクトップに接続します。
- (7) マウスの USB ケーブルをデスクトップに接続します。
- (8) モニタに接続されているケーブルをデスクトップへ接続します。
- (9) モニタの電源ケーブルをモニタと電源タップに接続します。

1.1.5.2. 組み立て（2017 年度以降調達分）

※以降は 2017 年度の一括調達で、デスクトップ PC と 19 インチモニタを調達した場合の例です。

- (1) 以下の同封物を取り出します。
 - ・ ダンボール（大）ーデスクトップ
 - ・ ダンボール（中）ーディスプレイ・ディスプレイ支柱・ディスプレイ台座・電源ケーブル・VGA ケーブルまたは DisplayPort ケーブル
 - ・ ダンボール（小）ーマウス・電源ケーブル
 - ・ ダンボール（ミニ）ーキーボード
- (2) 液晶ディスプレイ、ディスプレイ支柱、ディスプレイ台座の包装紙を取ります。
- (3) VGA ケーブルまたは DisplayPort ケーブルのビニールを取ります。
- (4) ディスプレイ支柱、ディスプレイ台座を組み立てます。
- (5) ディスプレイ支柱の真ん中と液晶ディスプレイの背面を取り付けます。
※液晶ディスプレイを上から取り付けます
- (6) デスクトップの電源ケーブルをデスクトップと電源タップに接続します。
- (7) キーボードの USB ケーブルをデスクトップに接続します。

- (8) マウスの USB ケーブルをデスクトップに接続します。
- (9) VGA ケーブルまたは DisplayPort ケーブルをモニタとデスクトップへ接続します。
- (10) モニタの電源ケーブルをモニタと電源タップに接続します。

1.1.6. 初期セットアップ

- (1) 本体の電源を投入します。
 ※電源投入後以下の画面が表示されますが、しばらくお待ちください。
 - ・初めてコンピューターを使用するための準備をしています
 - ・ビデオのパフォーマンスを確認しています
- (2) 「Windows のセットアップ」ウィンドウが表示されますので、以下の内容を確認し、「次へ」をクリックします。
 - ・国または地域 (C) : 日本
 - ・時刻と通貨の形式 (T) : 日本語 (日本)
 - ・キーボードレイアウト (K) : Microsoft IME
- (3) 「新しいアカウントの～」と表示されますので、「設定変動表の「運用管理クライアント (n)」、「運用管理クライアント(VT 系) (n)」の ホスト名またはコンピュータ名 を参照し、構築対象コンピュータ名)を入力し、「次へ」をクリックします。
 - ・ ユーザ名を入力してください (例：John)：XXXX
 (※XXXX は都道府県名 例：岡山県/OKAYAMA)
 - ・ コンピュータ名を入力してください (T) : ホスト名 (クライアント)
- (4) 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されますので、以下の内容を入力します。
 (※パスワード及びパスワードのヒントは都道府県名+“-001” 例：岡山県の場合、“Okayama-001”)
- ・ パスワードを入力してください (推奨) (P)：xxxx-001
- ・ パスワードをもう一度入力してください (R)：xxxx-001
- ・ パスワードのヒントを入力してください (H)：xxxx-001
- (5) 「ライセンス条項をお読みになってください」と表示されますので、「ライセンス条項に同意します (コンピューターを使用するには同意が必要) (A)」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。
- (6) 「コンピューターの保護と Windows の機能の向上が自動的に行われるように設定してください」と表示されますので、「後で確認します (A)」をクリックします。
- (7) 「日付と時刻の設定を確認します」と表示されますので、「タイムゾーン (T)」に「(UTC+09:00)大阪、札幌、東京」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

- (8) 「Dell Client System Update」が表示された場合、画面右上の「×」をクリックします。
 (「Dell Client System Update」はPCによっては表示されない場合がございますが、表示されなかった場合でも以降の作業を実施してください。)
- (9) マシンを再起動します。

1.1.7. サービスの設定変更

- (1) マシン起動後、「ユーザ名」を「XXXX」で「パスワード」に『パスワード一覧のローカル¥XXXXのパスワード』を入力し、ログインします。
 (※XXXXは都道府県名 例：岡山県/OKAYAMA)
- (2) 「スタート」→「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」を選択し、表示された画面の右ペインにある「Windows ファイアウォール」をクリックします。
- (3) 「Windows ファイアウォールによるコンピューターの保護」ウィンドウが表示されるので、「詳細設定」をクリックします。
- (4) 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」ウィンドウが表示されるので、「概要」にある「Windows ファイアウォールのプロパティ」をクリックします。
- (5) 「ローカルコンピューターのプロパティ セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」ウィンドウが表示されるので、各（ドメインプロファイル・プライベートプロファイル・パブリックプロファイル）タブの「ファイアウォールの状態」をすべて「無効」にします。
- (6) 「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。
- (7) 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール～」ウィンドウを閉じます。
- (8) 「Windows ファイアウォールによるコンピューターの保護」ウィンドウを閉じます。

1.1.8. ディスクの設定

- (1) 「スタート」→「コンピューター」を右クリックし、「管理」をクリックします。
- (2) 「コンピューターの管理」ウィンドウが表示されましたら、左メニューの「記憶域」を展開し「ディスクの管理」を選択します。
- (3) DVD-ROM ドライブを右クリックし、「ドライブ文字とパスの変更」を選択します。
- (4) 「<DVD-ROM ドライブ>:()ドライブ文字とパスの変更」ウィンドウが表示されますので、「変更」をクリックします。
- (5) 「ドライブ文字またはパスの変更」ウィンドウが表示されますので、右側にあるドライブのプルダウンメニューより「E」選択し、「OK」をクリックします。
- (6) 「確認」ウィンドウが表示されましたら、「はい」をクリックします。
- (7) 「コンピューターの管理」ウィンドウを閉じます。
- (8) 「スタート」→「コンピューター」を選択し、「ローカルディスク(C:)」をダブルクリックします。

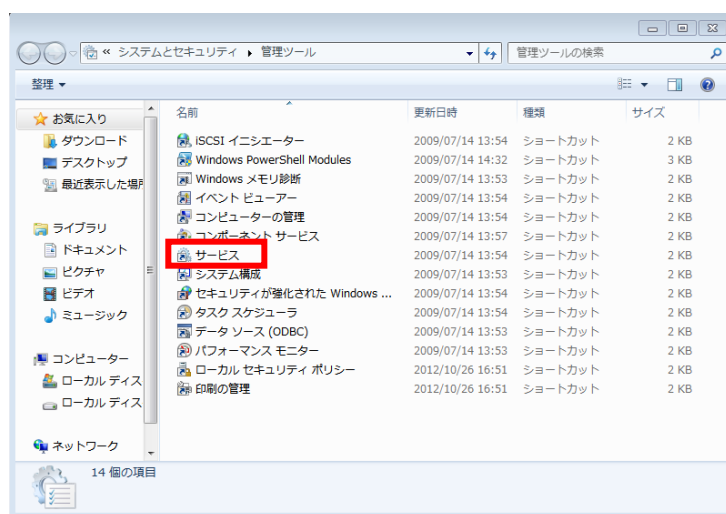
- (9) 「temp」フォルダを作成します。
- (10) 「temp」フォルダを選択し、右クリックより「共有」→「特定のユーザ」を選択します。
- (11) 「ファイルの共有」ウィンドウが表示されますので、プルダウンより「Everyone」を選択し「追加」をクリックします。
- (12) 「アクセス許可のレベル」を「読み取り／書き込み」に設定し、「共有」をクリックします。
- (13) 「終了」をクリックします。
- (14) 「ローカルディスク(C:)」ウィンドウを閉じます。

1.1.9. 環境設定

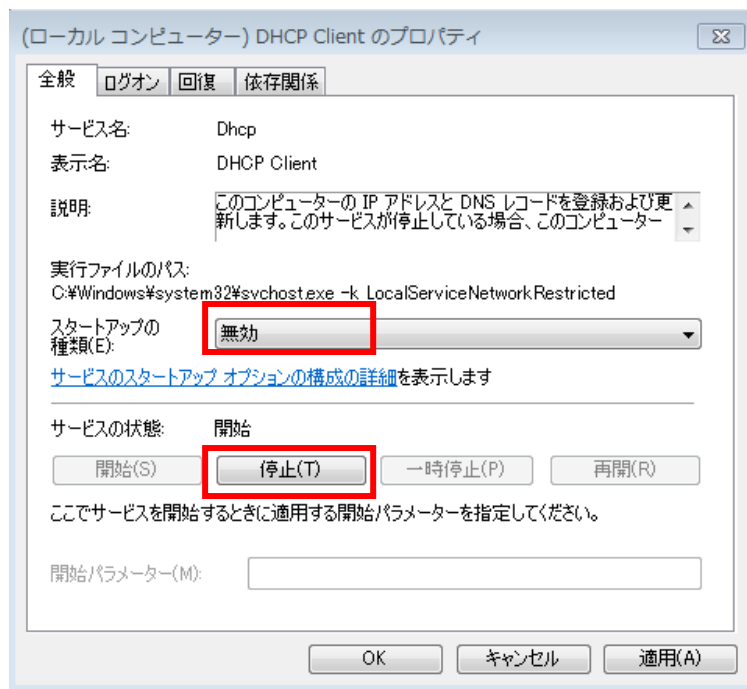
- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」→「ユーザーアカウントと家族のための～」をクリックします。
- (2) 「ユーザーアカウント～」ウィンドウが表示されましたら、「ユーザーアカウント」をクリックします。
- (3) 「ユーザーアカウント～」ウィンドウが表示されましたら、「ユーザーアカウント制御設定の変更」をクリックします。
- (4) 「ユーザーアカウント制御の設定」ウィンドウが表示されましたら、「規定」から「通知しない」に変更し、「OK」をクリックします。
- (5) 「変更を許可しますか？」ウィンドウが表示されますので、「はい」をクリックします。
- (6) 「ユーザーアカウント～」ウィンドウを閉じます。

1.1.10. サービスの設定

- (1) 「コントロールパネル」ウィンドウに戻り、「システムとセキュリティ」→「管理ツール」を選択します。
- (2) 表示された画面より「サービス」をダブルクリックします。

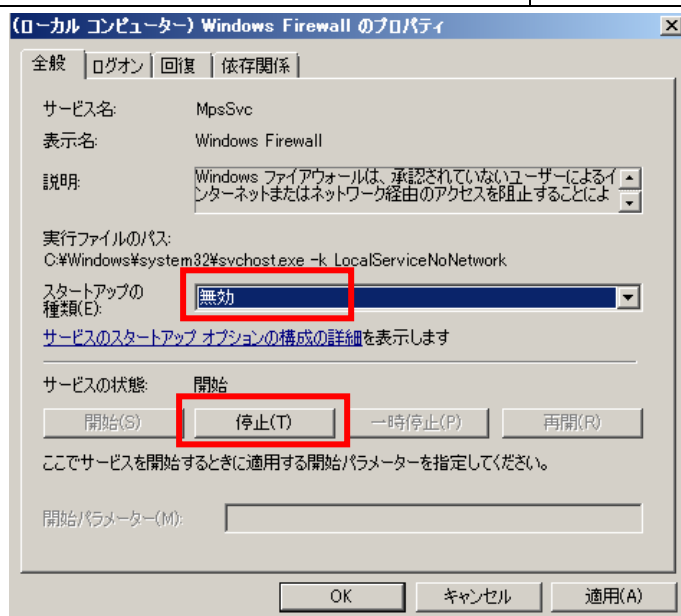


- (3) 「サービス」ウィンドウが表示されますので、「DHCP Client」サービスを選択し、右クリックより「プロパティ」を選択します。
- (4) 「(ローカルコンピュータ)DHCP Clientのプロパティ」ウィンドウが表示されますので、スタートアップの種類を「無効」に選択、「サービスの状態」欄の「停止」をクリックし、「OK」をクリックします。



- (5) (3)～(4)での操作にて、下表のとおり「Windows Firewall」を設定します。

サービス名	スタートアップの種類	サービスの状態
Windows Firewall	無効	停止



- (6) 「サービス」 ウィンドウを閉じます。
- (7) 開いている画面をすべて閉じます。
- (8) マシンを再起動します。

1.2. Microsoft .NET Framework

1.2.1 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	30 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント(VT 系)	30 分	<input type="checkbox"/>

1.2.2 準備物

項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通 NW・介護）	<input type="checkbox"/>

1.2.3 前提条件

項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

1.2.4 .NET Framework バージョン確認

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
- (2) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (3) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、右ペインの一覧より「.NET Framework 4.5」が存在することを確認します。

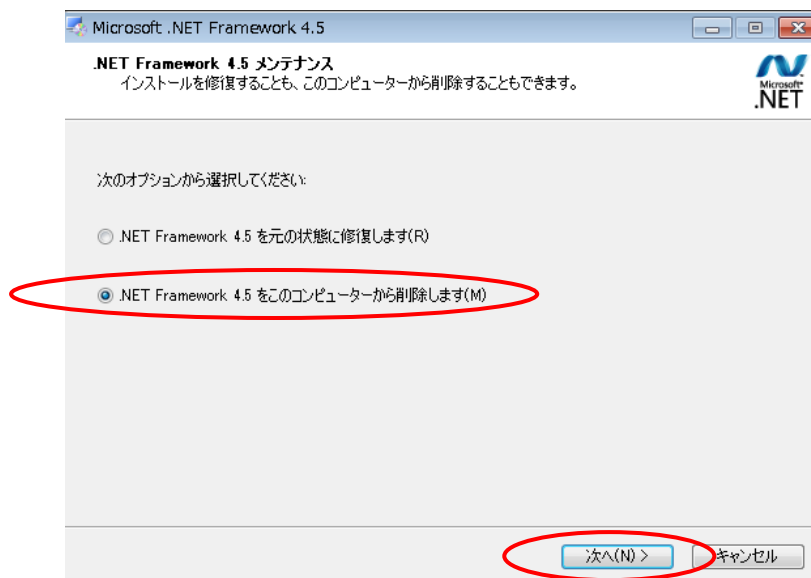
項番	確認項目	確認
1	「.NET Framework 4.5」が存在すること	<input type="checkbox"/>

※.Net Framework4.0 がインストールされていた場合は、以下「1.2.5 .NET Framework 4.5 アンインストール手順」、「1.2.6 .NET Framework 4.5 アンインストール確認」、「1.2.7 .NET Framework 4.0 インストール手順」、「1.2.8 .NET Framework 4.0 インストール確認」手順は不要となりますので、飛ばしてください。

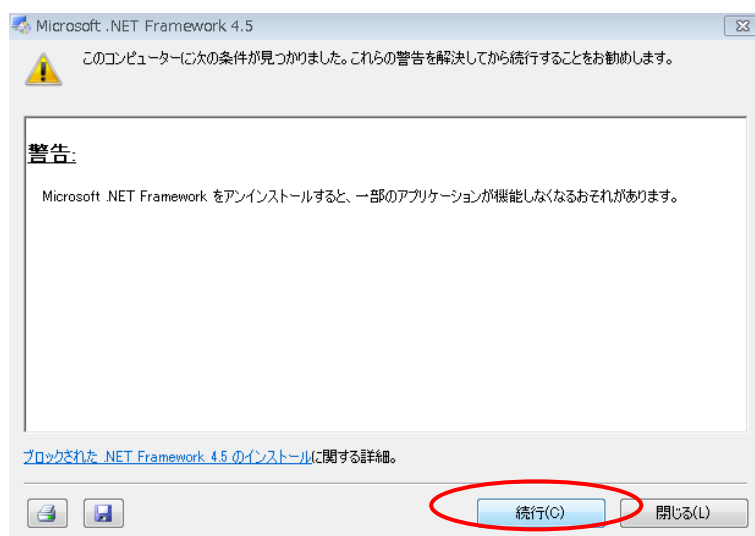
- (4) 「プログラムと機能」画面を閉じます。

1.2.5 .NET Framework 4.5 アンインストール手順

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (3) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、右ペインの一覧から「.NET Framework 4.5」を選択し、右クリックより「アンインストールと変更」をクリックします。
- (4) 「.NET Framework 4.5 メンテナンス」画面が表示されますので、「.NET Framework 4.5 をこのコンピュータから削除します」にチェックを入れ「次へ」をクリックします。



- (5) 「このコンピュータに次の条件が見つかりました。～」画面が表示されますので、「続行」をクリックします。



- (6) 「削除が完了しました」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。



- (7) マシンを再起動します。

1.2.6 .NET Framework 4.5 アンインストール確認

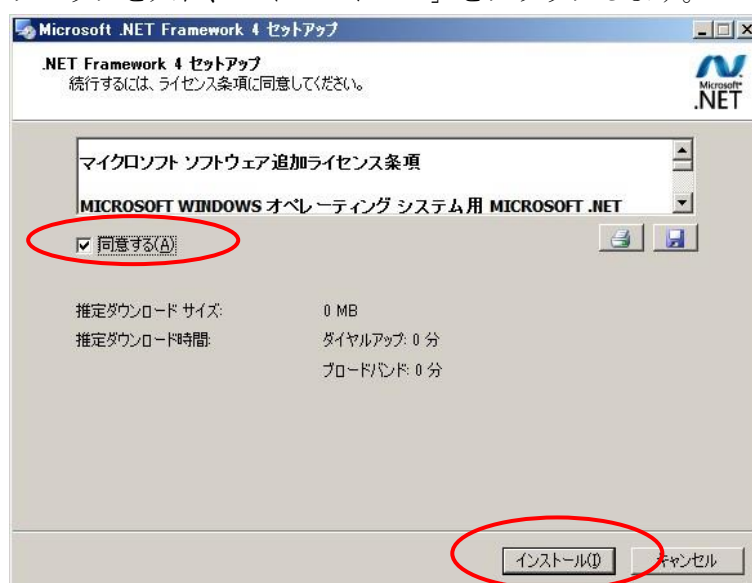
- (1) マシン起動後、「ユーザ名」を「XXXX」で「パスワード」に『パスワード一覧のローカル¥XXXXのパスワード』を入力し、ログインします。
(※XXXX は都道府県名 例：岡山県/OKAYAMA)
- (2) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (3) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (4) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、右ペインの一覧より「.NET Framework 4.5」が存在しないことを確認します。

項番	確認項目	確認
1	「.NET Framework 4.5」が存在しないこと	<input type="checkbox"/>

- (5) 「プログラムと機能」画面を閉じます。

1.2.7 .NET Framework 4.0 インストール手順

- (1) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通 NW・介護）」DVD-ROM をセットします。
- (2) DVD内のフォルダが表示されますので、「E:\¥Microsoft¥dotNET Framework4¥dot NetFx40_Full_x86_x64」をダブルクリックします。
- (3) 「Microsoft.NET Framework 4 セットアップ」画面が表示されましたら、「同意する」にチェックを入れ、「インストール」をクリックします。



- (4) 「インストールが完了しました」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。
- (5) DVD ドライブより「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通 NW・介護）」DVD-ROM を取り出します。
- (6) マシンを再起動します。

1.2.8 .NET Framework 4.0 インストール確認

- (1) マシン起動後、「ユーザ名」を「XXXX」で「パスワード」に『パスワード一覧のローカル¥XXXX のパスワード』を入力し、ログインします。
(※XXXX は都道府県名 例：岡山県/OKAYAMA)
- (2) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (3) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (4) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、右ペインの一覧より以下のプログラムが存在することを確認します。

項番	確認項目	確認
1	Microsoft .NET Framework 4 Client Profile	<input type="checkbox"/>
2	Microsoft .NET Framework 4 Extended	<input type="checkbox"/>

- (5) 「プログラムと機能」画面を閉じます。

1.3. Internet Explorer

1.3.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	20 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	20 分	<input type="checkbox"/>

1.3.2. 準備物

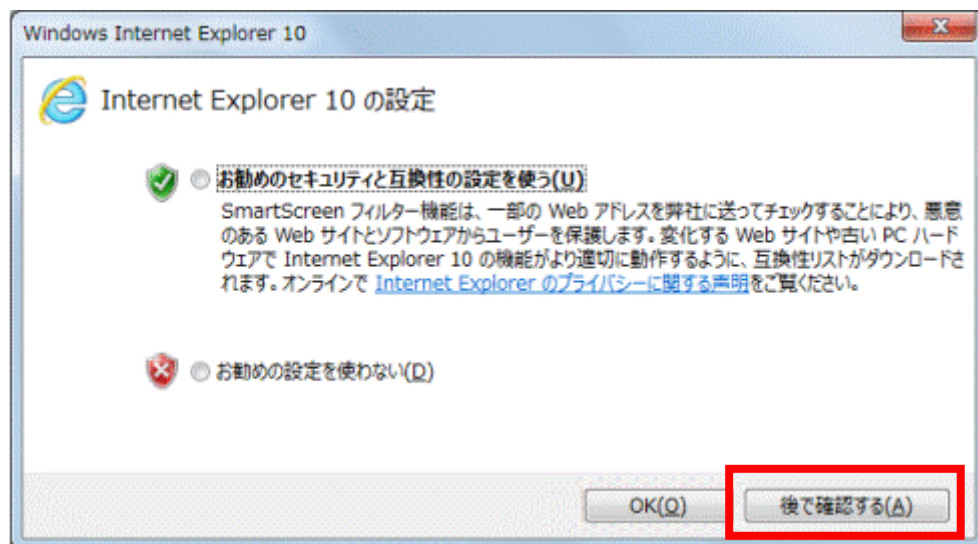
項番	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	作業用媒体 (一拠点集約化システム) (共通NW・介護)	<input type="checkbox"/>

1.3.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

1.3.4. Internet Explorer バージョン確認

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Internet Explorer」の順にクリックします。
- (2) 「Internet Explorer 10 の設定」もしくは「Internet Explorer 9 の設定」画面が表示された場合は「後で確認する」をクリックします。



- (3) 「Internet Explorer」画面が表示されましたら、キーボードの「Alt」キーを押下します。
- (4) メニューバーが表示されますので、「ヘルプ」→「バージョン情報」をクリックします。

- (5) 「Internet Explorer のバージョン情報」画面が表示されましたら、バージョンが下表の通りになっていることを確認し「閉じる」をクリックします。



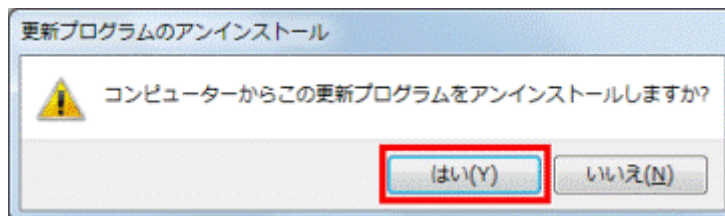
項番	確認内容	確認
1	バージョン :10.0～	<input type="checkbox"/>

※ Internet Explorer 9 がインストールされていた場合は、
「1.3.5.Internet Explorer 10 アンインストール」、「1.3.6.Internet Explorer 10
アンインストール確認」、「1.3.7.Internet Explorer 9 インストール手順」、「1.3.8.
Internet Explorer 9 インストール確認」手順は不要となりますので、飛ばしてく
ださい。

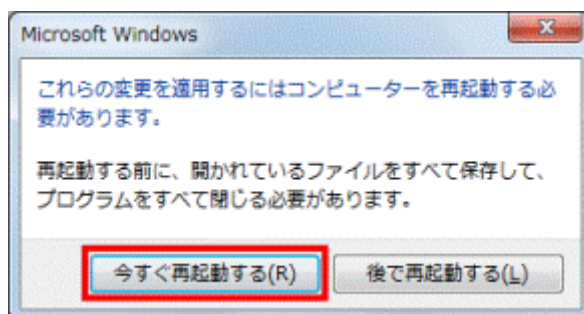
1.3.5. InternetExplorer10 アンインストール手順

※InternetExplorer11 のアンインストールも同様な手順となります。「10」を「11」と読み替えて実施してください。

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (3) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、左ペインより「インストールされた更新プログラム」をクリックします。
- (4) 「インストールされた更新プログラム」画面にて「Windows Internet Explorer 10」を選択し、右クリックより「アンインストール」をクリックします。
- (5) 「更新プログラムのアンインストール」画面が表示されますので、「OK」をクリックします。



- (6) 「これらの変更を適用するには～」画面が表示されましたら、「今すぐ再起動する」をクリックします。



1.3.6. InternetExplorer10 アンインストール確認

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「コントロールパネル」画面にて「プログラムと機能」をクリックします。
※「プログラムと機能」が存在しない場合は、「プログラム」をクリック後、「プログラムと機能」を選択します。
- (3) 「プログラムと機能」画面が表示されましたら、左ペインより「インストールされた更新プログラム」をクリックします。
- (4) 「インストールされた更新プログラム」画面が表示されましたら、右ペインの一覧より「Windows Internet Explorer 10」が存在しないことを確認します。

項番	確認項目	確認
1	「Windows Internet Explorer 10」が存在しないこと	<input type="checkbox"/>

- (5) 「インストールされた更新プログラム」画面を閉じます。

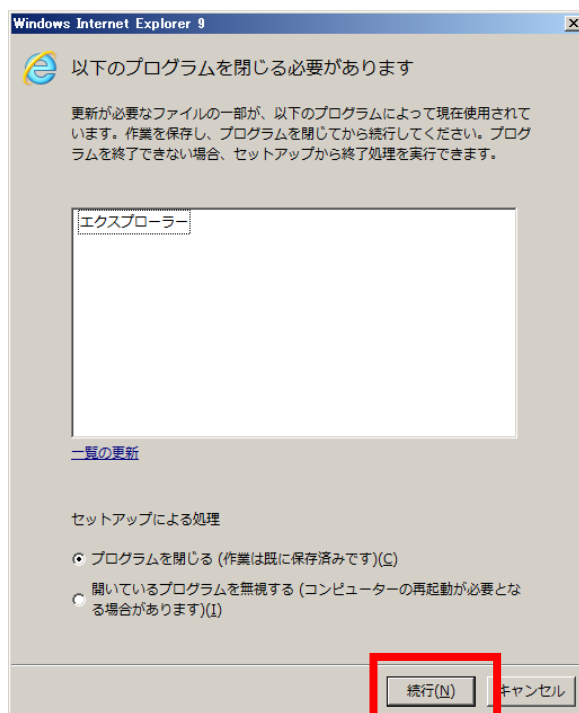
1.3.7. Internet Explorer 9 インストール手順

- (1) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を DVD ドライブに入れます。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示-エクスプローラーを使用」をクリックします。
- (3) 「E:\Microsoft\InternetExplorer9」フォルダ内の「IE9-Windows7-x64-jpn」ファイルを、右クリックより「コピー」を選択します。
- (4) デスクトップ上に、右クリックより「貼り付け」を選択します。
- (5) 貼り付けた「IE9-Windows7-x64-jpn」ファイルをダブルクリックします。
- (6) 「Internet Explorer 9 のインストール」画面が表示されましたら、「インストール」をクリックします。

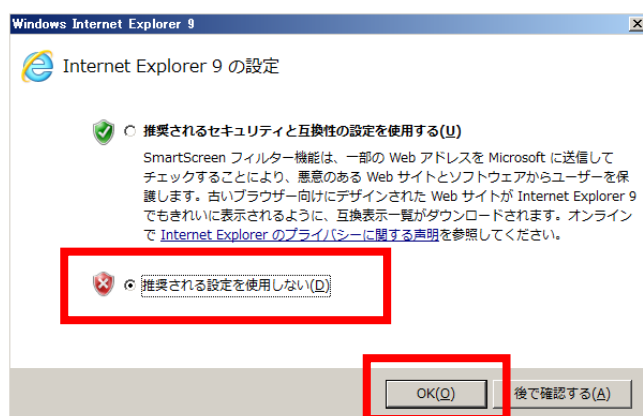
※再起動を促すメッセージが表示されましたら、再起動を行い、「1.3.8. Internet Explorer 9 インストール確認」を実施します。



- (7) 「以下のプログラムを閉じる必要があります」画面が表示されましたら、「続行」をクリックします。インストールが開始されます。



- (8) 「Internet Explorer 9 の設定」画面が表示されましたら、「推奨される設定を使用しない」にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



- (9) 表示されたブラウザを閉じます。
 (10) マシンを再起動します。

1.3.8. Internet Explorer 9 インストール確認

- (1) マシン起動後、「ユーザ名」を「XXXX」で「パスワード」に『パスワード一覧のローカル¥XXXXのパスワード』を入力し、ログインします。
(※XXXX は都道府県名 例：岡山県/OKAYAMA)
- (2) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「Internet Explorer」の順にクリックします。
- (3) 「Internet Explorer」画面が表示されましたら、キーボードの「Alt」キーを押下します。
- (4) メニューバーが表示されますので、「ヘルプ」→「バージョン情報」をクリックします。
- (5) 「Internet Explorer のバージョン情報」画面が表示されましたら、「バージョン」の欄が下表の通りになっていることを確認します。



項番	確認内容	確認
1	バージョン : 9.0.8112.16421	<input type="checkbox"/>

- (6) 「OK」をクリックします。
- (7) 「Internet Explorer」画面を閉じます。
- (8) デスクトップ上にコピーした「IE9-Windows7-x64-jpn」ファイルを、「Shift」キーを押しながら「Delete」キーを押下します。
- (9) 「ファイルの削除の確認」画面が表示されましたら、「はい」をクリックします。
- (10) DVD-ROM を DVD-ROM ドライブから取り出します。

1.4. JP1/Integrated Management - view 導入

1.4.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

1.4.2. 準備物

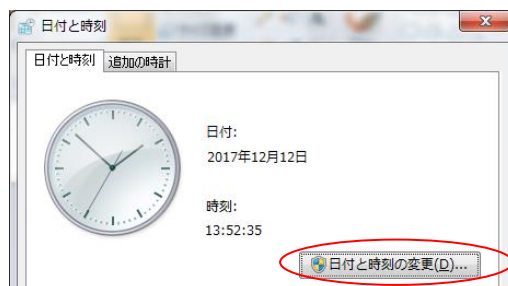
項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	PROGRAM PRODUCT 1/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体	<input type="checkbox"/>
2	DVD-ROM	作業用媒体 (一拠点集約化システム) (共通NW・介護)	<input type="checkbox"/>

1.4.3. 前提条件

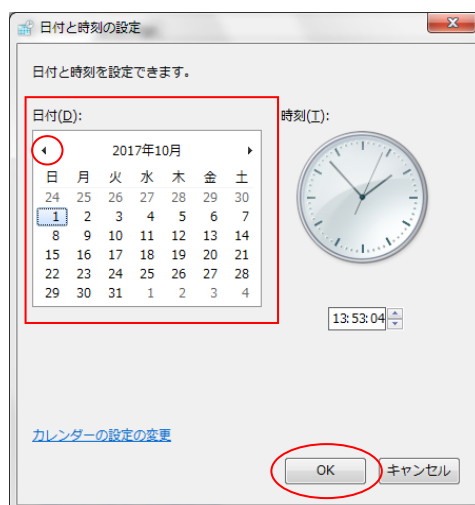
項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアントの日付が「2017/10/01」であること ※「1.4.5. AdobeAIR のインストール手順」を実行するために、 2017/10/30 以前に設定する必要があります 「1.4.4.時刻設定手順」にて設定方法について記載しています	<input type="checkbox"/>

1.4.4. 時刻設定手順

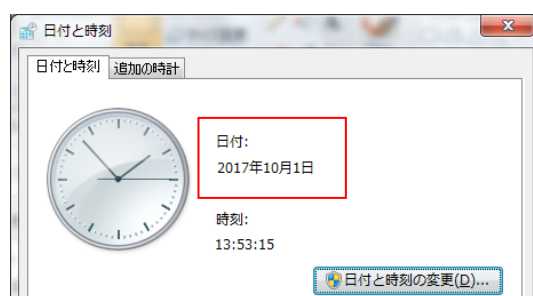
- (1) 画面右下の時刻をクリックし、「日付と時刻の設定の変更」を選択します。
- (2) 「日付と時刻」画面が表示されましたら、「日付と時刻の変更」をクリックします。



- (3) 「日付と時刻の変更」画面が表示されましたら、「◀」をクリックし「2017年10月1日」を指定し、「OK」を選択します。



- (4) 「日付と時刻」画面が表示されましたら、日付が「2017年10月1日」となっていることを確認します。



1.4.5. AdobeAIR のインストール手順

- (1) 「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
- (3) エクスプローラが表示されますので、「E:\¥adobe¥AdobeAIRInstaller」をダブルクリックします。
- (4) 「インストーラ設定」画面が表示されましたら、「同意する」をクリックします。
- (5) 「インストールが完了しました」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。
- (6) エクスプローラから「E:\¥adobe¥SettingsManager」をダブルクリックします。
- (7) 「アプリケーションのインストール」画面が表示されましたら、「インストール」をクリックします。

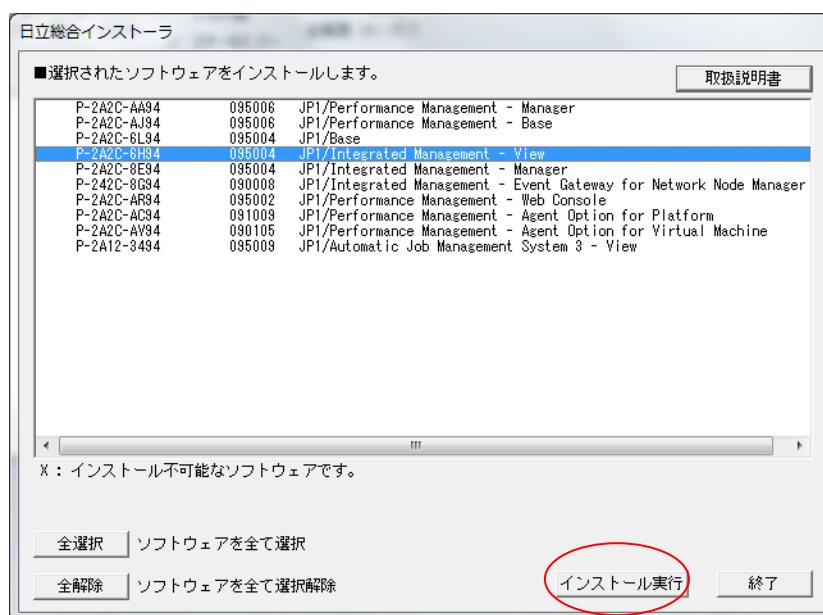
- (8) 「Adobe AIR 設定マネージャ」画面が表示されましたら、「ショートカットアイコンをデスクトップに追加」のチェックを外し、「インストール先」を下表のとおりを設定し、「続行」をクリックします。

設定項目	設定内容
インストール先	C:\¥Program Files (x86)

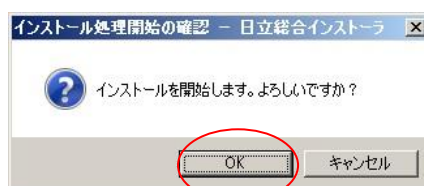
- (9) 「Adobe AIR 自動アップデート設定」画面が表示されますので、「アップデートを無効にする」をクリックします。
- (10) 「自動アップデート」が「無効」になっていることを確認し、画面右上の×をクリックし、画面を閉じます。
- (11) エクスプローラを閉じます。
- (12) DVD ドライブより「作業用媒体（一拠点集約化システム）（共通NW・介護）」DVD-ROM を取出します。

1.4.6. JP1/Integrated Management - view のインストール手順

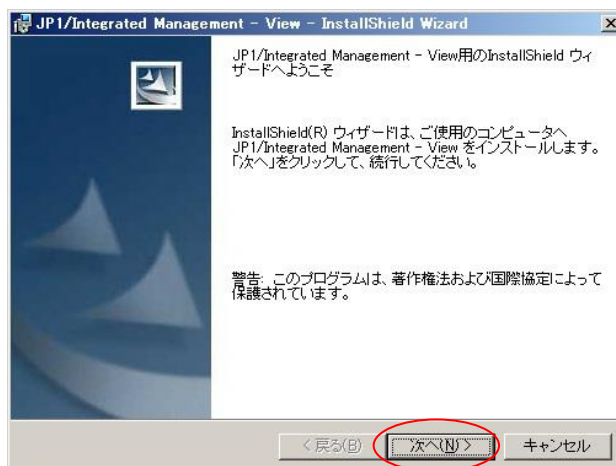
- (1) 「PROGRAM PRODUCT 1/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「HCD_INST.EXE の実行」をクリックします。
- (3) 「日立総合インストーラ」画面が表示されますので、「JP1/Integrated Management - View」を選択して、「インストール実行」をクリックします。



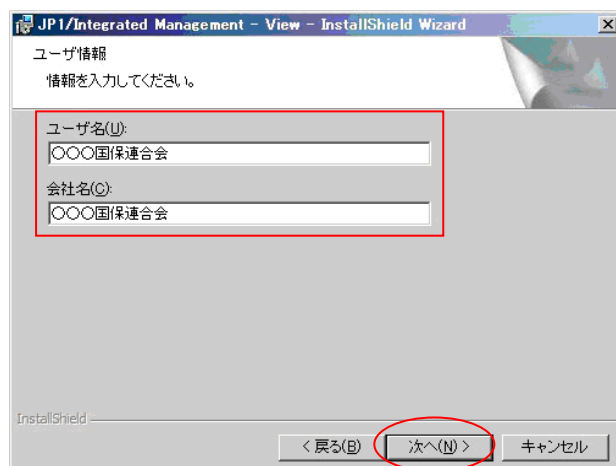
- (4) 「～よろしいですか?」と表示されましたら、「OK」をクリックします。



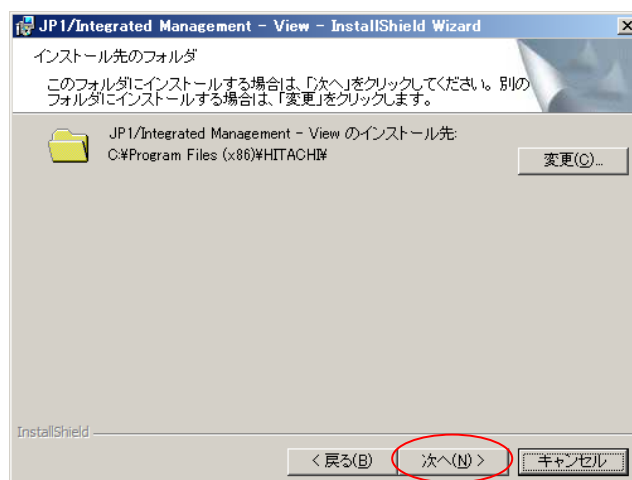
- (5) 「～ウィザードへようこそ」画面が表示されましたら、「次へ」をクリックします。



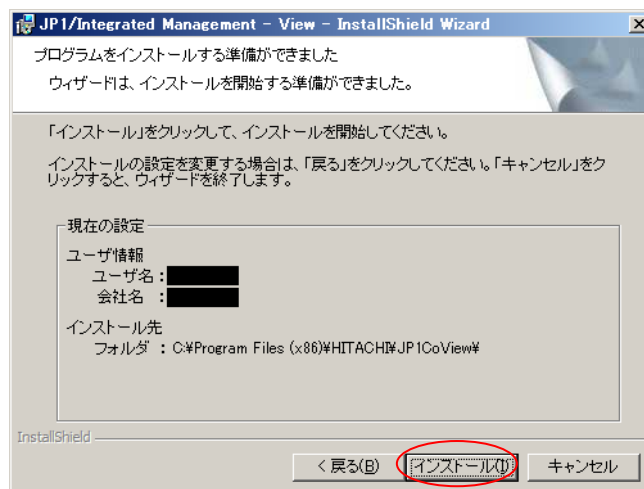
- (6) 「ユーザ情報」画面が表示されますので、ユーザ名と会社名を「〇〇〇国保連合会」と記載し、「次へ」をクリックします。（〇〇〇は自都道府県）



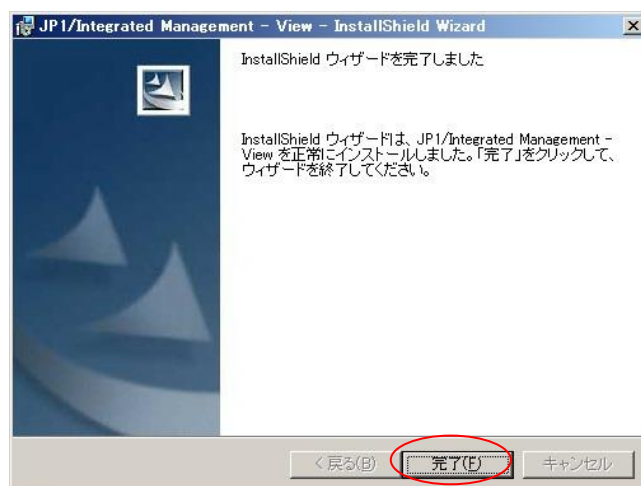
- (7) 「インストール先のフォルダ」画面が表示されますので、「～インストール先」が「C:¥Program Files(x86)¥HITACHI¥」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



- (8) インストール内容を確認して、「インストール」をクリックします。



- (9) 「完了」をクリックします。「～リポートを行いますか？」と表示されましたら、「はい」をクリックします。



- (10) マシン起動後、「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザとパスワードを入力し「OK」をクリックします。
- (11) 「スタート」を右クリックし、「エクスプローラーを開く」を選択します。
- (12) 下記のインストールフォルダが存在することを確認します。

確認項目	確認
C:\Program Files(x86)\HITACHI\JP1CoView フォルダが存在すること	<input type="checkbox"/>

- (13) 「PROGRAM PRODUCT 1/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を取り出します。

1.5. JP1/AutomaticJobManagementSystem3 UserJobOperation-Definer 導入

1.5.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

1.5.2. 準備物

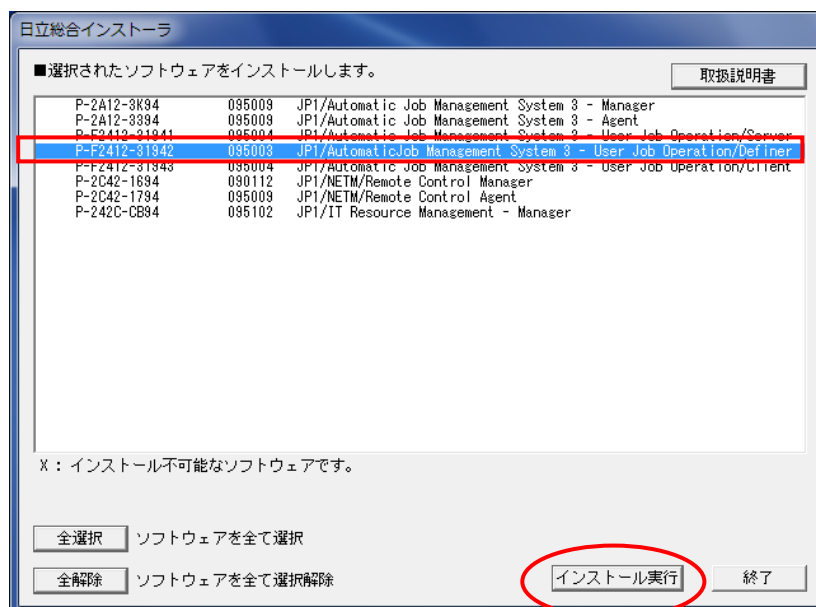
項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	PROGRAM PRODUCT 2/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体	<input type="checkbox"/>

1.5.3. 前提条件

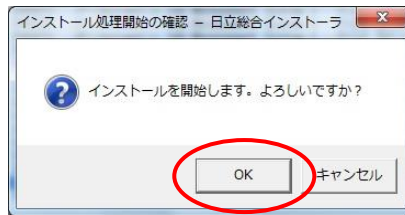
項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアントの日付が「2017/10/01」であること ※「1.5.4. JP1/AJS3 UserJobOperation-Definer のインストール手順」を完了させるために、2017/10/30 以前に設定する必要があります 「1.4.4.時刻設定手順」にて設定方法について記載しています	<input type="checkbox"/>

1.5.4. JP1/AJS3 UserJobOperation-Definer のインストール手順

- (1) 「PROGRAM PRODUCT 2/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「HCD_INST.EXE の実行」をクリックします。
- (3) 「日立総合インストーラ」画面が表示されますので、「JP1/Automatic Job Management System 3 – User Job Operation/Definer」を選択し、「インストール実行」をクリックします。



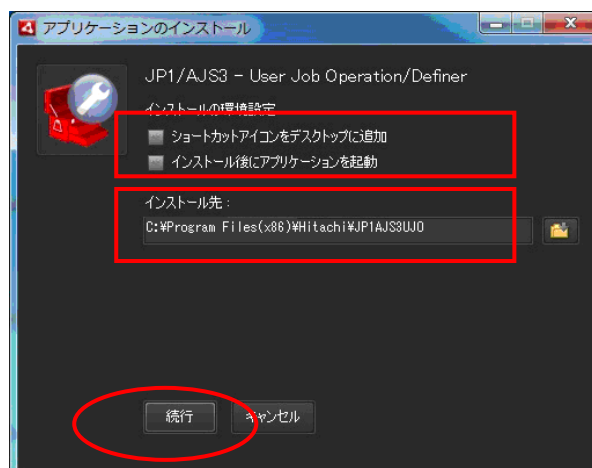
- (4) 「～よろしいですか?」と表示されましたら、「OK」をクリックします。



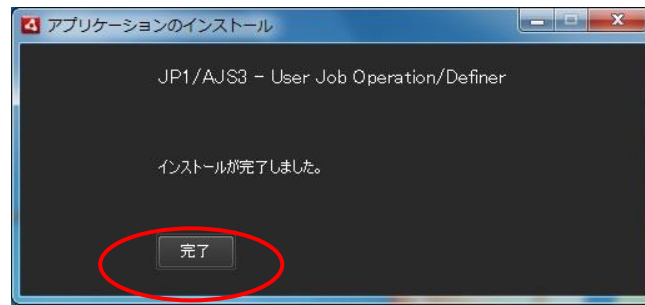
- (5) 「アプリケーションのインストール」画面が表示されますので、「インストール」をクリックします。



- (6) 「インストールの環境設定」のチェックボックスをすべて外し、インストール先に「C:\Program Files(x86)\Hitachi\JP1AJS3UJO」と表示されていることを確認し、「続行」をクリックします。



- (7) 「インストールが完了しました」と表示されましたら、「完了」をクリックします。



- (8) 「日立総合インストーラ」画面にて、「終了」をクリックします。
- (9) 「総合インストーラを終了してもよろしいですか？」メッセージが表示されましたら、「OK」をクリックします。
- (10) DVD ドライブより「PROGRAM PRODUCT 2/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を取出します。
- (11) マシンを再起動します。
- (12) マシン起動後、「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザとパスワードを入力し「OK」をクリックします。
- (13) 「スタート」を右クリックし、「エクスプローラーを開く」を選択します。
- (14) 下記インストールフォルダが存在することを確認します。

確認項目	確認
C:\Program Files(x86)\HITACHI\JP1AJS3UJO\JP1_AJS3 - UJO_Definer フォルダが存在すること	<input type="checkbox"/>

1.6. JP1/AutomaticJobManagementSystem3 – UserJobOperation-Client 導入

1.6.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	15 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	15 分	<input type="checkbox"/>

1.6.2. 準備物

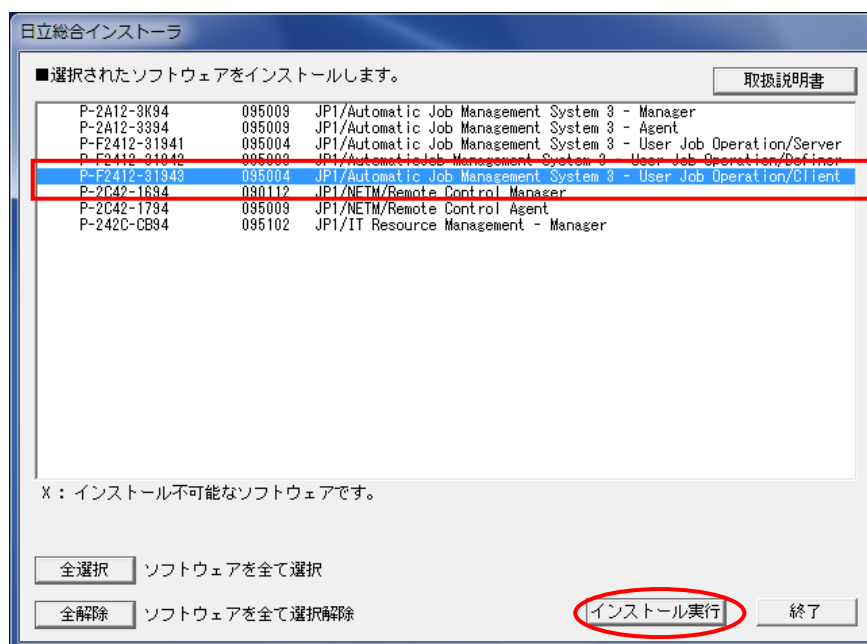
項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	JP1 インストール媒体 (日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体 PROGRAM PRODUCT 2/2)	<input type="checkbox"/>

1.6.3. 前提条件

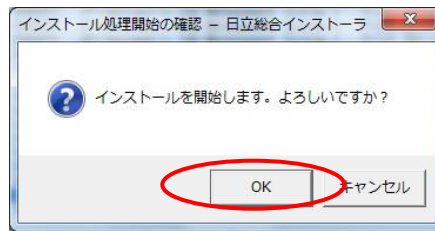
項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアントの日付が「2017/10/01」であること ※「1.6.4. JP1/AJS3-UserJobOperation-Client のインストール手順」を完了させるために、2017/10/30 以前に設定する必要があります 「1.4.4.時刻設定手順」にて設定方法について記載しています	<input type="checkbox"/>

1.6.4. JP1/AJS3-UserJobOperation-Client のインストール手順

- (1) 「JP1 インストール媒体」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「HCD_INST.EXE の実行」をクリックします。
- (3) 「日立総合インストーラ」画面が表示されますので、「JP1/Automatic Job Management System 3 – User Job Operation/Client」を選択し、「インストール実行」をクリックします。



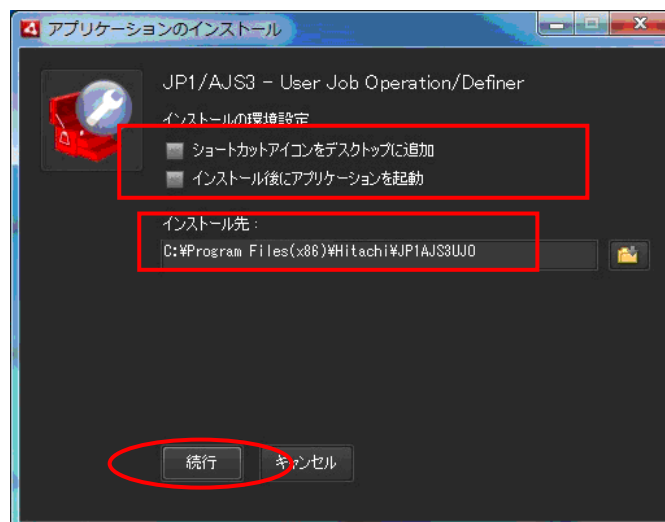
- (4) 「～よろしいですか?」と表示されましたら、「OK」をクリックしてください。



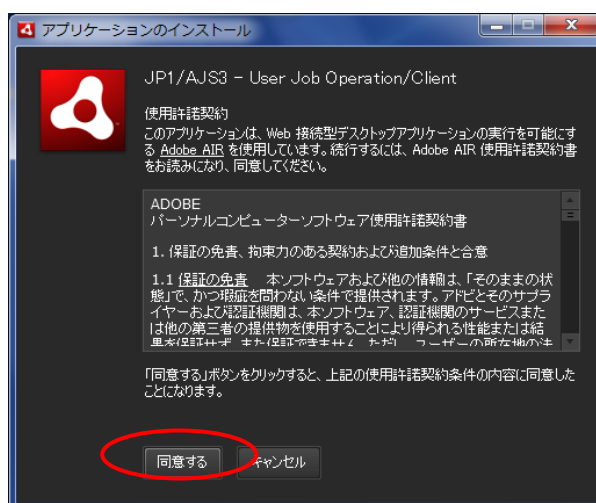
- (5) 「アプリケーションのインストール」画面が表示されますので、「インストール」をクリックします。



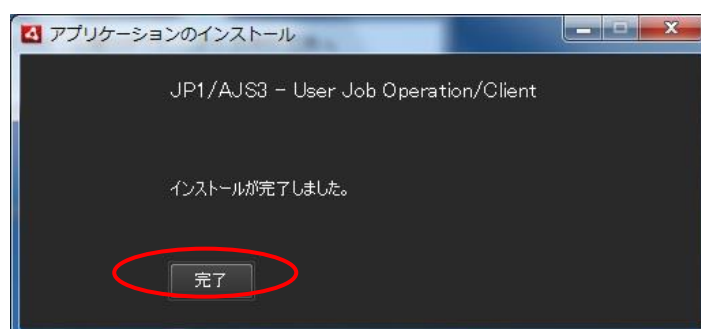
- (6) 「インストールの環境設定」のチェックボックスをすべて外し、インストール先に「C:\Program Files(x86)\Hitachi\JP1AJS3UJO」と表示されていることを確認し、「続行」をクリックします。



- (7) 「使用許諾契約」画面が表示された場合、「同意する」をクリックします。
表示されない場合は、次の手順に進みます。



- (8) 「インストールが完了しました」と表示されましたら、「完了」をクリックします。



- (9) 「日立総合インストーラ」画面にて、「終了」をクリックします。
(10) 「総合インストーラを終了してもよろしいですか？」メッセージが表示されましたら、「OK」をクリックします。
(11) DVD ドライブより「JP1 インストール媒体」を取出します。
(12) マシンを再起動します。
(13) マシン起動後、「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザとパスワードを入力し「OK」をクリックします。
(14) 「スタート」を右クリックし、「エクスプローラーを開く」を選択します。
(15) 下記インストールフォルダが存在することを確認します。

確認項目	確認
C:\Program Files(x86)\HITACHI\JP1AJS3UJO\JP1_AJS3 - UJO_Client フォルダが存在すること	<input type="checkbox"/>

1.7. JP1/Automatic Job Management System 3 –View 導入

1.7.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	15 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	15 分	<input type="checkbox"/>

1.7.2. 準備物

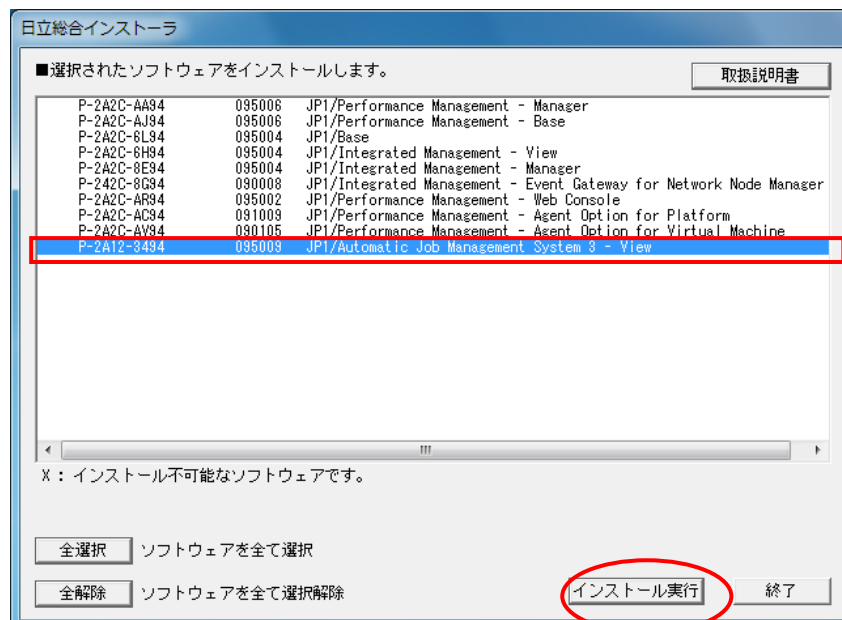
項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	PROGRAM PRODUCT 1/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体	<input type="checkbox"/>

1.7.3. 前提条件

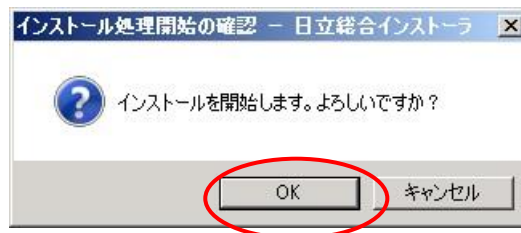
項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

1.7.4. JP1/AJS3 – View のインストール手順

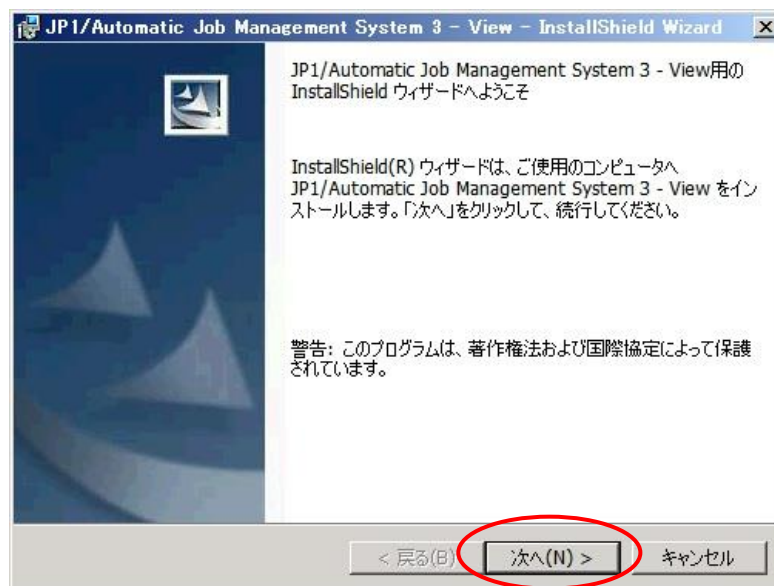
- (1) 「PROGRAM PRODUCT 1/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「HCD_INST.EXE の実行」をクリックします。
- (3) 「日立総合インストーラ」画面が表示されますので、「JP1/Automatic Job Management System 3 – View」を選択し、「インストール実行」をクリックします。



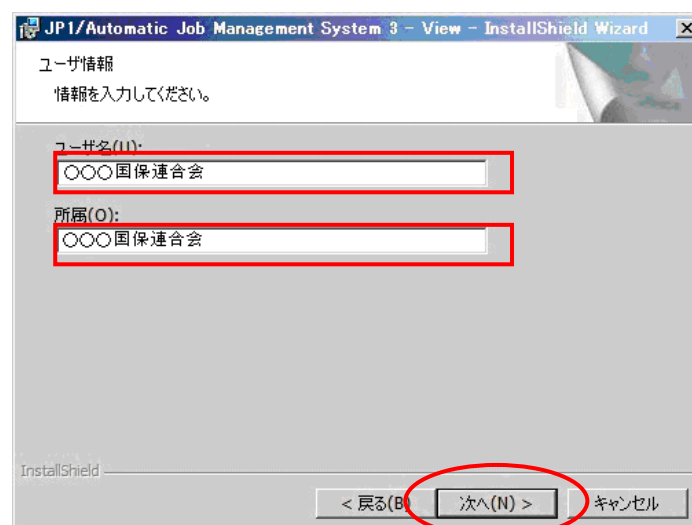
- (4) 「～よろしいですか?」と表示されましたら、「OK」をクリックしてください。



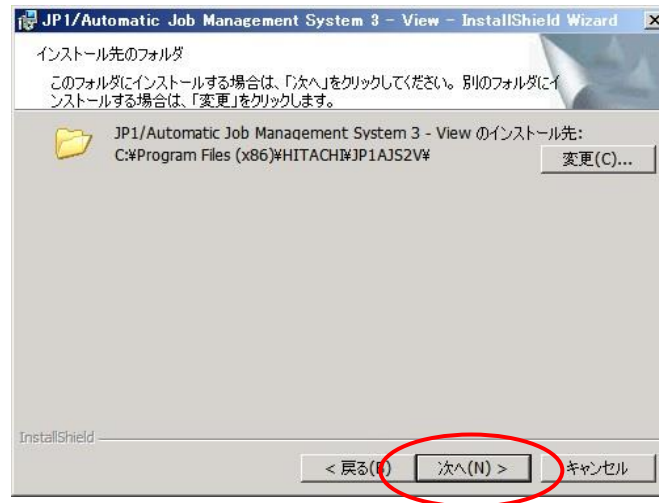
- (5) 「JP1/Automatic Job Management System 3 - View 用の InstallShield ウィザードへようこそ」と表示されますので、「次へ」をクリックします。



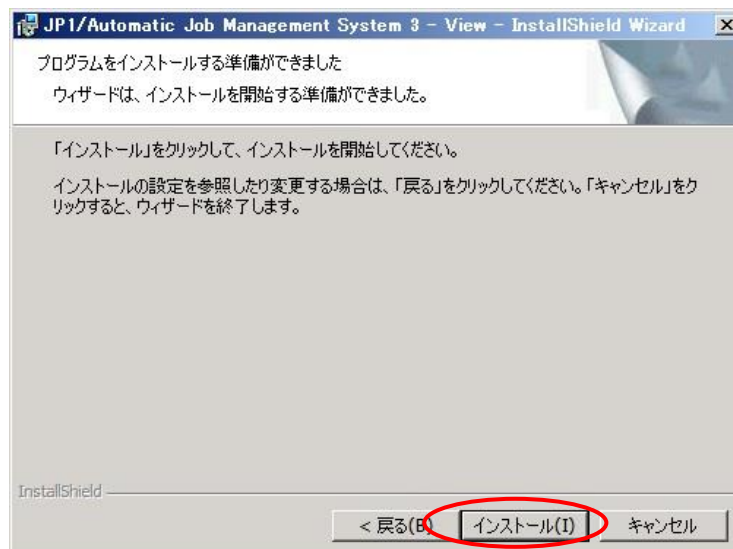
- (6) 「ユーザ情報」画面が表示されますので、ユーザ名と所属に「〇〇〇国保連合会」と入力し、「次へ(N)>」をクリックします。（〇〇〇は自都道府県）



- (7) インストール先のフォルダ」画面が表示されますので、インストール先に「C:\Program Files(x86)\HITACHI\JP1AJS2V」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



- (8) 「プログラムをインストールする準備ができました」画面が表示されますので、「インストール」をクリックします。



- (9) 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されましたら、「完了(F)」をクリックします。



- (10) 「日立総合インストーラ」画面にて、「終了」をクリックします。
- (11) 「総合インストーラを終了してもよろしいですか？」メッセージが表示されましたら、「OK」をクリックします。
- (12) DVD ドライブより「PROGRAM PRODUCT 1/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を取出します。
- (13) マシンを再起動します。
- (14) マシン起動後、「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザとパスワードを入力し「OK」をクリックします。
- (15) 「スタート」を右クリックし、「エクスプローラーを開く」を選択します。
- (16) 下記インストールフォルダが存在することを確認します。

項番	確認項目	確認
1	C:\Program Files(x86)\HITACHI\JP1AJS2V フォルダが存在すること	<input type="checkbox"/>

1.8. JP1/NETM Remote Control - Manager 導入

1.8.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

1.8.2. 準備物

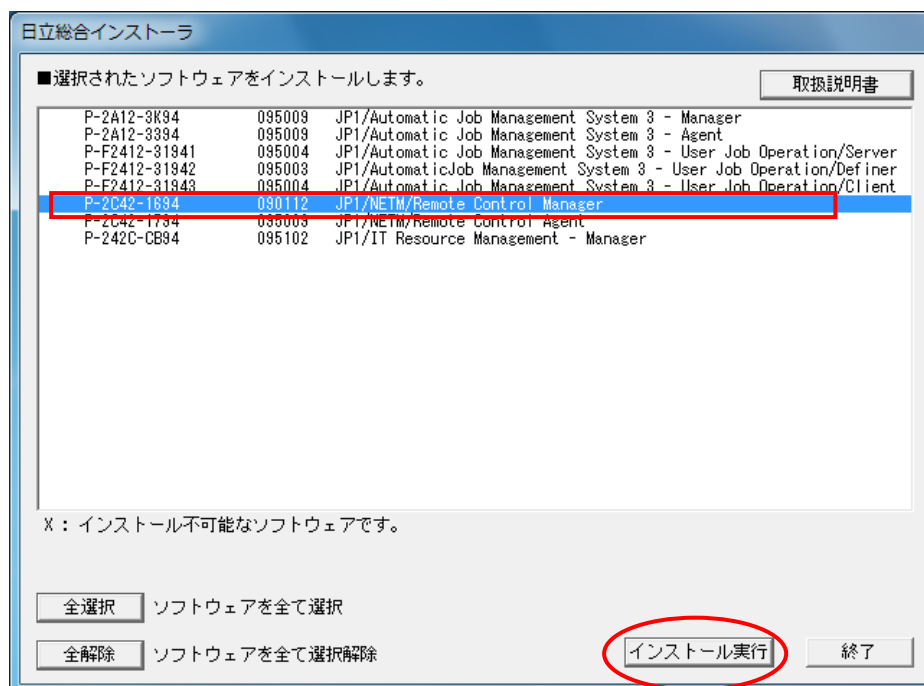
項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	PROGRAM PRODUCT 2/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体	<input type="checkbox"/>
2	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>

1.8.3. 前提条件

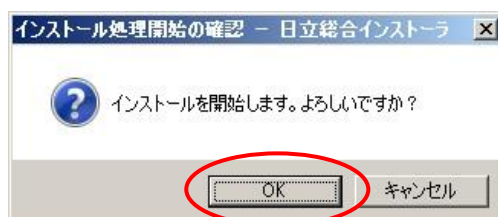
項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

1.8.4. JP1/NETM Remote Control – Manager のインストール手順

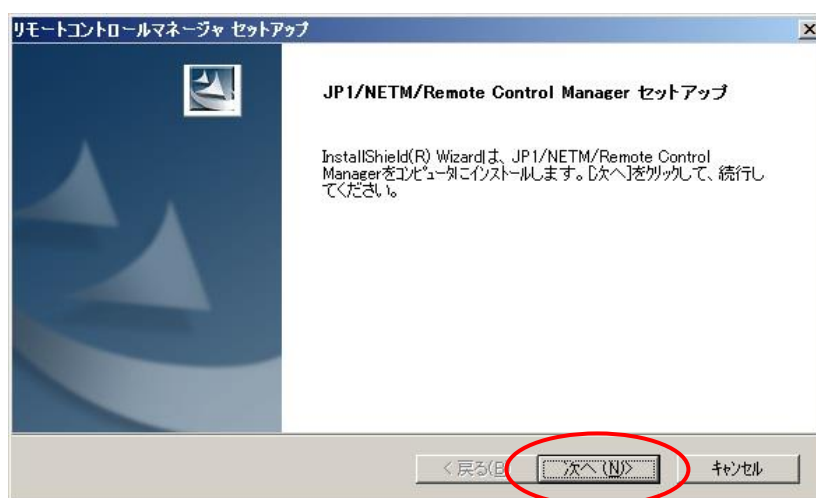
- (1) 「PROGRAM PRODUCT 2/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を DVD ドライブにセットします。
- (2) 「自動再生」画面が表示されますので、「HCD_INST.EXE の実行」をクリックします。
「日立総合インストーラ」画面が表示されますので、「JP1/NETM Remote Control – Manager」を選択し、「インストール実行」をクリックします。



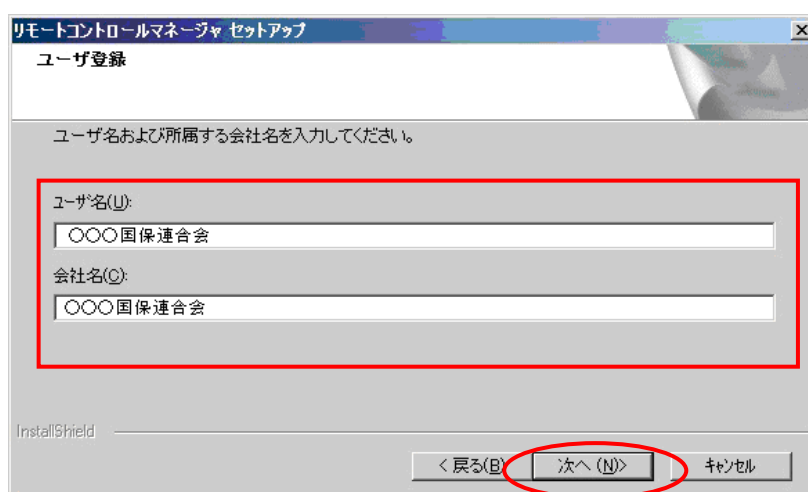
- (3) 「～よろしいですか?」と表示されましたら、「OK」をクリックしてください。



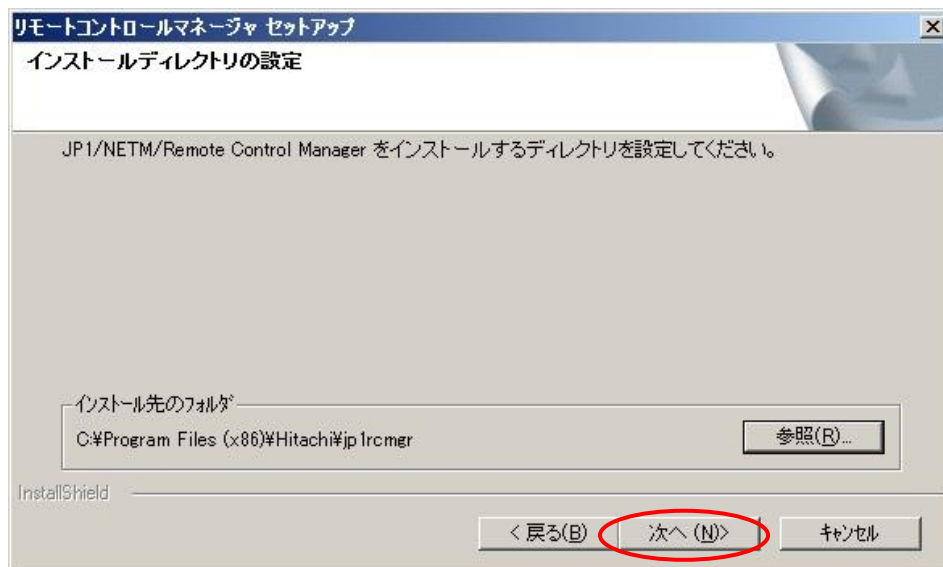
- (4) 「リモートコントロールマネージャセットアップ」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



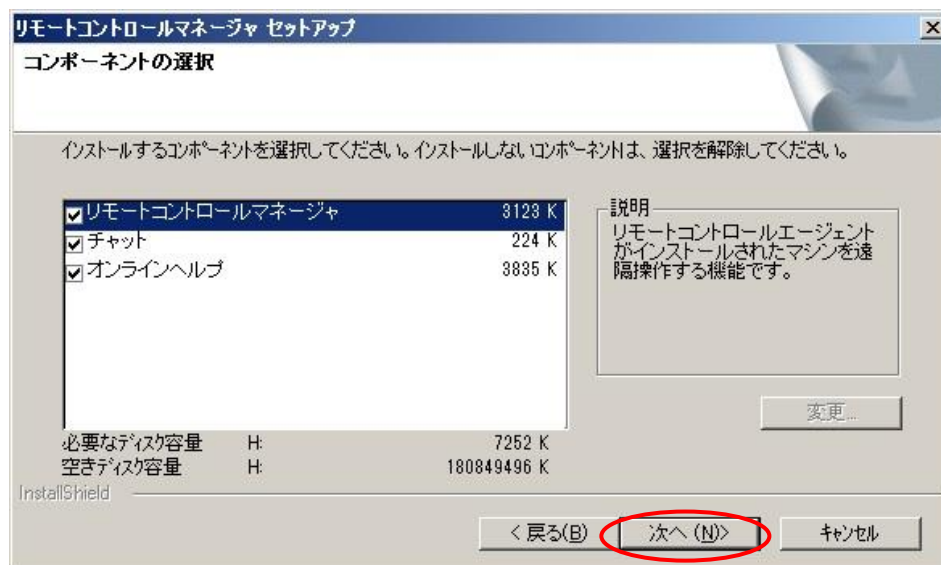
- (5) 「ユーザ登録」画面が表示されましたら、ユーザ名、会社名に『〇〇〇国保連合会』と入力して「次へ」をクリックします。
(〇〇〇は自都道府県)



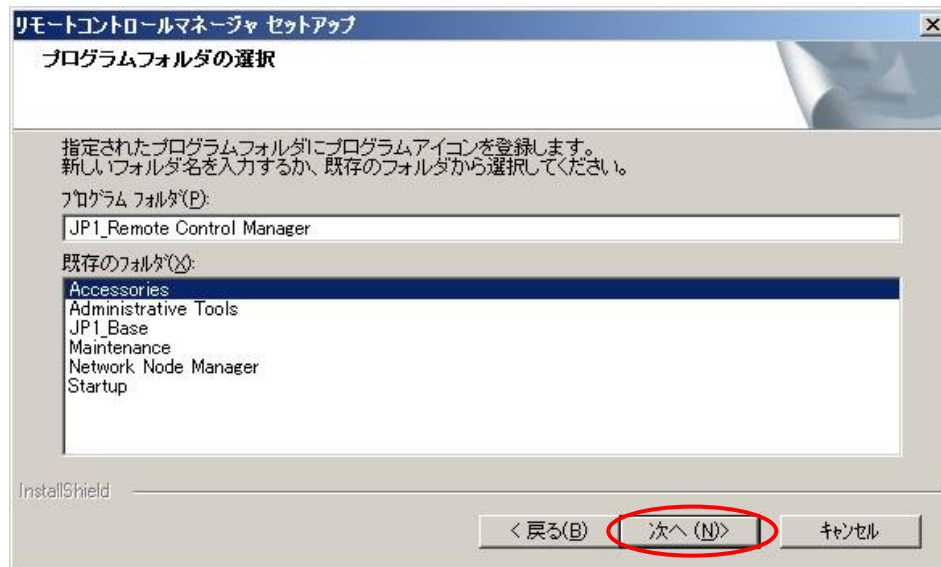
- (6) インストール先のフォルダ」画面が表示されますので、インストール先に「C:\Program Files(x86)\Hitachi\jp1rcmgr」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



- (7) 「コンポーネントの選択」画面が表示されましたら、「次へ」をクリックします。

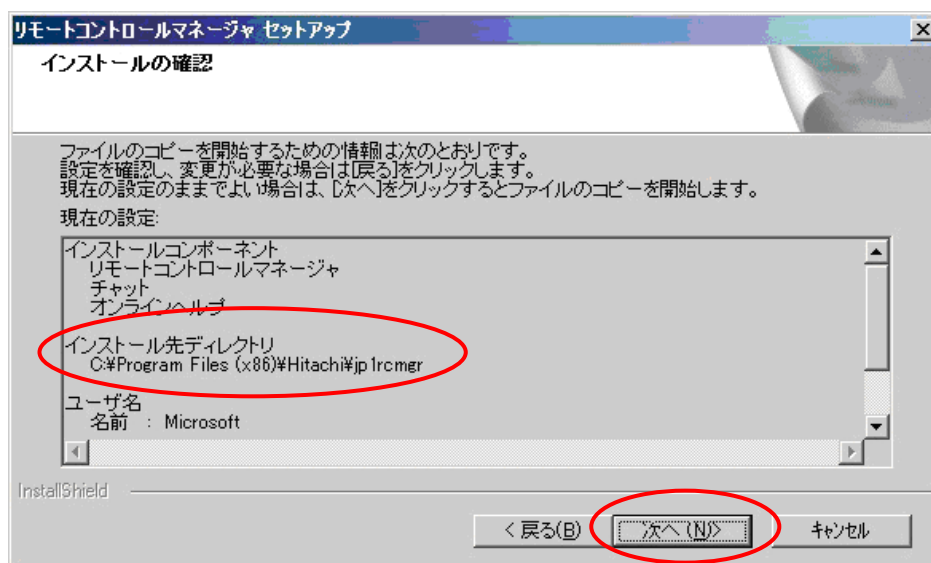


- (8) 「プログラムフォルダの選択」画面が表示されましたら、「次へ」をクリックします。

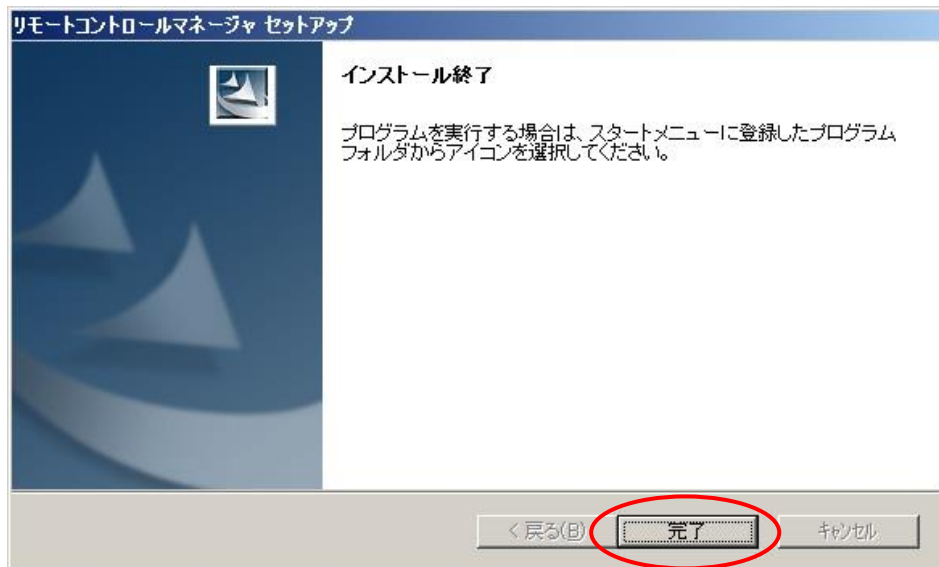


- (9) 「インストールの確認」画面が表示されましたら、以下の内容を確認してから「次へ」をクリックしますと、インストールが開始します。

確認項目	確認内容	確認
インストール先ディレクトリ	C:\Program Files(x86)\Hitachi\jp1rcmgr	<input type="checkbox"/>



- (10) 「インストール完了」画面が表示されましたら、「完了」をクリックします。



- (11) 「日立総合インストーラ」画面にて、「終了」をクリックします。
- (12) 「総合インストーラを終了してもよろしいですか？」メッセージが表示されましたら、「OK」をクリックします。
- (13) DVD ドライブより「PROGRAM PRODUCT 2/2 日立オープンミドルウェア CD-ROM 提供媒体」を取出します。

1.8.5. JP1/NETM Remote Control – Manager のインストール確認

- (1) 「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1 Remote Control Manager」がインストールされていることを確認します。

確認項目	確認
「スタート」→「すべてのプログラム」→「JP1 Remote Control Manager」→「エージェントマネージャ」、「チャット」、「リモートコントロールマネージャ」がインストールされていること	<input type="checkbox"/>



1.9.情報漏えい対策ソフト（SKYSEA）導入

1.9.1. 対象マシン／作業予定時間

No	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	約 30 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント（VT 系）	約 30 分	<input type="checkbox"/>

1.9.2. 準備物

No	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	SKYSEA client view インストールディスク ※SKYSEA のマニュアルと同じ段ボール箱に同梱されています。	<input type="checkbox"/>
2	DVD-ROM	構築作業用媒体 ※平成 28 年度システム導入関連情報（H28 システム導入-017-0921）で送付	<input type="checkbox"/>

1.9.3. 前提条件

No	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

1.9.4. 留意事項

- ・ 情報漏えい対策ソフト (SKYSEA) の制約事項により、インストール開始前に一時的に Windows ファイアウォールを有効にします。（インストール後に無効の状態に戻します）
- ・ 本手順を実施後、クライアントに USB 接続機器等を接続すると以下のウィンドウが表示されるようになりますが動作上の影響はありません。

The screenshot shows the 'SKYSEA Client View' window. At the top, a message states: '未登録のUSBメモリ/USBハードディスクです。管理台帳への登録を行いました。' (This is an unregistered USB memory/USB hard disk. Registration to the management ledger has been completed). Below this, there are two sections: '管理情報' (Management Information) and '登録情報' (Registration Information). The '管理情報' section includes fields for '管理番号' (3), '管理部署' (ネットワーク全体/所属未定), '管理状態' (使用不可能), 'ステータス' (-), '管理ユーザー' (Administrator), and '表示名'. The '登録情報' section includes fields for 'デバイス種別' (USBメモリ/USBハードディスク), '登録日' (2016/07/22), '登録先' (I/O DATA), 'デバイス名' (I-O DATA EasyDisk Secure3 USB Device), 'ベンダID' (04BB), 'プロダクトID' (0CA0), 'シリアルNo' (070007C70B081C7428F8), and '説明'. At the bottom, there are four buttons: '前へ', '次へ', 'USBデバイスを確認する', and '閉じる'.

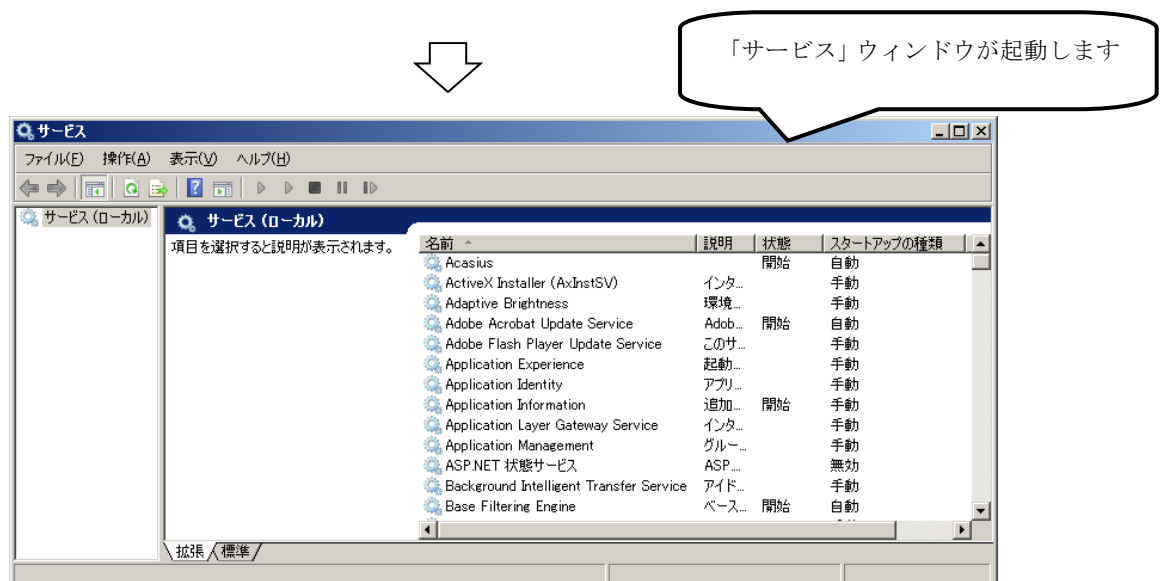
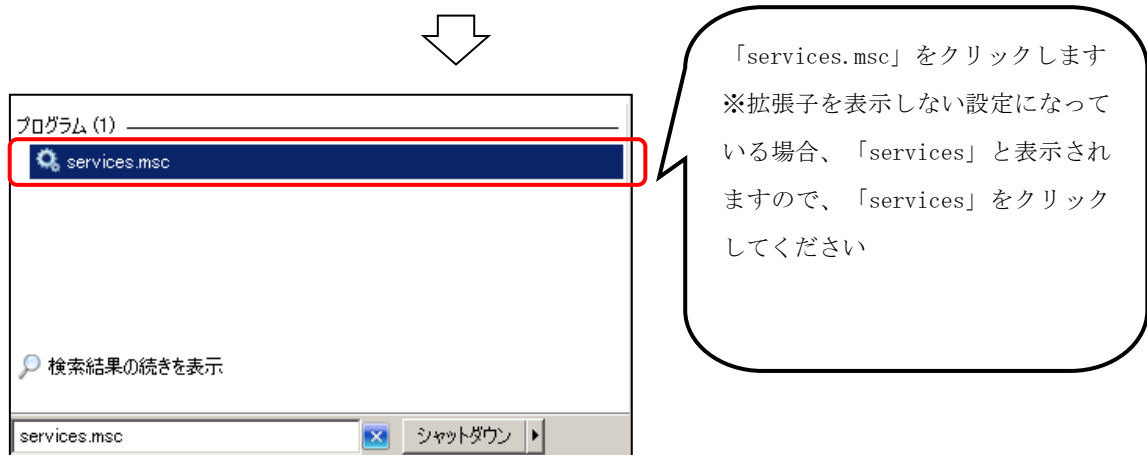
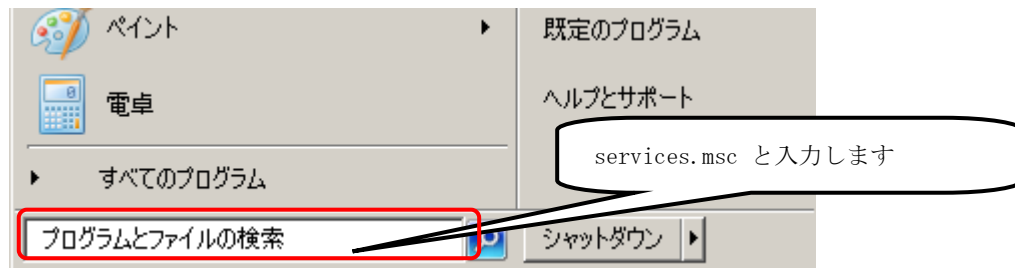
管理情報	
管理番号	3
管理部署	ネットワーク全体/所属未定
管理状態	使用不可能
ステータス	-
管理ユーザー	Administrator
表示名	

登録情報	
デバイス種別	USBメモリ/USBハードディスク
登録日	2016/07/22
登録先	I/O DATA
デバイス名	I-O DATA EasyDisk Secure3 USB Device
ベンダID	04BB
プロダクトID	0CA0
シリアルNo	070007C70B081C7428F8
説明	

前へ 次へ USBデバイスを確認する 閉じる

1.9.5. Windows ファイアウォールの有効化

- (1) 「スタート」をクリックした後、「プログラムとファイルの検索」に”services.msc”を入力し、「サービス」を起動します。

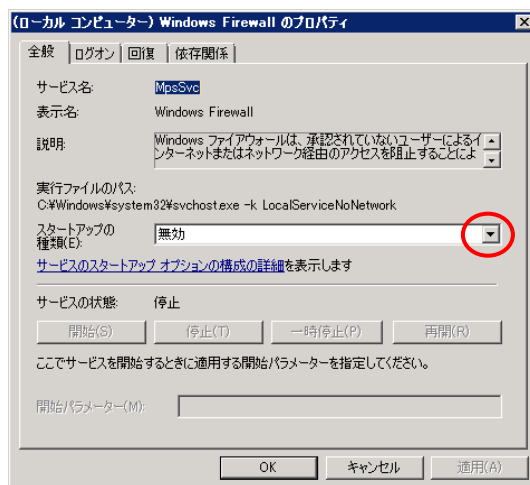


- (2) 「スクロールバー」をスライドさせ、名前が「Windows Firewall」のサービスを見つけます。

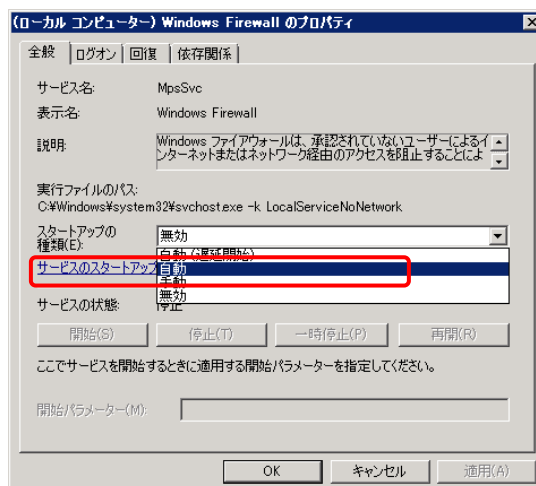
※「Windows Firewall」の「状態」が「開始」となっている場合、本章の作業は不要ですので、「1.9.6.SKYSEA のインストール」に進んでください。

- (3) 「Windows Firewall」の部分をダブルクリックしてください。

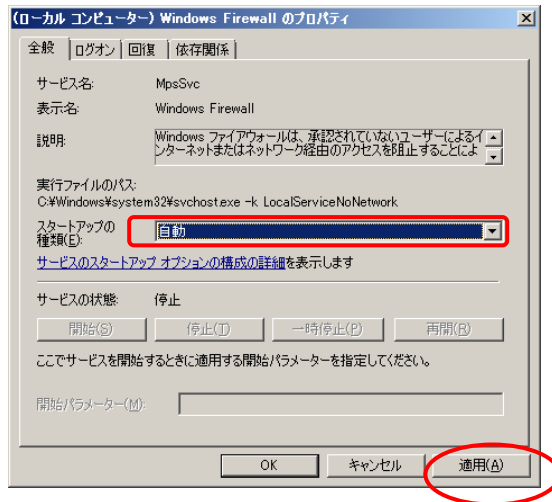
- (4) 「Windows Firewall のプロパティ」ウィンドウが表示されますので、「スタートアップの種類(E)」の「▼」をクリックします。



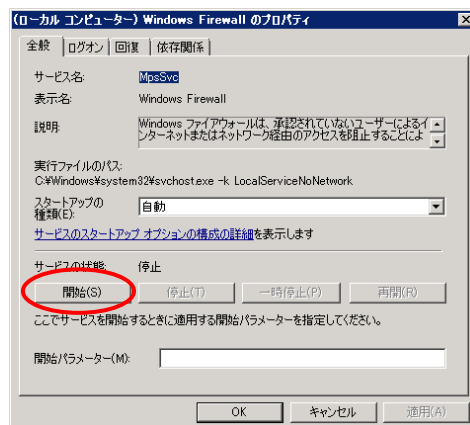
- (5) 「リスト」から「自動」を選択します。



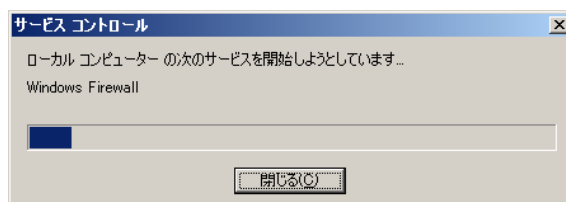
- (6) 「スタートアップの種類(E)」が「自動」になっていることを確認し、「適用(A)」をクリックします。



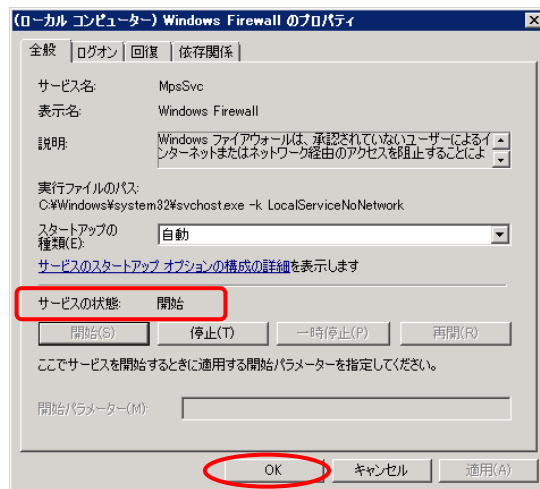
- (7) 「開始(S)」ボタンをクリックします。



- (8) サービスが開始されます。



- (9) 「サービスの状態」が「開始」になっていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

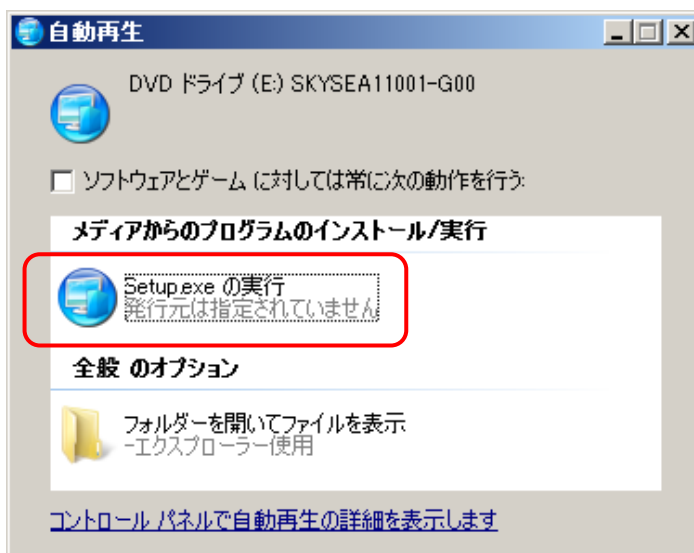


- (10) 「サービス」ウィンドウを閉じます。

1.9.6. SKYSEA のインストール

- (1) DVD ドライブに「SKYSEA client view インストールディスク」DVD-ROM をセット後、Setup.exe を実行します。

自動再生ポップアップウィンドウが表示されます。



※自動再生が動作しない場合、手動でエクスプローラを起動して、DVD 内のフォルダを表示し、「Setup.exe」を実行してください。

- (2) 表示された「SKYSEA Client View インストーラー」ウィンドウより、「端末機」をクリックします。



- (3) 「SKYSEA Client View」ウィンドウが表示されますので、下表のとおりに変更します。



下表のサーバー名/IP アドレスを参照してください

設定項目	設定内容	確認
データの保存パス	C:\ProgramData\Sky Product\SKYSEA Client View	<input type="checkbox"/>
サーバー名/IP アドレス	10.xx.41.32 ”xx：都道府県番号”	<input type="checkbox"/>
ポート番号	52300（既定値）	<input type="checkbox"/>

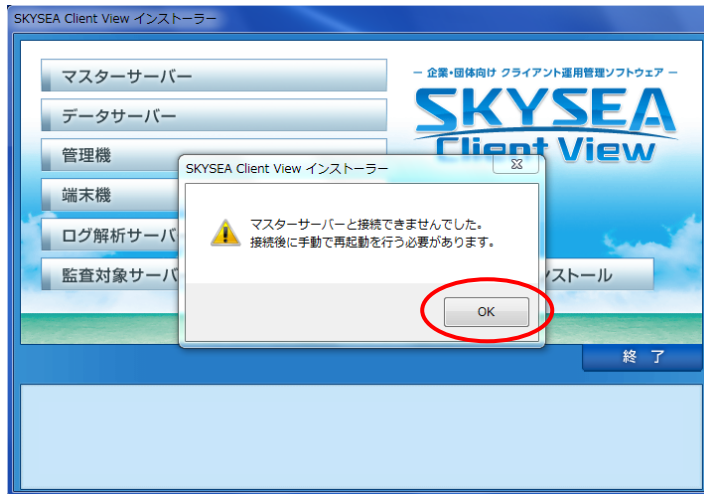
- (4) 「インストール」 ボタンをクリックします。



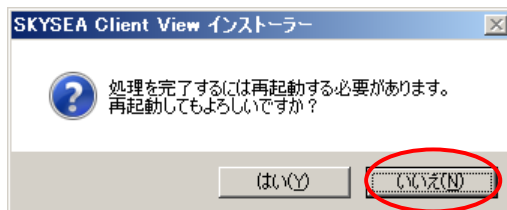
- (5) 「端末機のインストール中」ウィンドウが表示されますので、インストールが完了するまで、しばらくお待ちください。



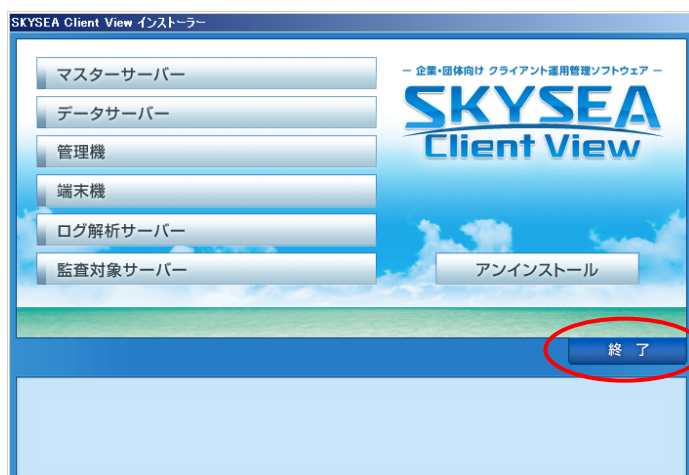
- (6) 「マスターサーバーと接続できませんでした。～」と表示されましたら、「OK」をクリックします。（以降の項目「1.11.ネットワーク環境設定」を実施しますと自動的にマスターサーバーと接続するため、問題ございません。）



- (7) インストールが完了すると再起動を要求されますので、「いいえ(N)」ボタンをクリックします。



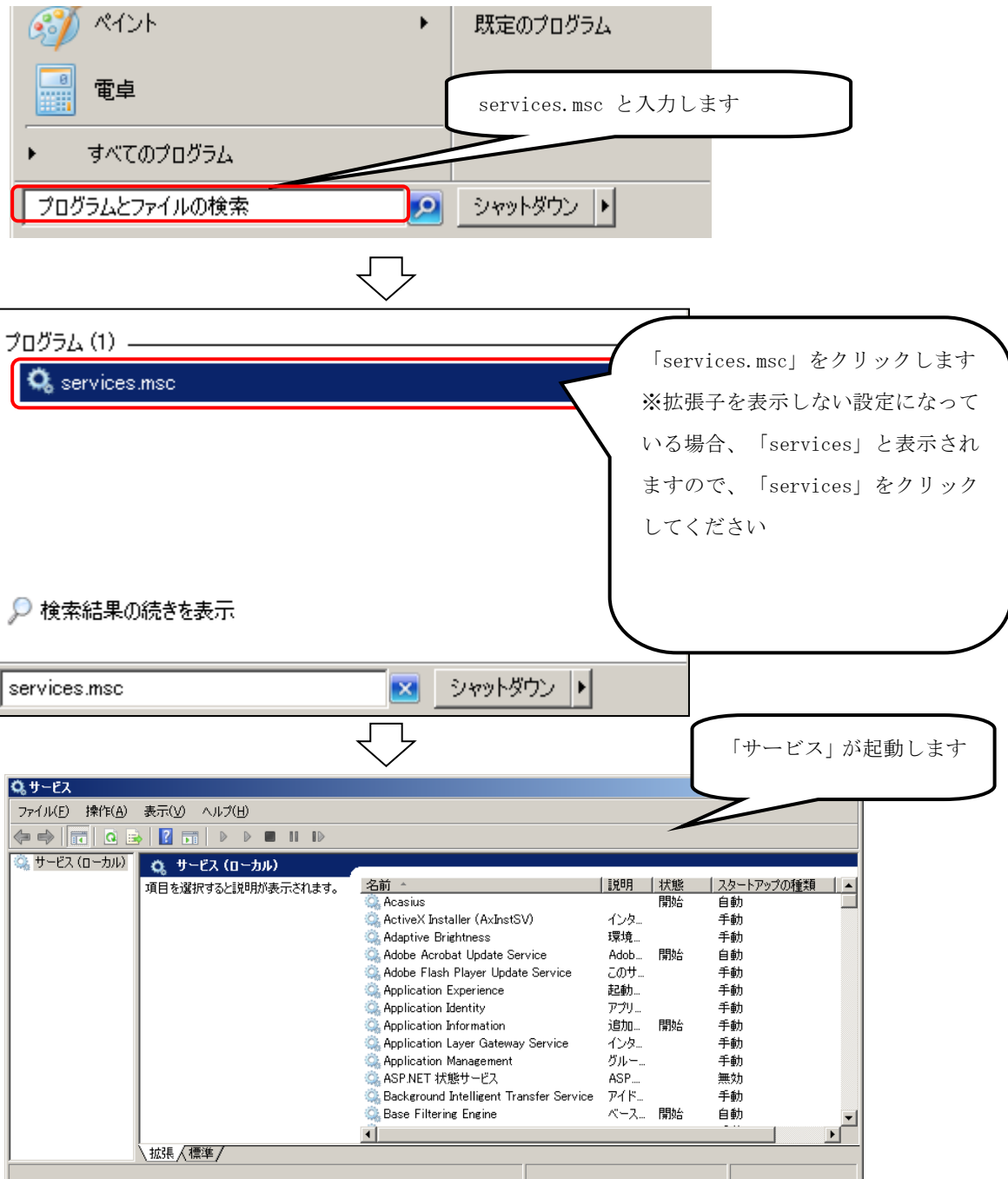
- (8) SKYSEA Client View インストーラーを終了します。



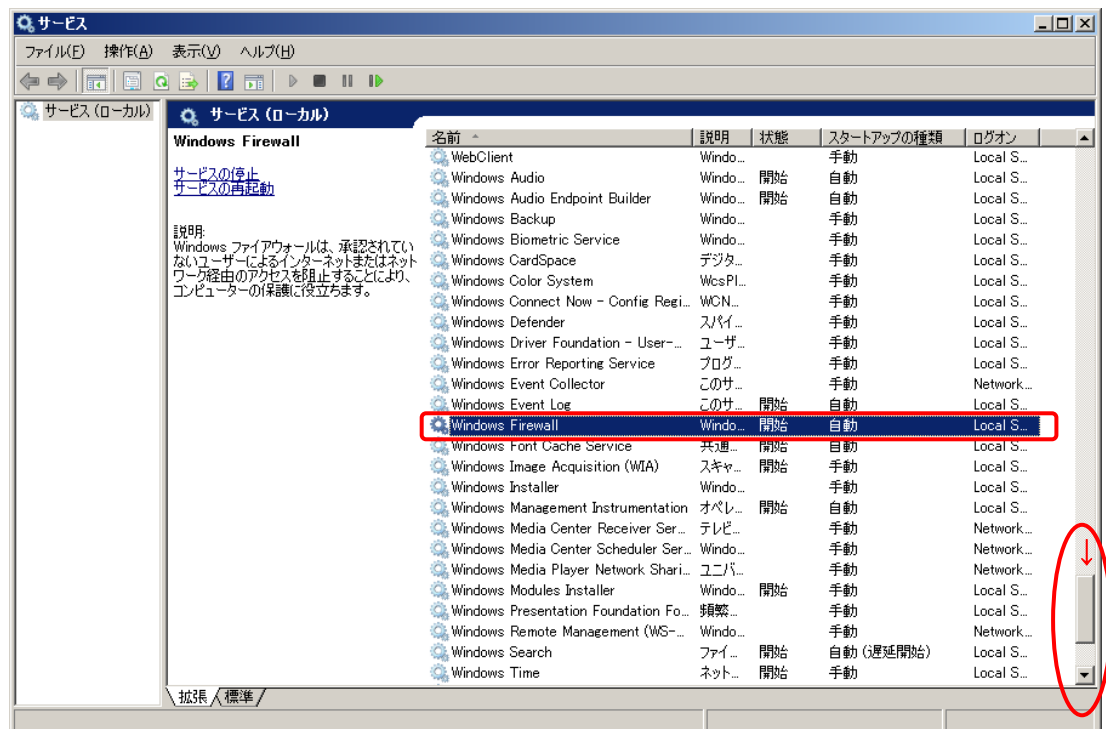
- (9) DVD ドライブのイジェクトボタンを押して、インストール媒体を取出します。

1.9.7. Windows ファイアウォールの無効化

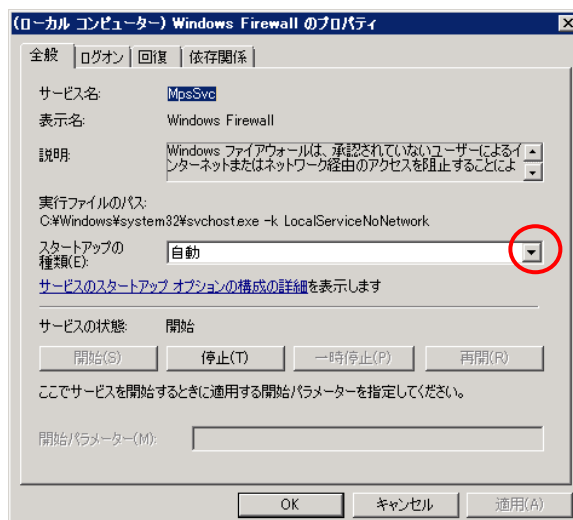
- (1) 「スタート」をクリックした後、「プログラムとファイルの検索」に”services.msc”を入力し、「サービス」を起動します。



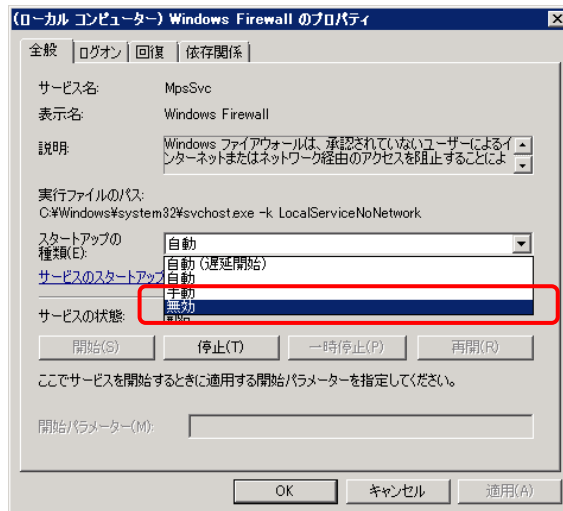
- (2) 「スクロールバー」をスライドさせ「Windows Firewall」を確認し、ダブルクリックします。



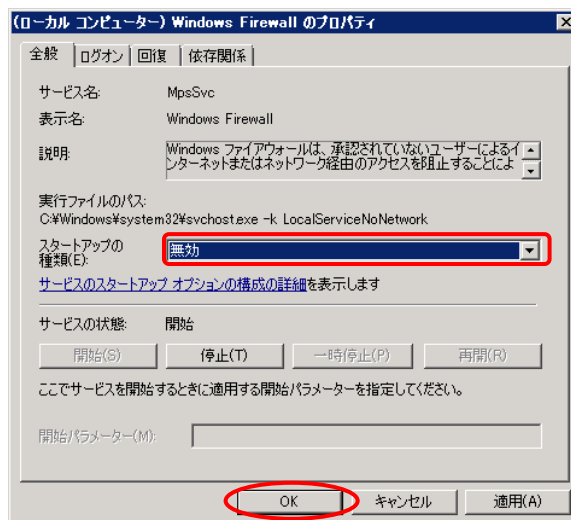
- (3) 「Windows Firewall のプロパティ」ウィンドウが表示されますので、「スタートアップの種類(E)」の「▼」をクリックします。



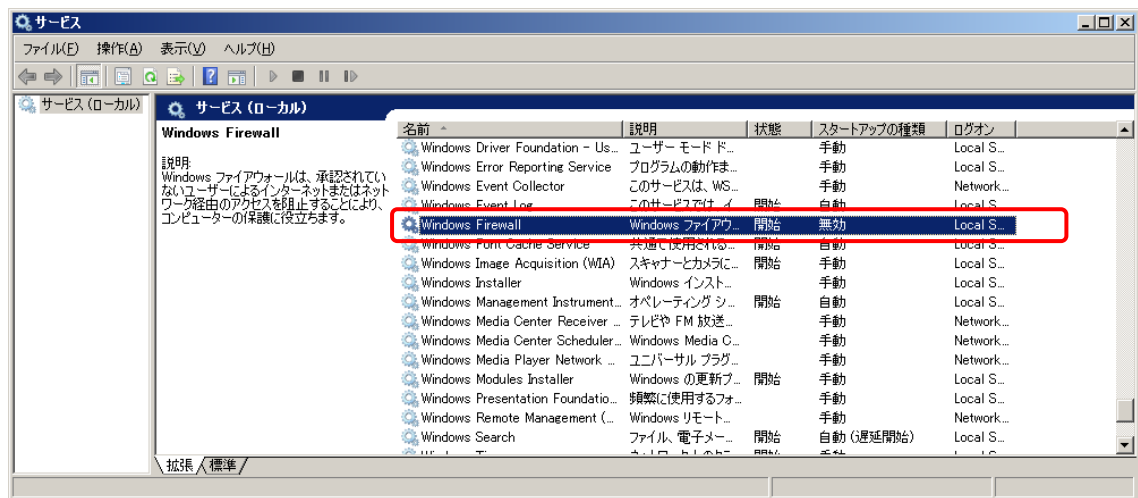
- (4) 「スタートアップの種類」のリストから、「無効」を選択します。



- (5) 「スタートアップの種類(E)」が「無効」となっていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

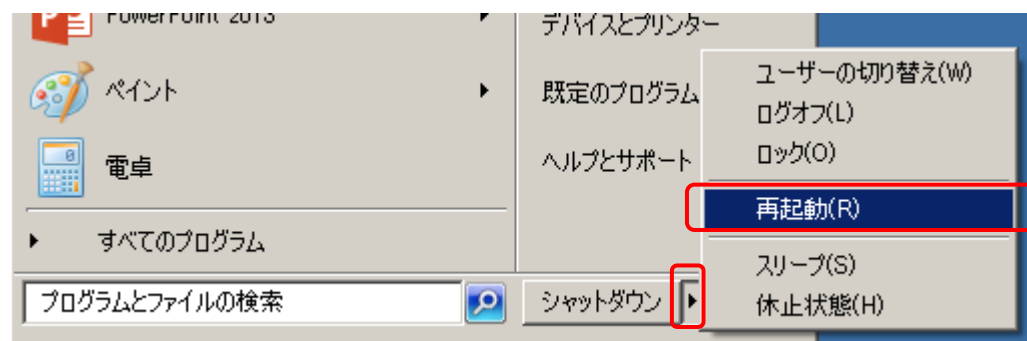


- (6) 「サービス」 ウィンドウで「Windows Firewall」の「スタートアップの種類」が作業前の状態に戻っていることを確認します。



1.9.8. OS 再起動

- (1) 「スタート」→「>」メニューのリストから「再起動(R)」を選択します。



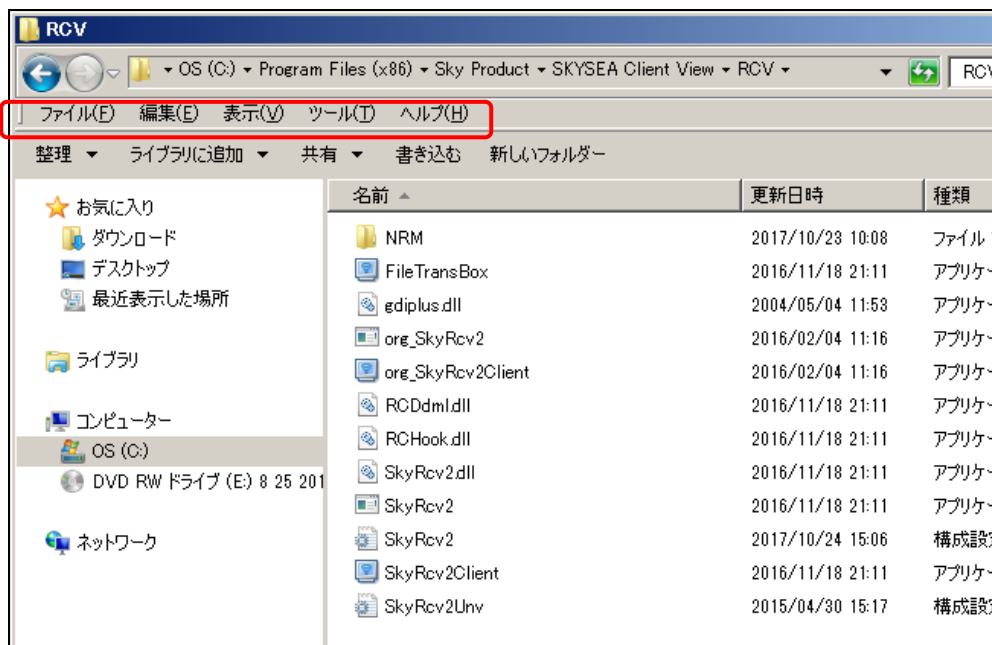
1.9.9. SKYSEA 修正パッチの適用

再起動後、引き続き管理者ユーザでログインしてください。

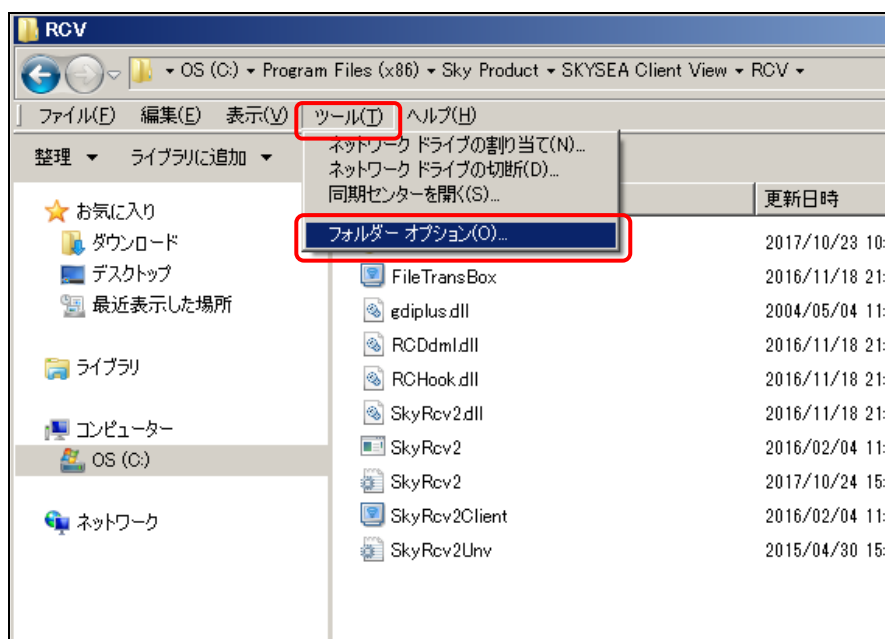
1.9.9.1. 拡張子の表示

※本作業は、ファイルの拡張子が表示されていない場合のみ実施します。ファイルの拡張子が既に表示されている場合、「1.9.9.2.修正パッチファイル確認とフォルダアクセス権変更」に進んでください。

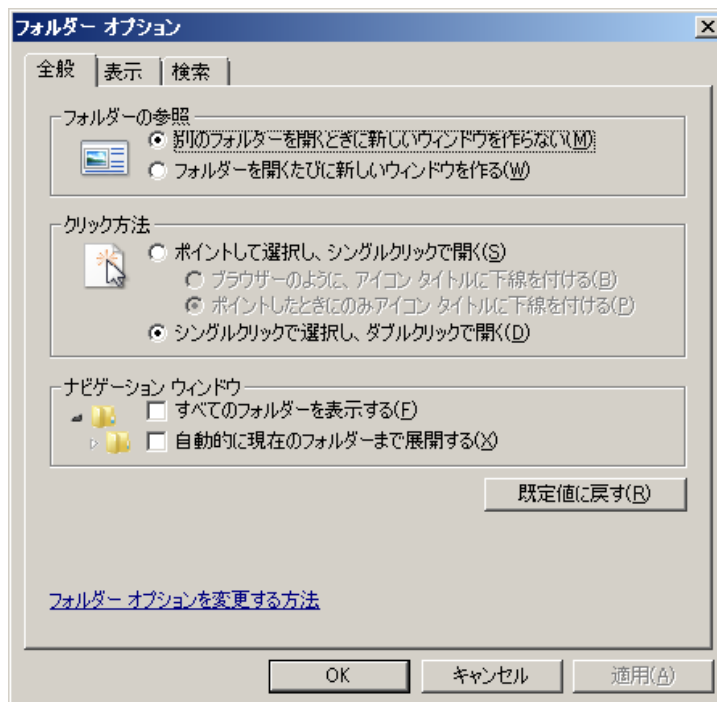
(1) ファイルの拡張子を表示させます。「Alt」キーを押下し「メニューバー」を表示します。



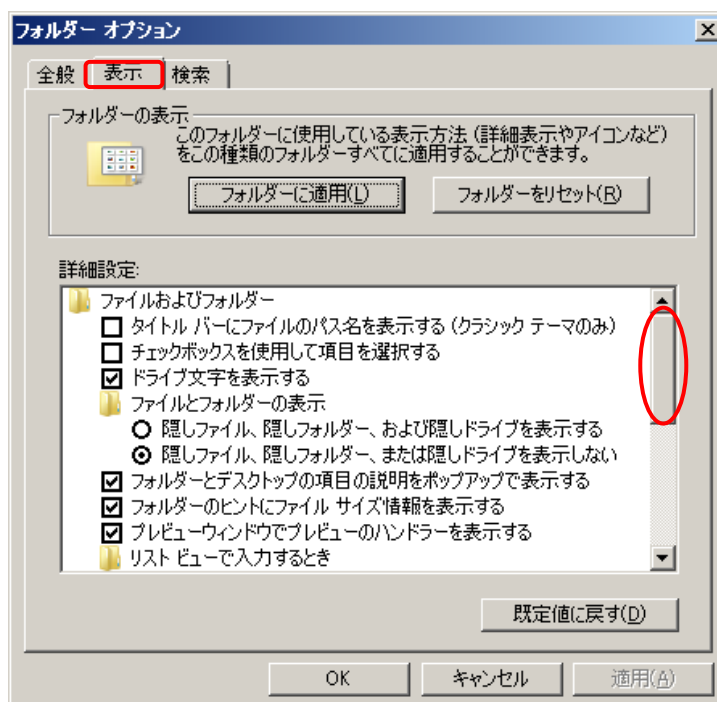
(2) 「メニュー」から「ツール(T)」→「フォルダーオプション(O)...」を選択します。



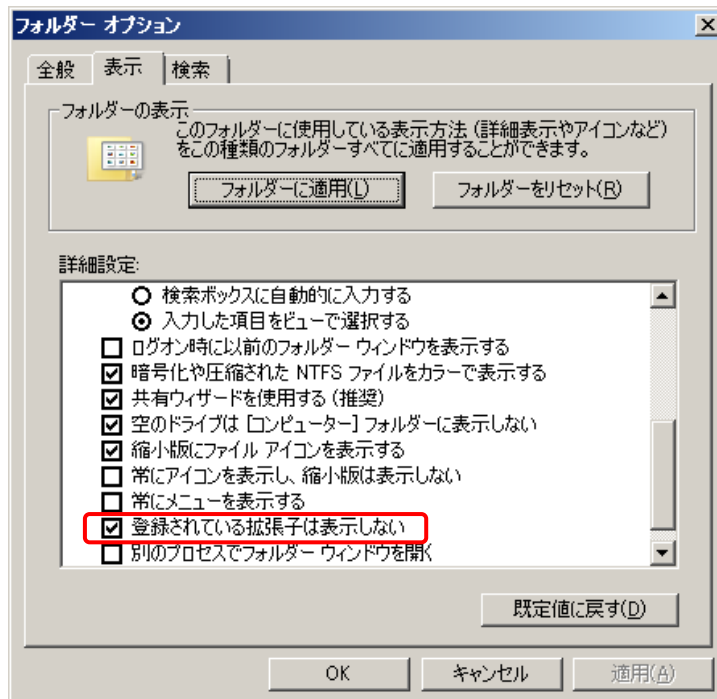
- (3) 「フォルダーオプション」ウィンドウが表示されます。



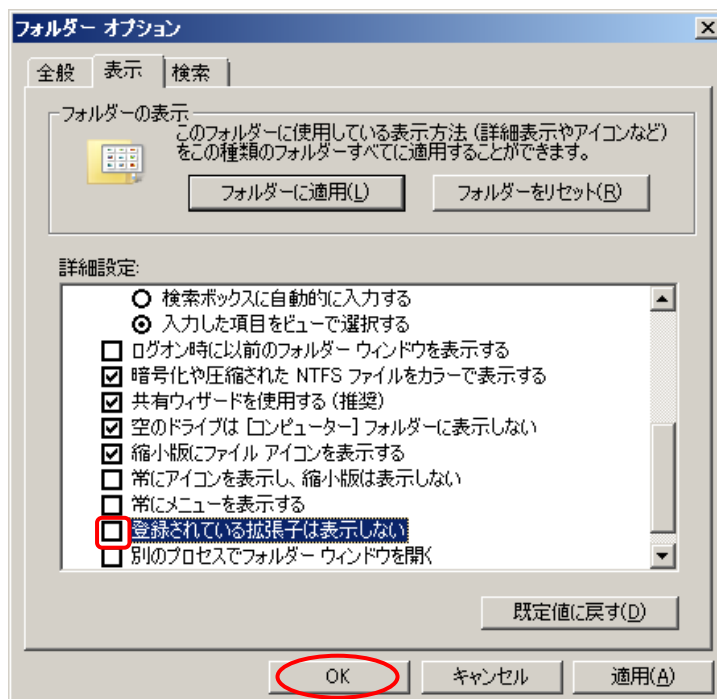
- (4) 「表示」タブを選択し、「スクロールバー」をスライドさせます。



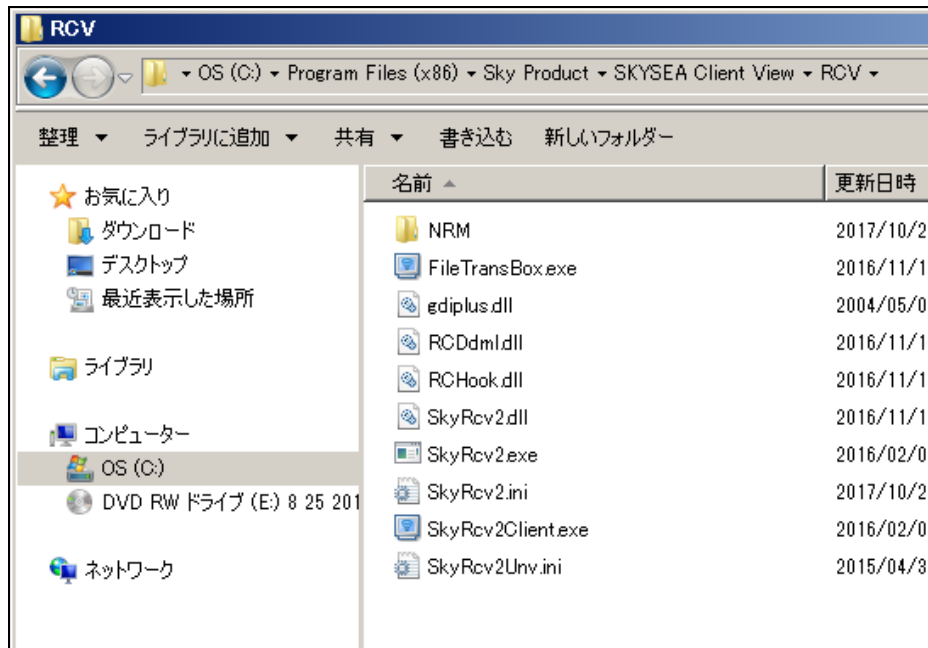
- (5) 「登録されている拡張子は表示しない」を確認します。



- (6) 「登録されている拡張子は表示しない」のチェックを外し、「OK」ボタンをクリックします。

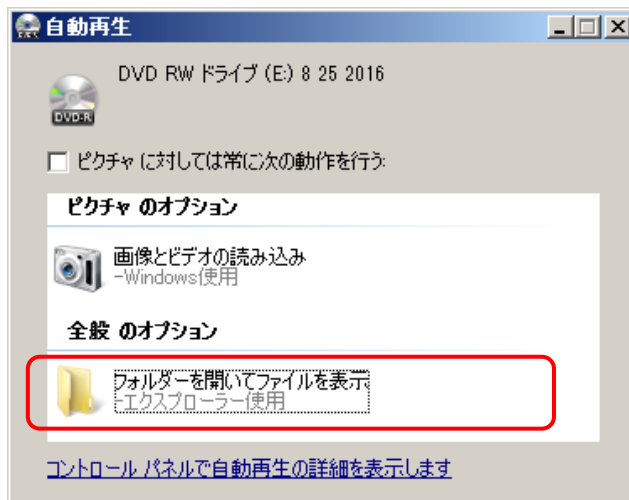


- (7) 「エクスプローラ」でファイルの拡張子が表示されることを確認します。



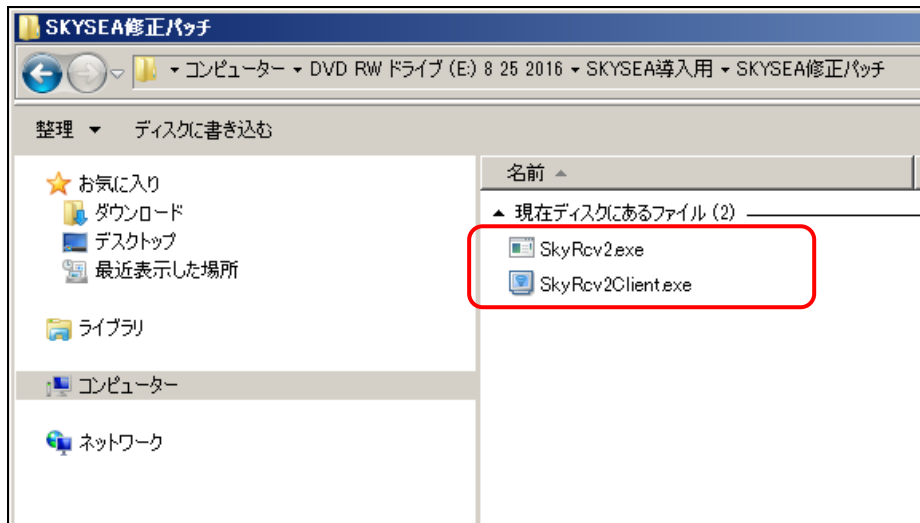
1.9.9.2. 修正パッチファイル確認とフォルダアクセス権変更

- (1) DVD ドライブに「構築作業用媒体」をセット後、自動再生ポップアップが表示されますので、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。

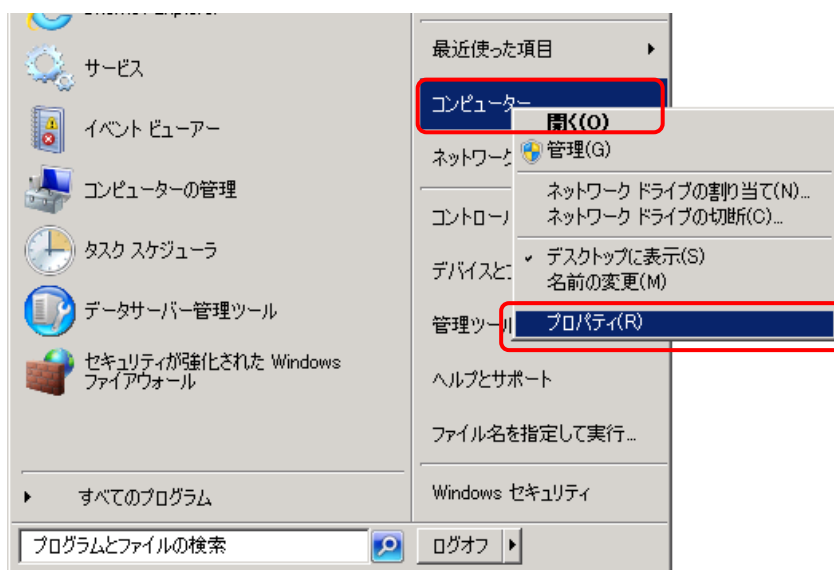


- ※ 自動再生が動作しない場合、手でエクスプローラを起動して DVD 内のフォルダを表示してください。

- (2) エクスプローラが表示されたら、「SKYSEA 導入用」→「SKYSEA 修正パッチ」フォルダに「SkyRcv2.exe」、「SkyRcv2Client.exe」が格納されていることを確認します。



- (3) 「スタート」をクリックした後、「コンピューター」を右クリックしてメニューリストから「プロパティ(R)」を選択します。



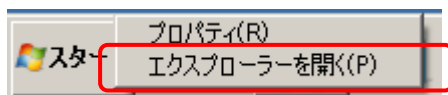
- (4) 「システム」 ウィンドウで、「システムの種類」の内容を確認してください。



※上記は 64 ビットオペレーティングシステムの場合の表示例です。

- (5) 「システム」 ウィンドウ右上の「×」 ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。

- (6) 「スタート」 を右クリックし、リストから「エクスプローラを開く(P)」を選択します。



(7) 「エクスプローラ」が表示されます。

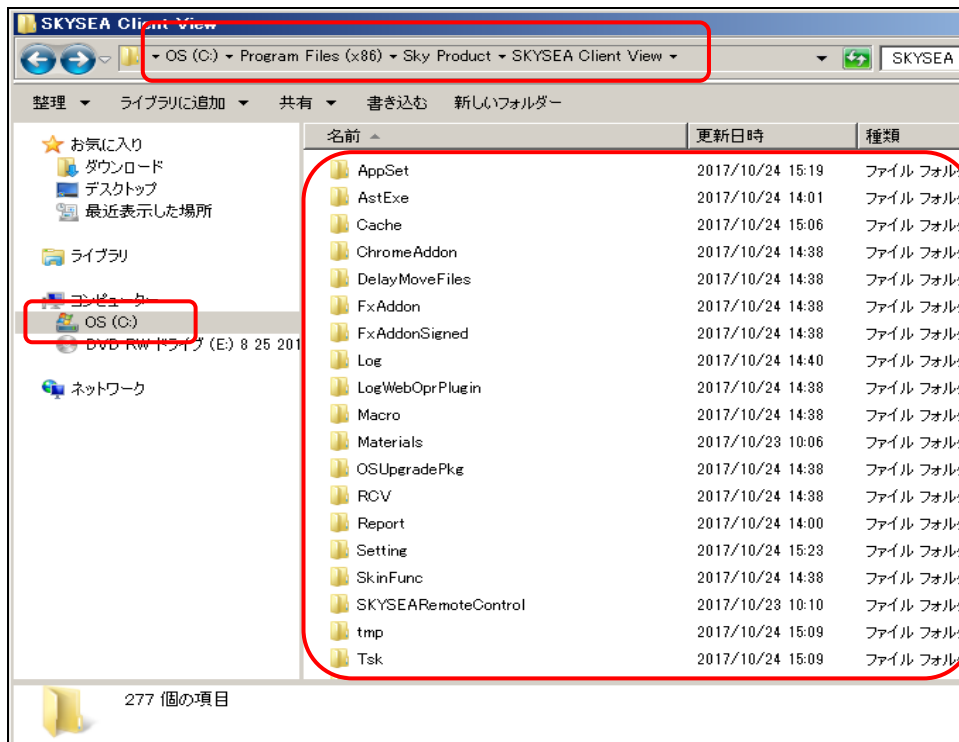


(8) エクスプローラで修正モジュールの格納場所パスを確認してください。

※SKYSEA Client View のプログラム格納場所は、(4)で確認した「システムの種類」によって異なります。

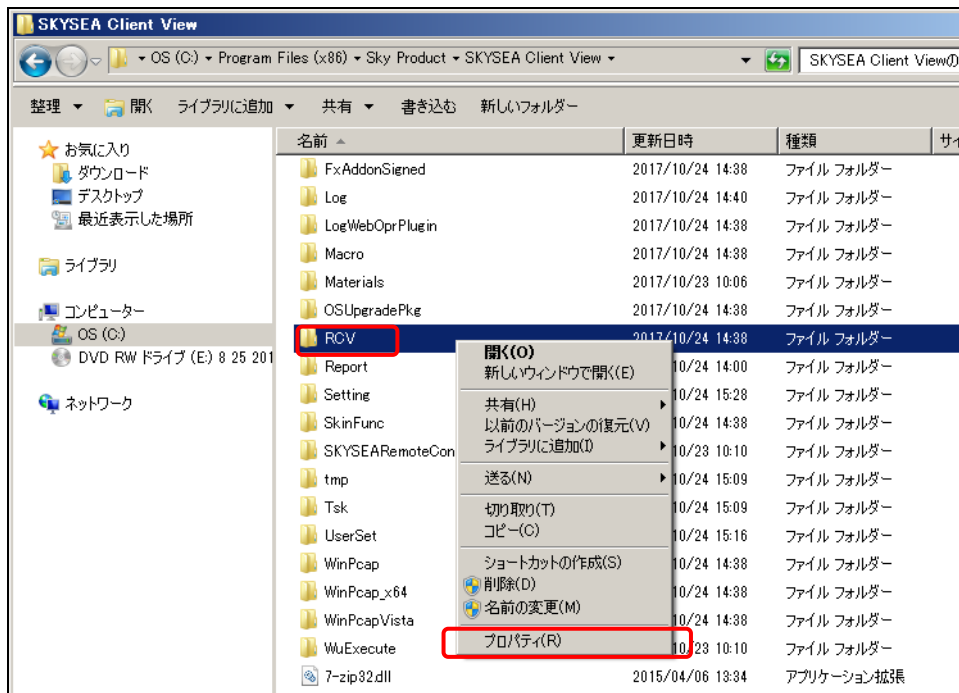
システムの種類：	格納場所	確認
64 ビットオペレーティングシステム	C:\Program Files(x86)\Sky Product\SKYSEA Client View	<input type="checkbox"/>
32 ビットオペレーティングシステム	C:\Program Files\Sky Product\SKYSEA Client View	<input type="checkbox"/>

- (9) C ドライブを選択後、(8)で確認したパスのフォルダを開きます。



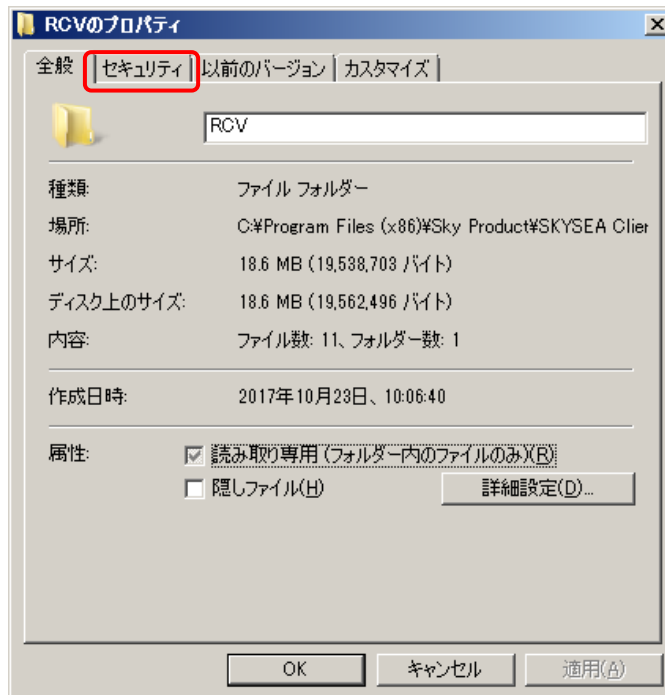
※上述のイメージは 32 ビット OS の場合です。

- (10) 「RCV」フォルダを右クリックし、リストから「プロパティ(R)」を選択します。



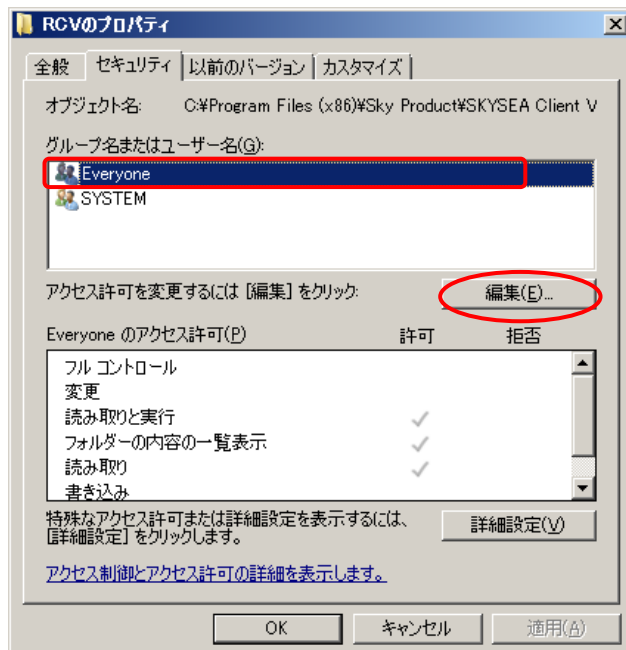
※上述のイメージは 32 ビット OS の場合です。

- (11) 「RCV のプロパティ」 ウィンドウが表示されますので、「セキュリティ」タブを選択します。



※上述のイメージは 32 ビット OS の場合です。

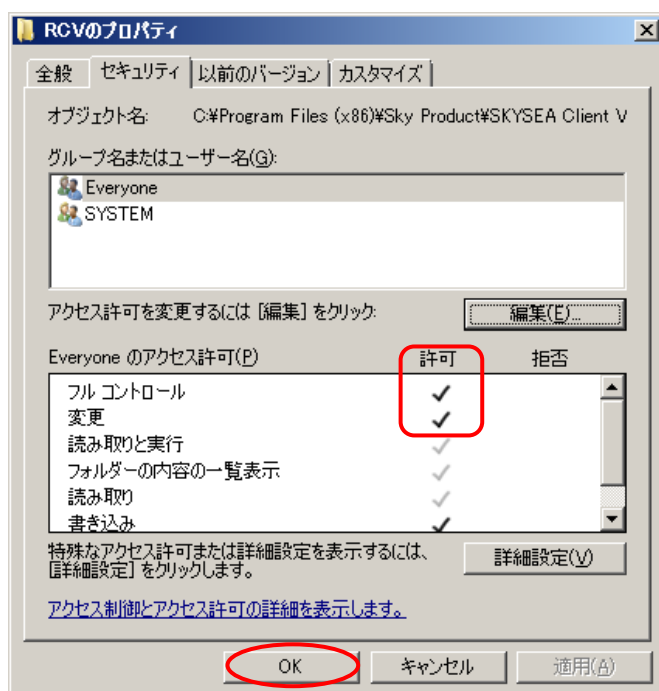
- (12) 「グループ名またはユーザー名(G)」の「Everyone」を選択し、「編集(E)」ボタンをクリックします。



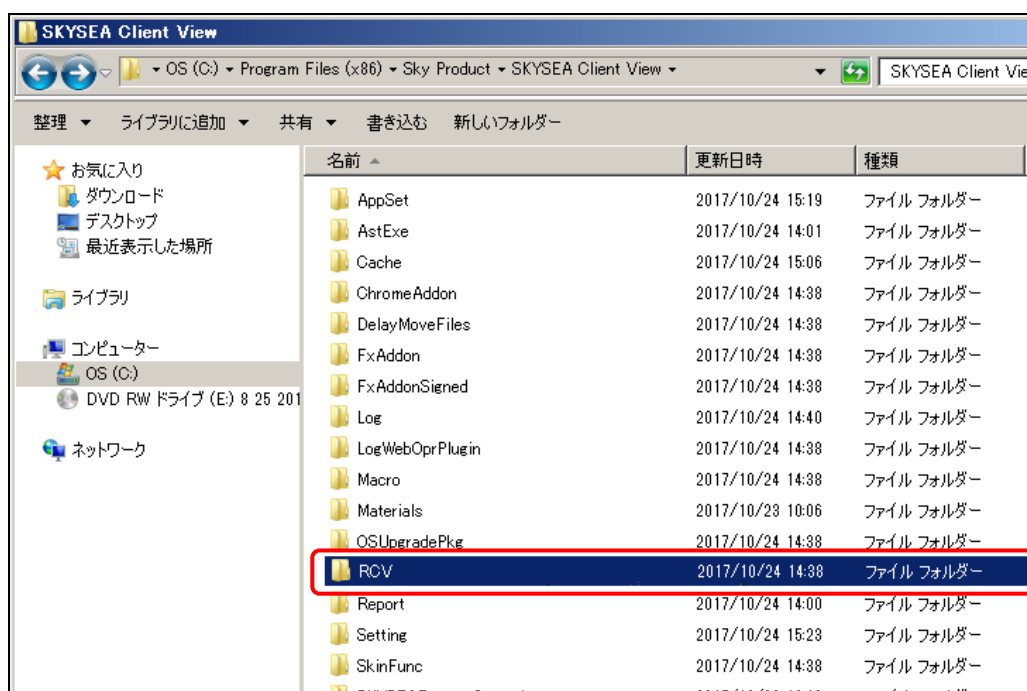
- (13) 「RCV のアクセス許可」ウィンドウが表示されたら、「Everyone のアクセス許可(P)」の「フルコントロール」の「許可」にチェックを入れて、「OK」ボタンをクリックします。



- (14) 「Everyone のアクセス許可(P)」の「フルコントロール」と「変更」で、「許可」が選択されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



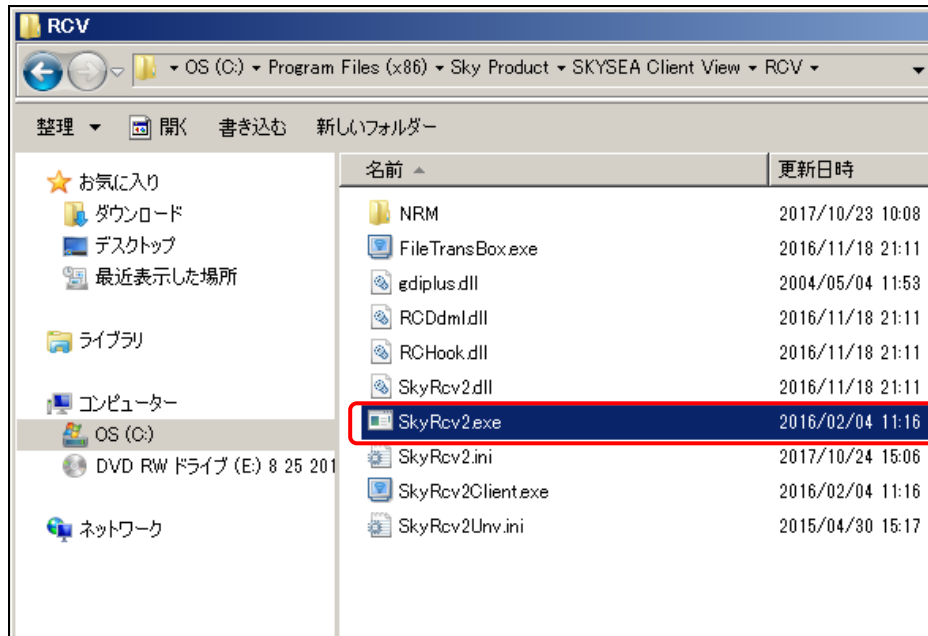
- (15) 「エクスプローラ」で「RCV」フォルダをダブルクリックし、フォルダ配下を表示します。



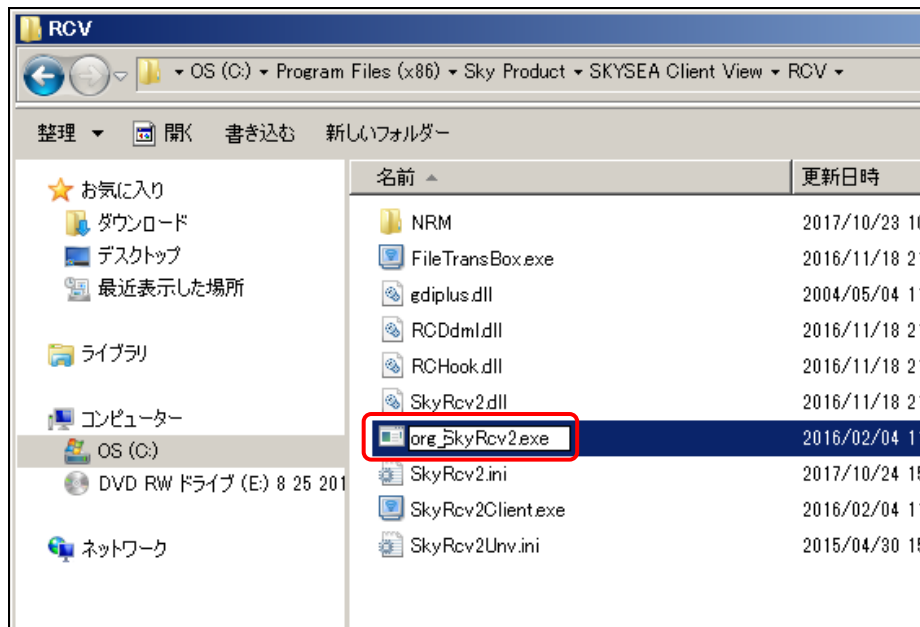
※上述のイメージは 32 ビット OS の場合です。

1.9.9.3. 旧ファイルの別名退避

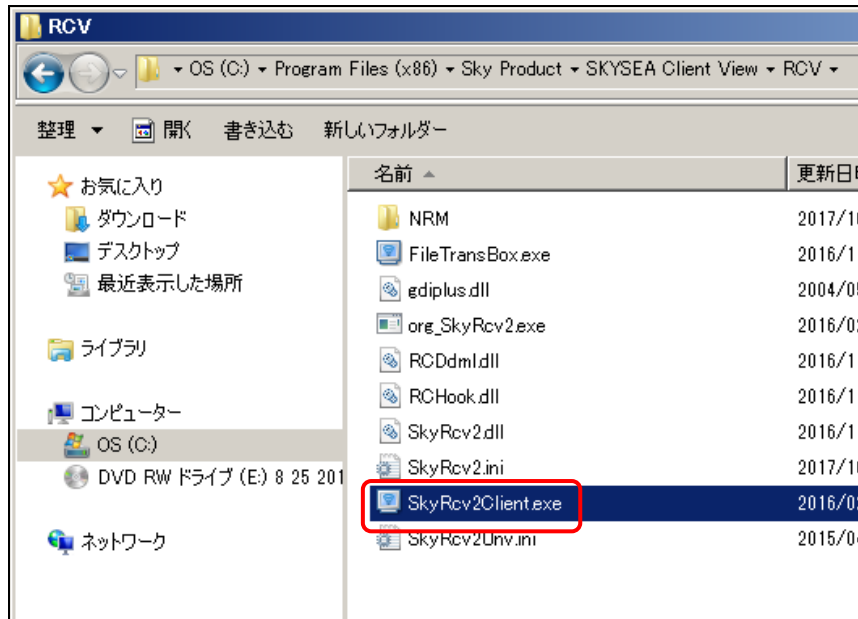
- (1) 「SkyRcv2.exe」を選択し、「F2」キーを押下します。（ファイル名編集モードに入ります。）



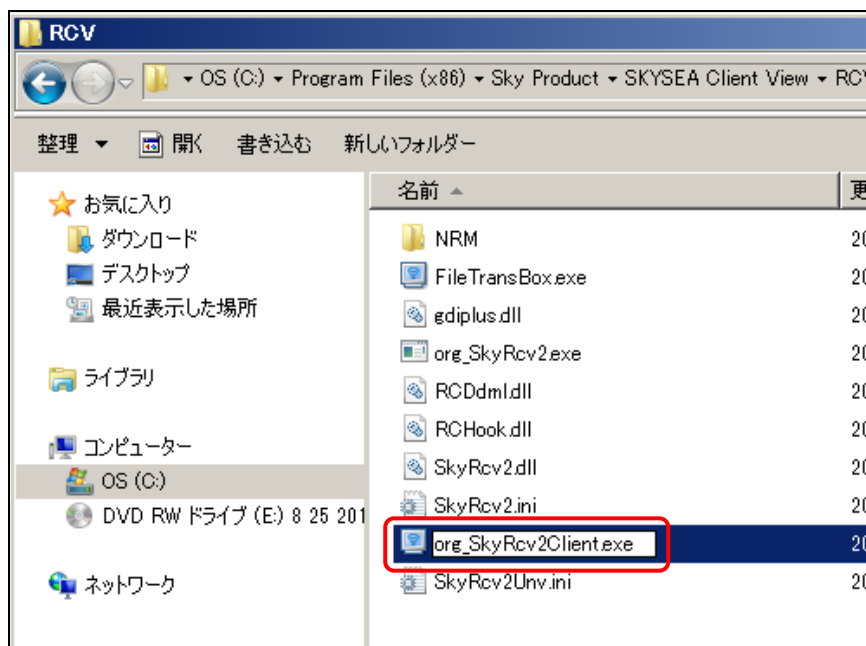
- (2) ファイル名を「org_SkyRcv2.exe」に変更した後、「Enter」キーを押下し確定します。



- (3) 「SkyRcv2Client.exe」を選択し、「F2」キーを押下します。（ファイル名編集モードに入ります。）



- (4) ファイル名を「org_SkyRcv2Client.exe」に変更した後、「Enter」キーを押下し確認します。



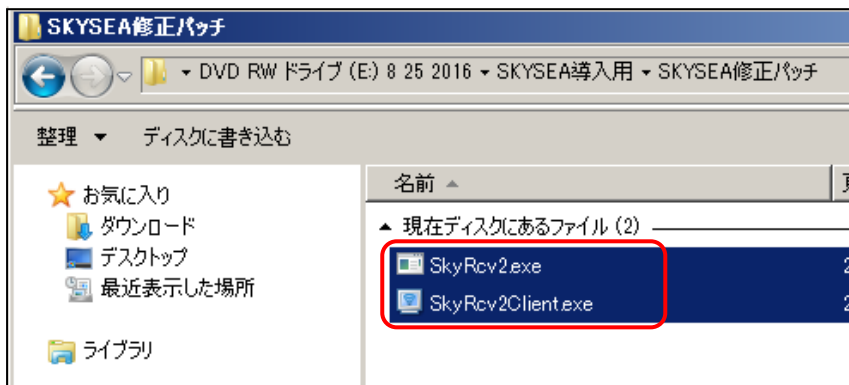
- (5) ファイル名変更を行った 2 ファイルが存在することを確認します。

変更前のファイル名	変更後のファイル名	確認
SkyRcv2.exe	org_SkyRcv2.exe	<input type="checkbox"/>
SkyRcv2Client.exe	org_SkyRcv2Client.exe	<input type="checkbox"/>

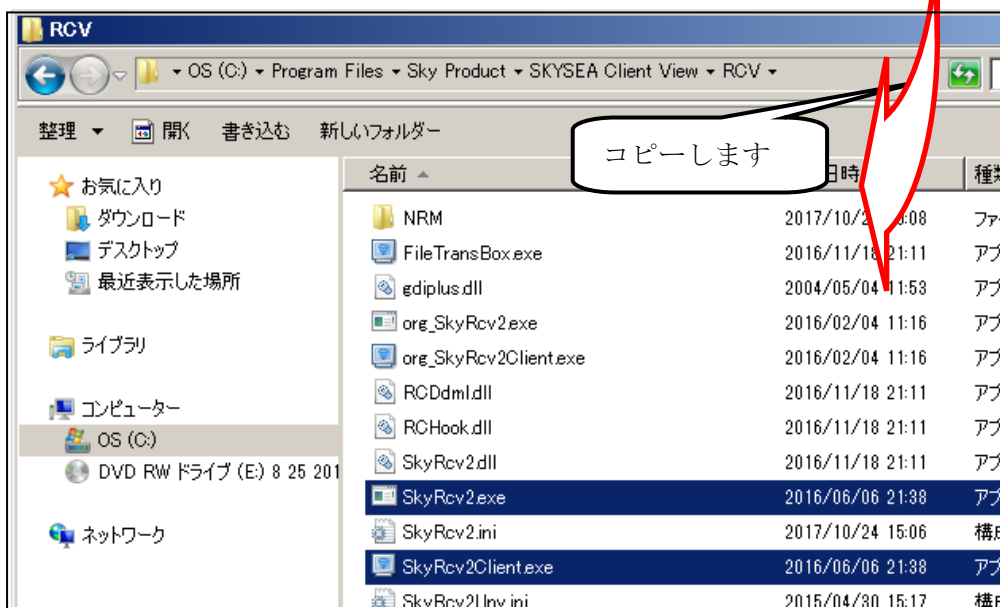
1.9.9.4. 修正パッチのコピー

- (1) 構築作業用媒体の「SKYSEA 導入用¥SKYSEA 修正パッチ」フォルダに格納されている「SkyRcv2.exe」と「SkyRcv2Client.exe」をコピーして、「RCV」フォルダの下にコピーします。

構築作業用媒体



C:¥Program Files¥¥Sky Product¥SKYSEA Client View¥RCV



※ 上述のイメージは 32 ビット OS の場合のパスです。

(2) 格納した 2 ファイルが存在することを確認します。

対象ファイル	確認
SkyRcv2.exe	<input type="checkbox"/>
SkyRcv2Client.exe	<input type="checkbox"/>

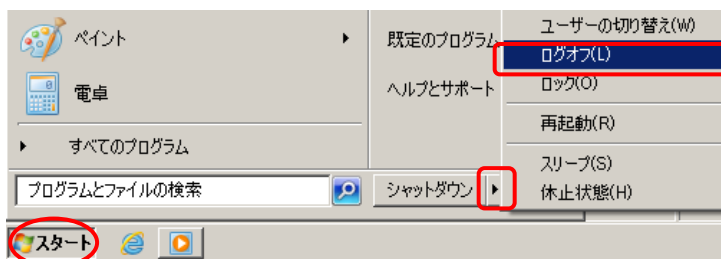
(3) 修正パッチのコピー元、コピー先の 2 つのエクスプローラを閉じます。

(4) DVD ドライブのイジェクトボタンを押して、構築作業用媒体を取出します。

1.9.10. ログオフ

情報漏えい対策ソフト(SKYSEA)のインストール作業は終了となります。配置したパッチを適用するためログオフを行ってください。

「スタート」→「>」メニューのリストから「ログオフ」を行います。



注意事項

本手順書「クライアント構築手順書【運用管理クライアント（介護）】構築作業編」が完了した段階で、以下の作業を実施する必要があります。

なお、本導入を実施している機器についてのみ作業を実施してください。

① リビジョンアップ（Ver.11.0 → Ver.11.3）

平成 29 年 2 月 21 日発出の「導入関連情報（H28 システム導入-039-0221）」

・ SKYSEA11.3 リビジョンアップ作業手順書

1.8.端末機のリビジョンアップ(1)[P.7]、(7)[P.10]、(10)[P.12]～(15)[P.15]

② 修正モジュールの適用

平成 29 年 3 月 31 日発出の「導入関連情報（H28 システム導入-047-0331）」

・ SKYSEA 個別修正モジュール適用手順書

1.5.3.個別修正モジュールの適用(1)[P.4]、(9)[P.8]～(10)[P.9]、(12)[P.10]～(15)[P.11]

1.5.5.個別修正モジュール適用確認(1)[P.16]～(8)[P.18]、(10) [P.19]

本手順及び上記注意事項の①と②の手順を実施後、USB 接続機器等を接続した際に、「1.9.4. 留意事項」で示したウィンドウが表示されますので、以下「共通ネットワークシステム運用マニュアル」の項目を参照し、デバイス登録作業及び機器追加時の対応の実施をお願いします。

共通ネットワークシステム運用マニュアル

3. 8 国保連合会設置サーバ・クライアントのデバイス制御

3. 8. 1. デバイス利用申請

3. 8. 1. 1. USB デバイス利用申請（利用者編）

3. 8. 1. 2. USB デバイス利用申請（情報セキュリティ担当者編）

3. 8. 3. デバイス制御ソフトにおける機器追加・撤去時の対応

3. 8. 3. 1. 機器追加時の対応

1.10. ログ管理ソフト（Splunk）導入

1.10.1. 対象マシン／作業予定時間

No	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	約 20 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント（VT 系）	約 20 分	<input type="checkbox"/>

1.10.2. 準備物

No	種別	名称	確認
1	DVD-ROM	構築作業用媒体②（Splunk Universal Forwarder） ※平成 28 年度システム導入関連情報（H28 システム導入 -019-0930）で送付	<input type="checkbox"/>

1.10.3. 前提条件

No	前提条件	確認
1	「1.9.10. ログオフ」で Windows からログオフしていること	<input type="checkbox"/>

1.10.4. 留意事項

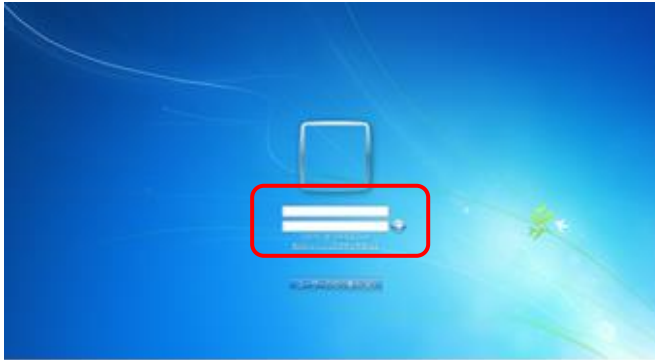
(1) アラートの静観

Splunk Universal Forwarder をインストール後に、Windows のイベントビューアに以下のアラートが出力される場合がありますが静観してください。

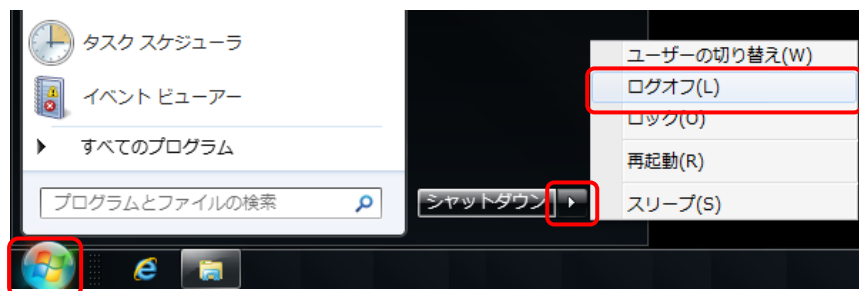
エラーメッセージ
SplunkForwarder サービスからのトランザクション応答を待機中にタイムアウト（30000 ミリ秒）になりました。

1.10.5. ログイン

- (1) ログ管理ソフト(Splunk Universal Forwarder)をインストールするためログインします。
「Ctrl+Alt+Delete」を押下し、アカウント名、パスワードを入力し、ログインしてください。

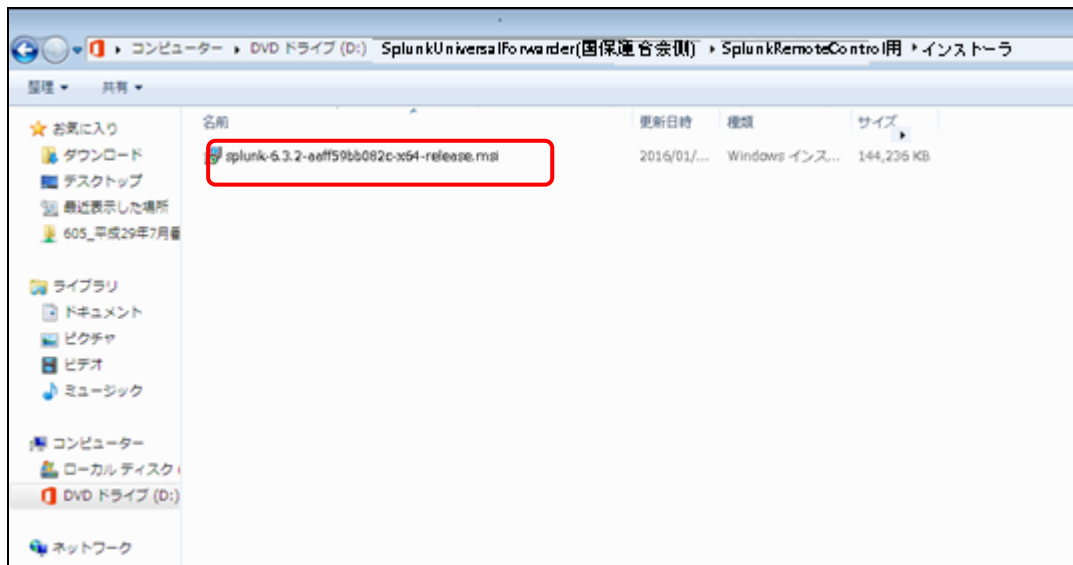


※現在ログインしているアカウントが「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザと異なる場合、当該ユーザからログオフを行った上、再度ログインしてください。ログオフは、「スタートメニュー」→「ログオフ」で行います。



1.10.6. Splunk Universal Forwarder のインストール

- (1) 構築作業用媒体②を DVD ドライブにセットします。
- (2) (1) でセットした構築作業用媒体②の「SplunkUniversalForwarder(国保連合会側)」 - 「SplunkRemoteControl 用」 - 「インストーラ」フォルダに格納されている「splunkforwarder-6.3.2-aaff59bb082c-x64-release.msi」をダブルクリックします。



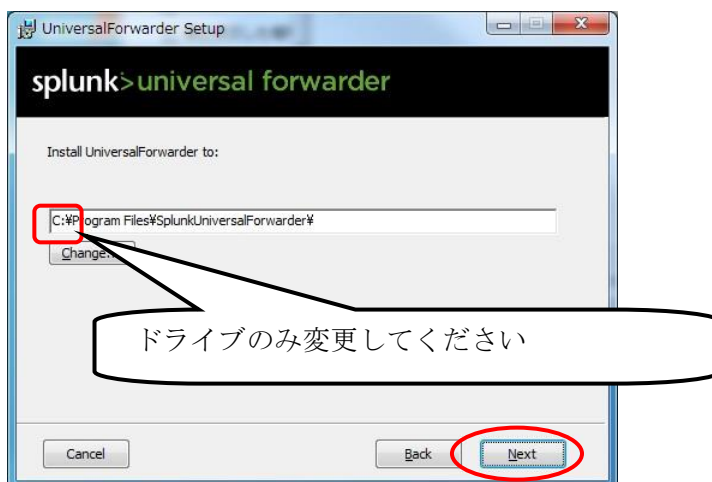
(3) ウィンドウ上部の「Check this box to accept the Licence Agreement」とウィンドウ下部の「Use this UniversalForwarder with ～」のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「Customize Options」をクリックします。



(5) インストールパスを指定するウィンドウが表示されたらインストール先ドライブを「C」に変更し「Next」をクリックします。

※ドライブパス以外は、変更しないでください。



- (6) ウィンドウの内容を確認し、「Certificate Password」は何も入力せずに「Next」をクリックします。



- (7) 「Install UniversalForwarder as」の指定で「Local System」をチェックします。

- (8) ウィンドウの内容を確認し、「Next」をクリックします。



(9) 「Windows Event Logs」の「Application Logs」と「System Log」をチェックします。

(10) ウィンドウの内容を確認し、「Next」をクリックします。



(11) 「Install the Splunk Add-on for Microsoft Windows included with this installer」がチェックされていることを確認します。

(12) ウィンドウの内容を確認し、「Next」をクリックします。

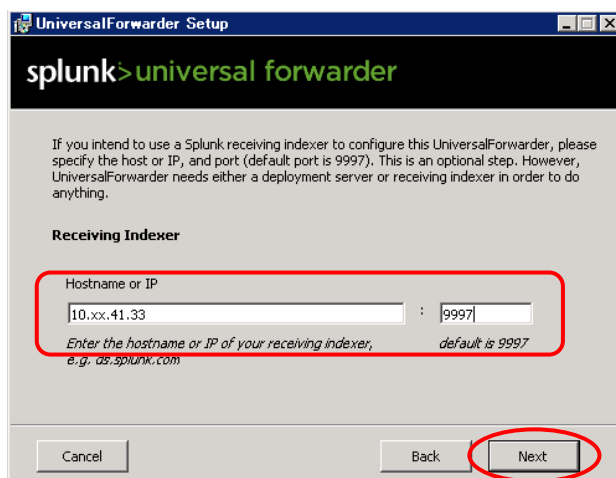


- (13) ウィンドウの内容を確認し、「Deployment Server」は設定せずに「Next」をクリックします。

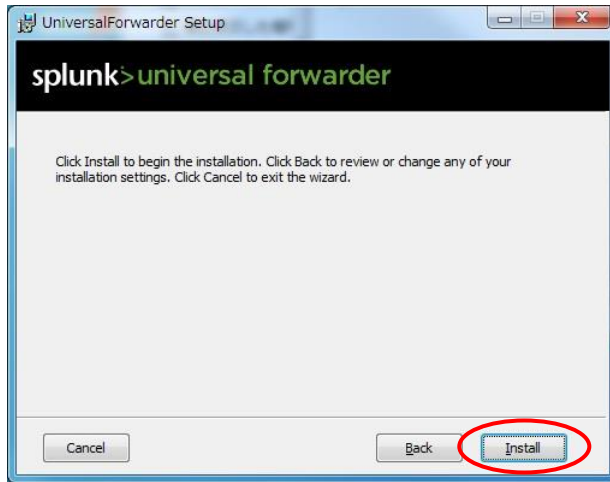


- (14) 「Receiving Indexer」にはログ管理サーバの IP アドレス「10.xx.41.33」、ポート番号は「9997」を設定します。（xx：都道府県番号 例：北海道＝10.1.41.33）

- (15) ウィンドウの内容を確認し、「Next」をクリックします。



- (16) 「Install」 をクリックします。インストールが開始されます。



- (17) インストールが完了したら「Finish」をクリックします。



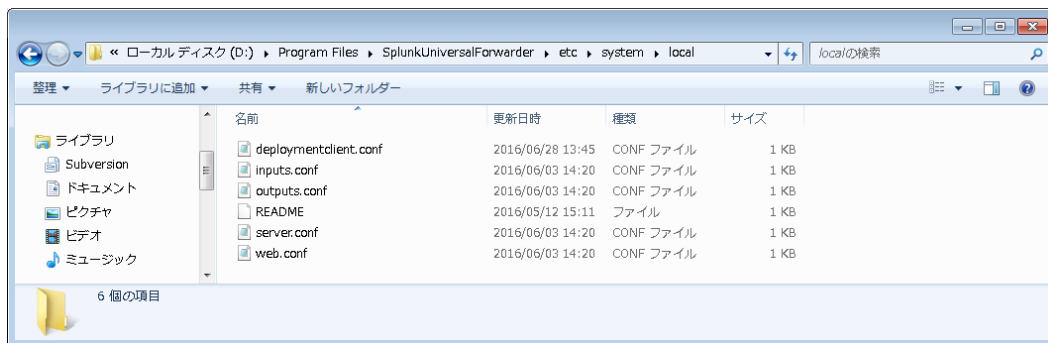
1.10.7. Splunk Universal Forwarder の初期設定

1.10.7.1. outputs.conf の編集

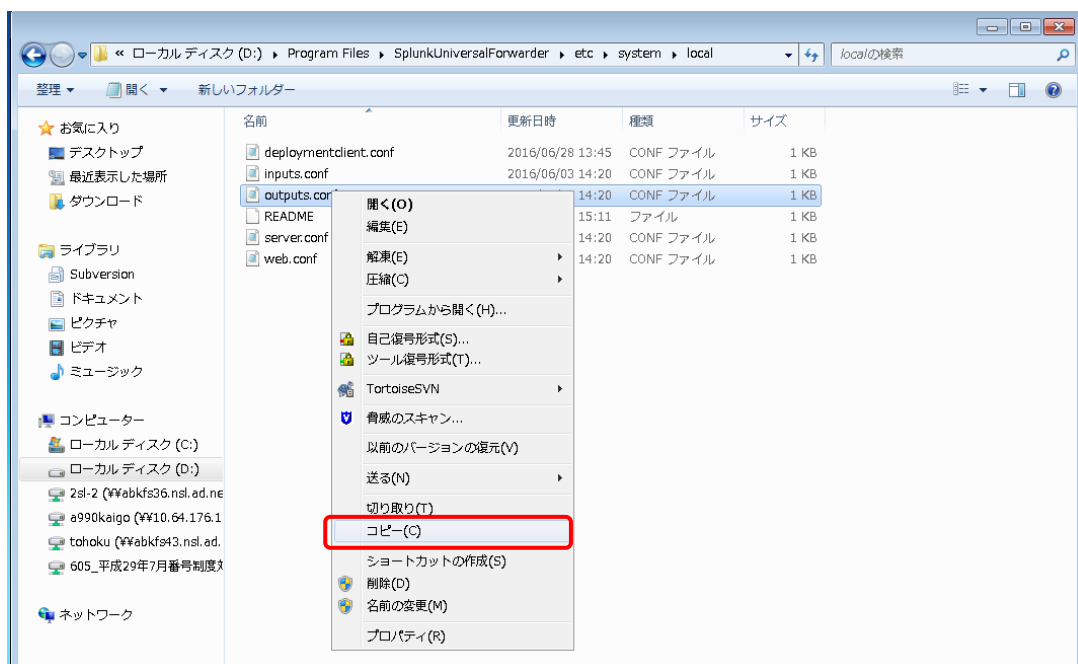
(1) 作業対象クライアントでエクスプローラから以下のフォルダを開きます。

- ・ 対象ファイルパス

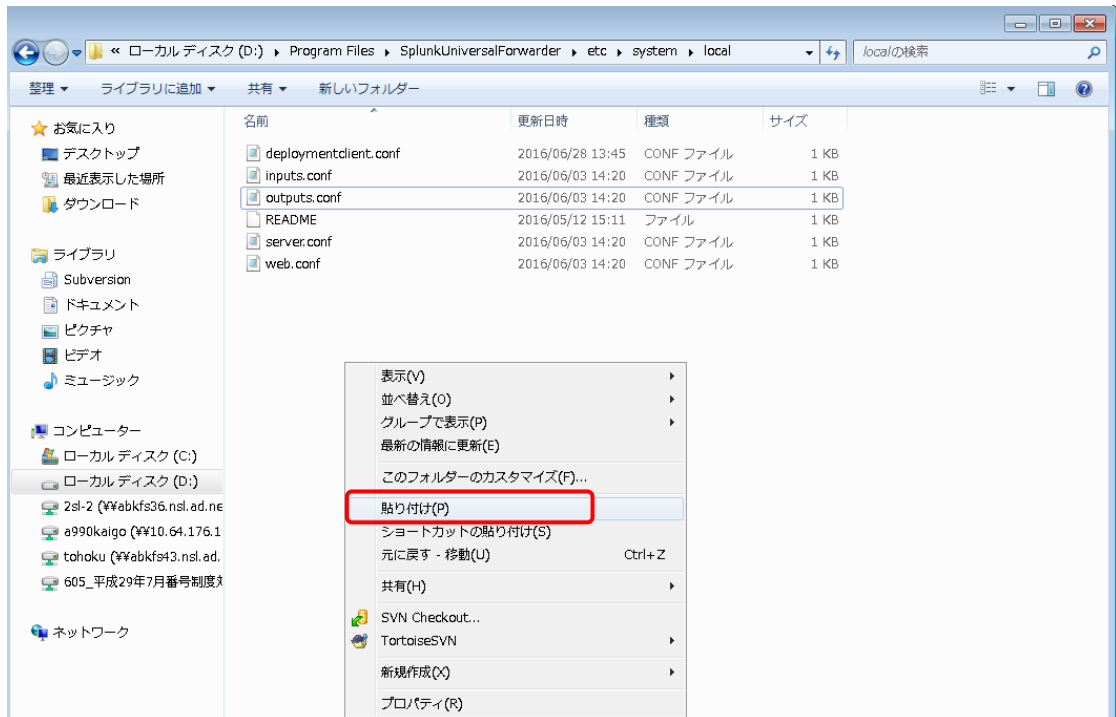
C:\Program Files\SplunkUniversalForwarder\etc\system\local\



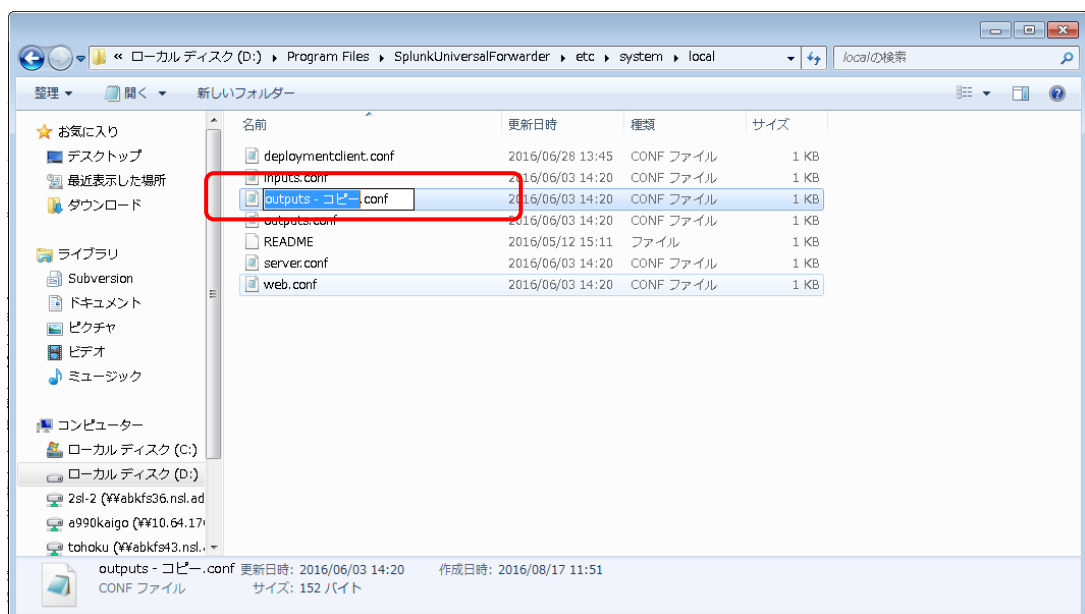
(2) 「outputs.conf」を選択し、右クリックし、メニューからコピーを選択します。



(3) エクスプローラ上の右ペインで右クリックしメニューの貼り付けを選択します。

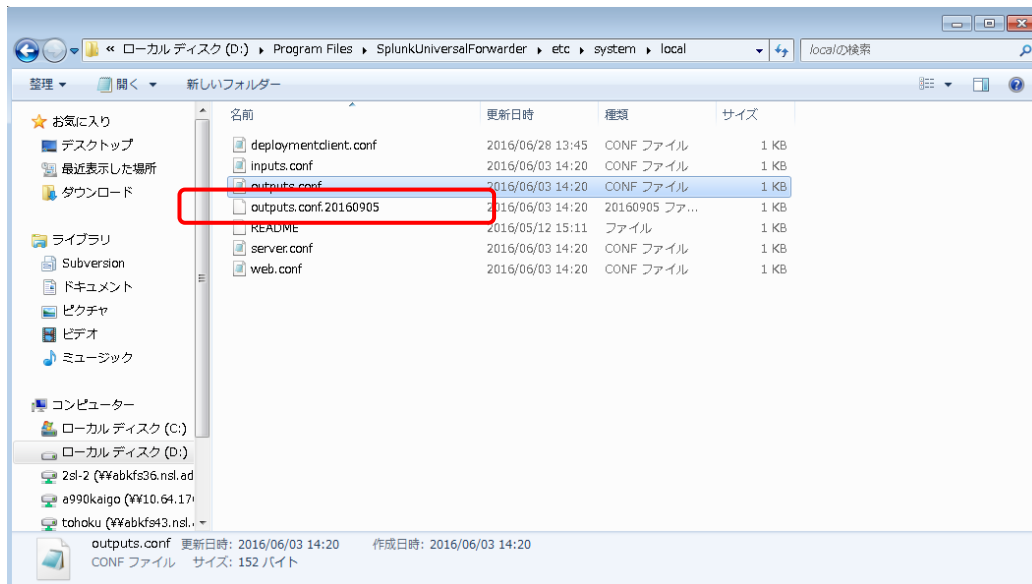


(4) 「outputs - コピー.conf」が作成されますので、このファイルを選択し F2 キーを押下します。(ファイル名編集モードに入ります)



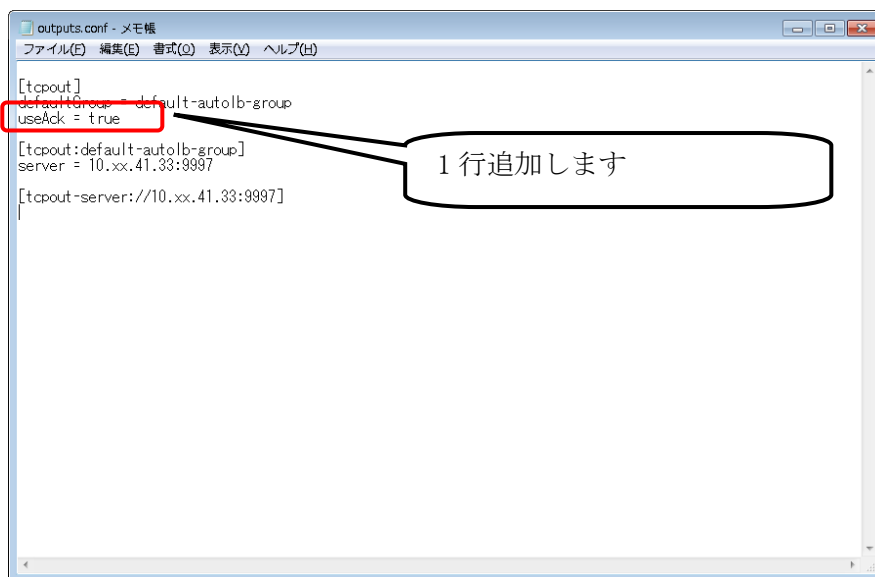
- (5) ファイル名を「outputs.conf.yyyymmdd」に変更した後、「Enter」キーを押下し確定します。

※yyyymmdd は、作業を実施した年月日

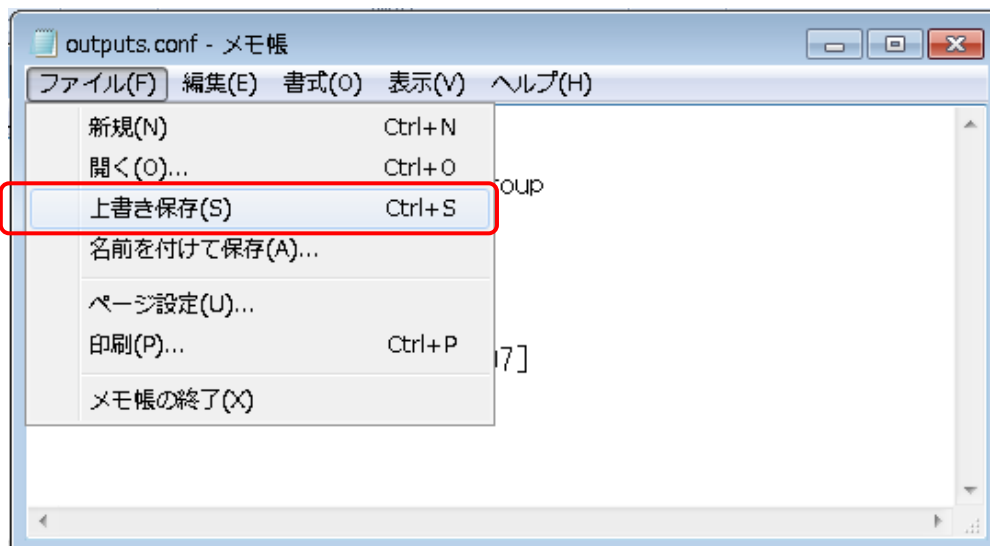


- (6) 以下の対象ファイルをメモ帳で開き、[tcpout]に関する設定の部分に useAck 属性を追加します。

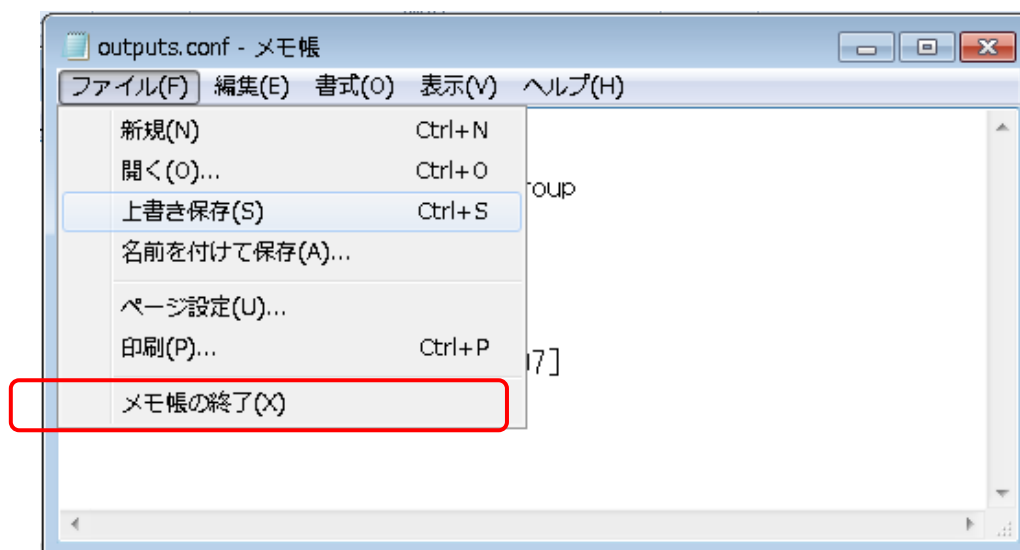
項目	内容
対象ファイル	C:\Program Files\SplunkUniversalForwarder\etc\system\local\outputs.conf
追加内容	useAck = true



- (7) メモ帳の[ファイル(F)]-[上書き保存(S)]を選択し、変更内容を保存します。



(8) メモ帳の[ファイル(F)]-[メモ帳の終了(X)]を選択し、メモ帳を終了します。



1.10.7.2. deploymentclient.conf の編集

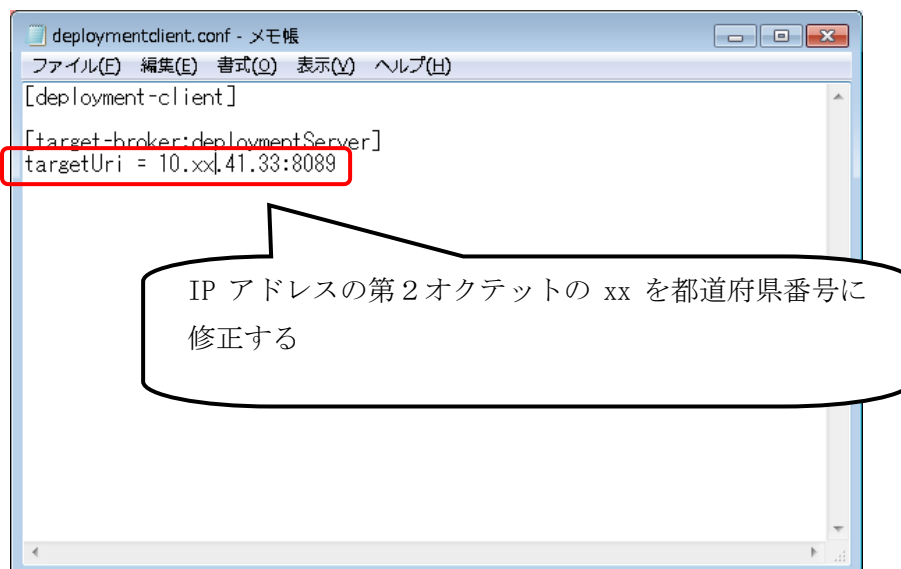
- (1) 「1.10.6.Splunk Universal Forwarder のインストール」でマウントした構築作業用媒体
②の「SplunkUniversalForwarder(国保連合会側)」・「SplunkRemoteControl 用」・「設定ファイル」フォルダに格納されている「deploymentclient.conf」ファイルを以下のフォルダにコピーします。

- ・コピー先フォルダパス

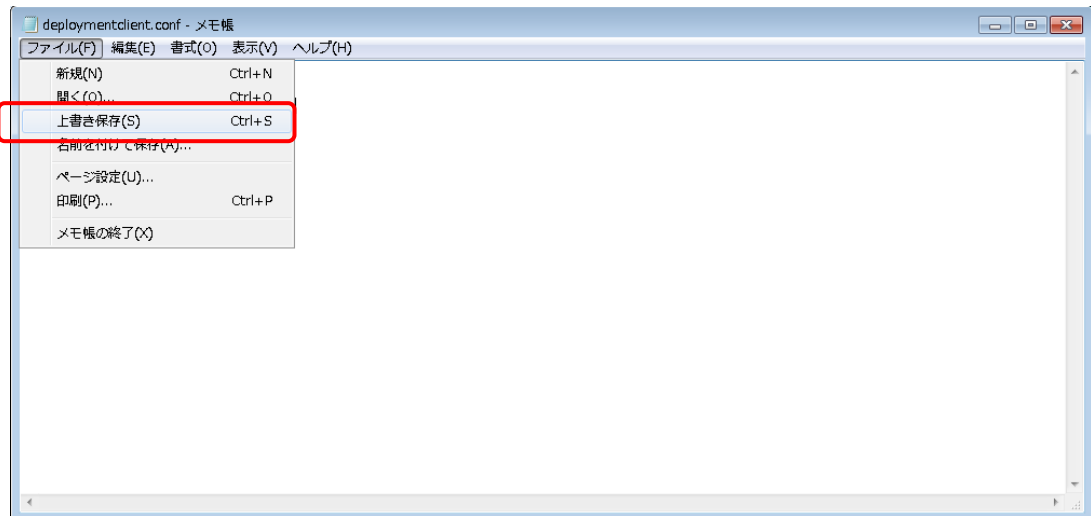
C:\Program Files\SplunkUniversalForwarder\etc\system\local\

- (2) (1)でコピーしたファイルを開き、設定内容にある `targetUri` で指定されているサーバの IP アドレスの `xx` を都道府県番号に修正します。

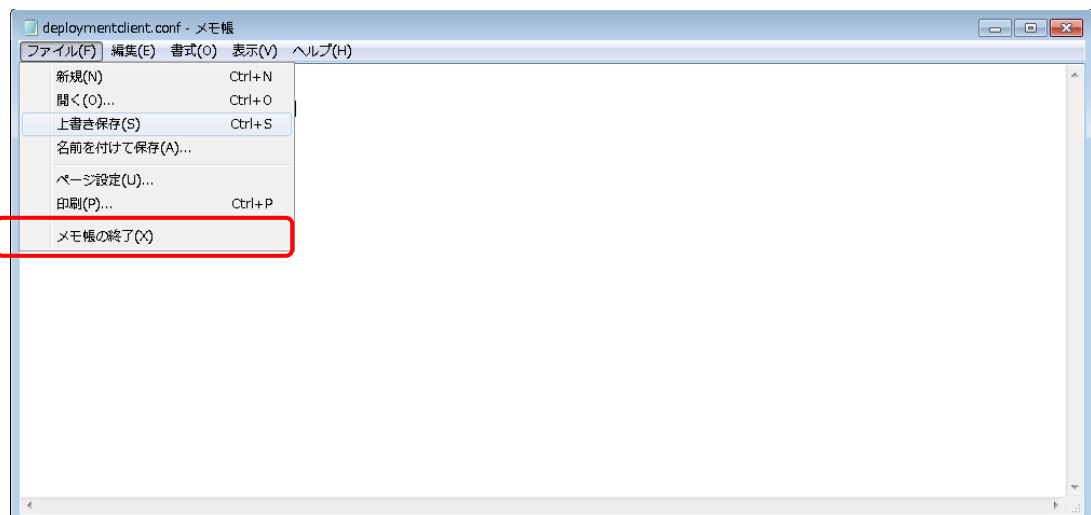
(`xx`：都道府県番号 例：北海道＝10.1.41.33:8089)



(3) メモ帳の[ファイル(F)]-[上書き保存(S)]を選択し、変更内容を保存します。



(4) メモ帳の[ファイル(F)]-[メモ帳の終了(X)]を選択し、メモ帳を終了します。



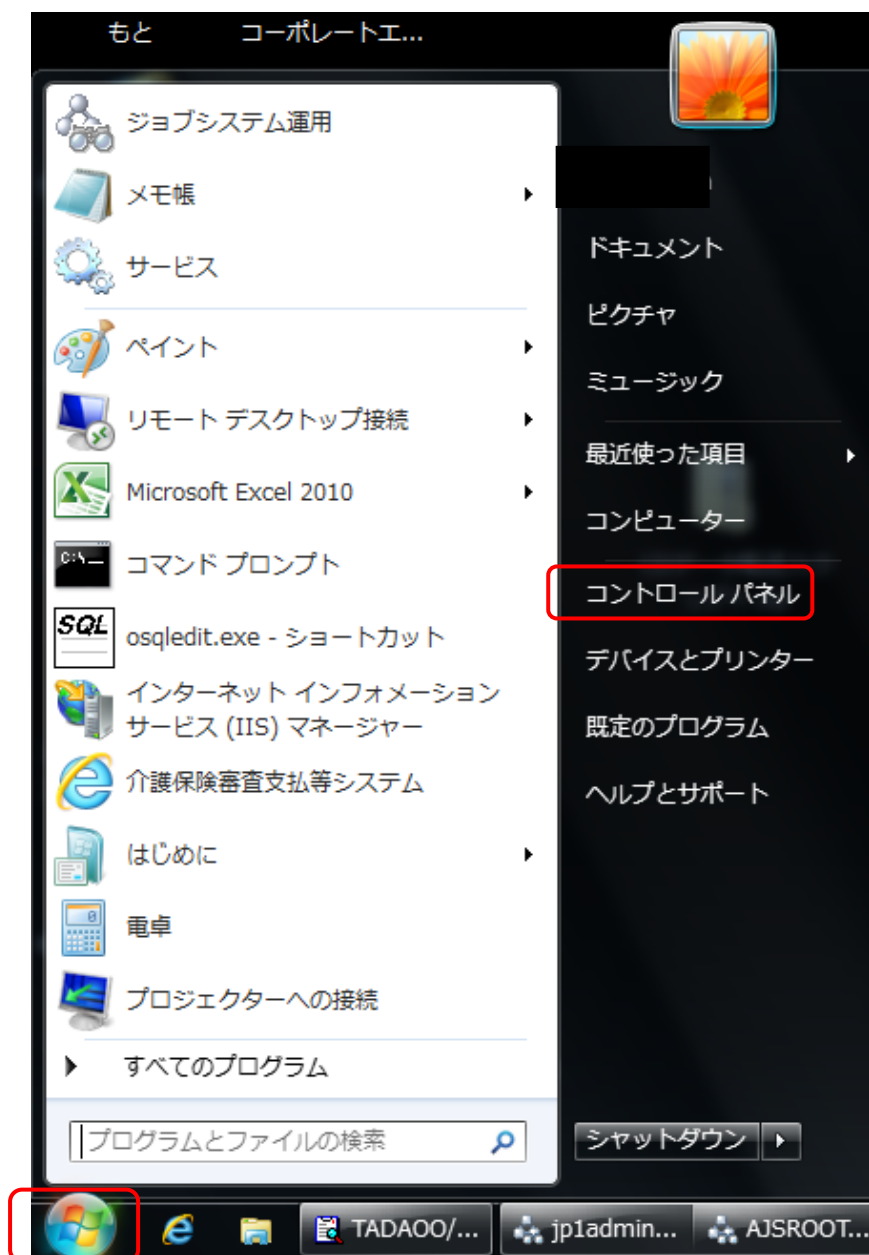
1.10.8. 構築作業用媒体②のアンマウント／取出し

構築作業用媒体②を使用しての作業は完了しましたので、媒体を取出します。

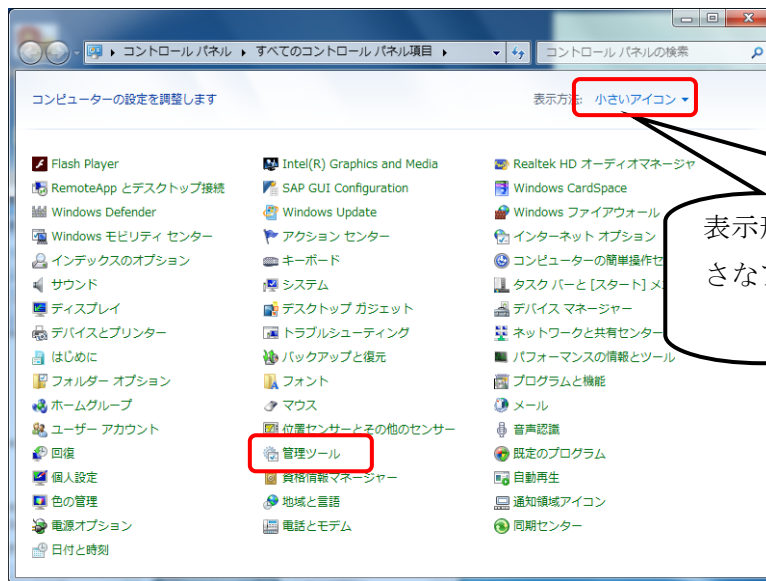
- (1) 構築作業用媒体②を DVD ドライブから取出します。

1.10.9. 設定内容の有効化

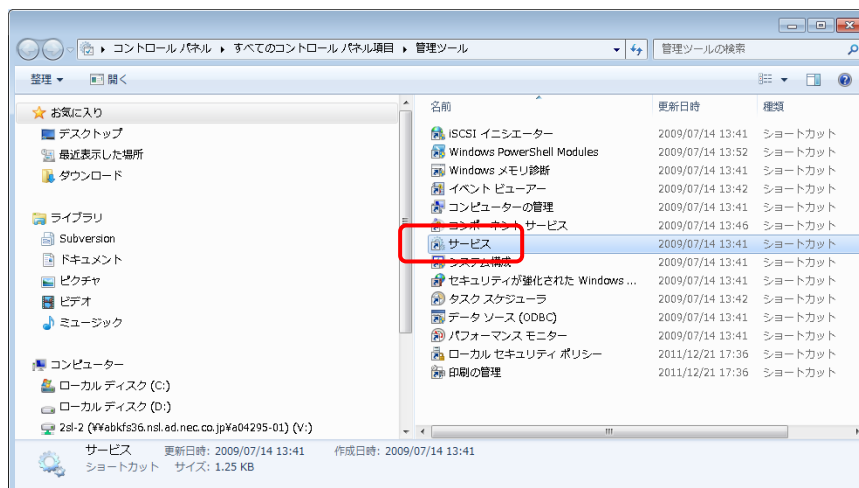
- (1) 「スタートメニュー」→「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネル項目を表示します。



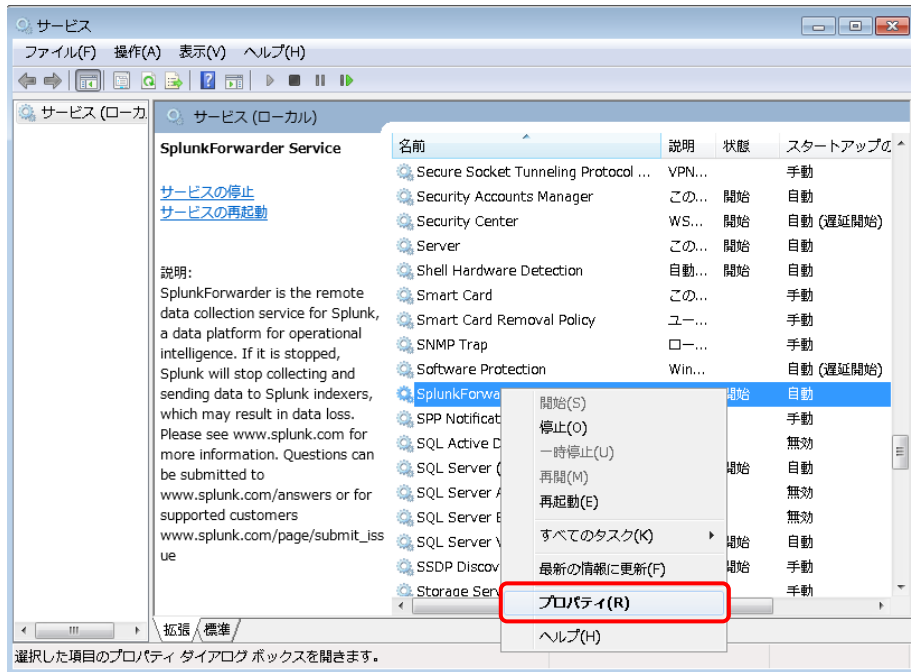
- (2) コントロールパネル項目から「管理ツール」を選択します。



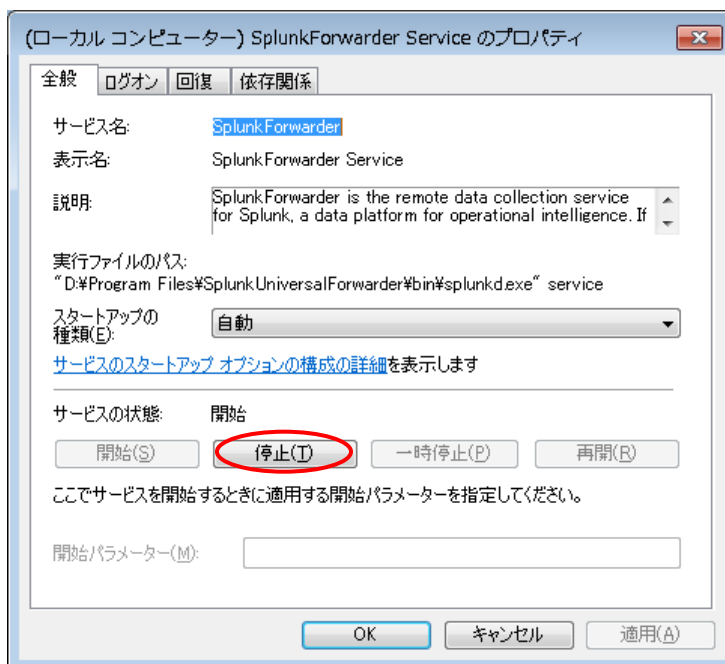
- (3) 管理ツールの一覧が表示されますので、「サービス」を選択してください。



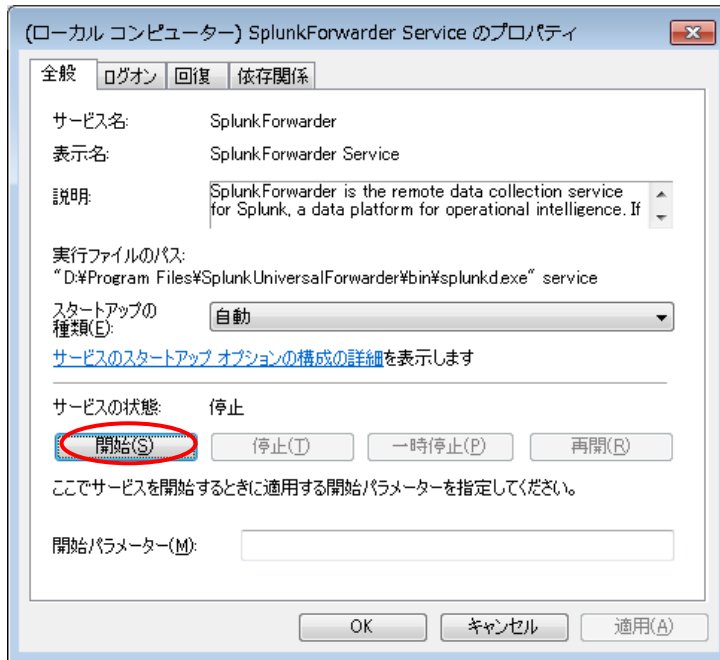
- (4) サービス一覧が表示されますので、「SplunkForwarder Service」を選択して右クリックし「プロパティ」を開きます。



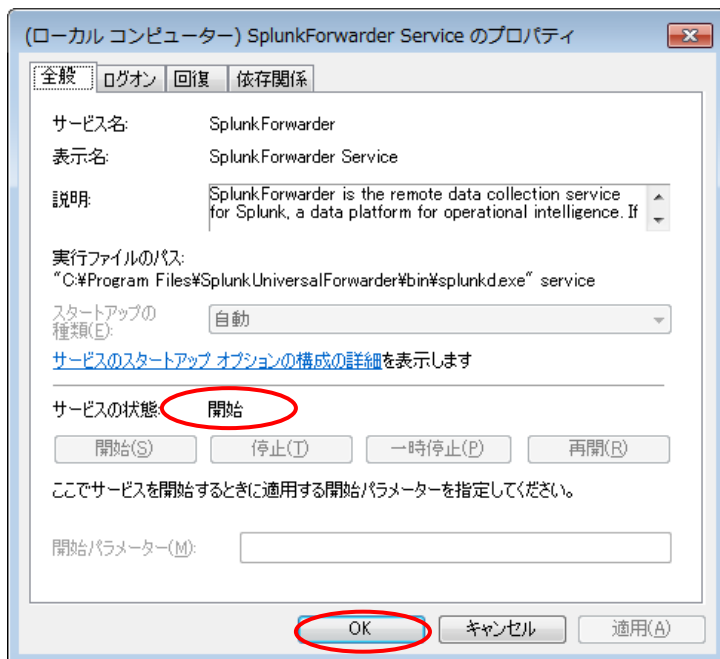
- (5) SplunkForwarder Service のプロパティウィンドウが表示されますので、「停止(T)」をクリックし、サービスを停止状態にしてください。
- サービス停止中にエラーメッセージが表示された場合、そのまま(6)の作業を実施してください。



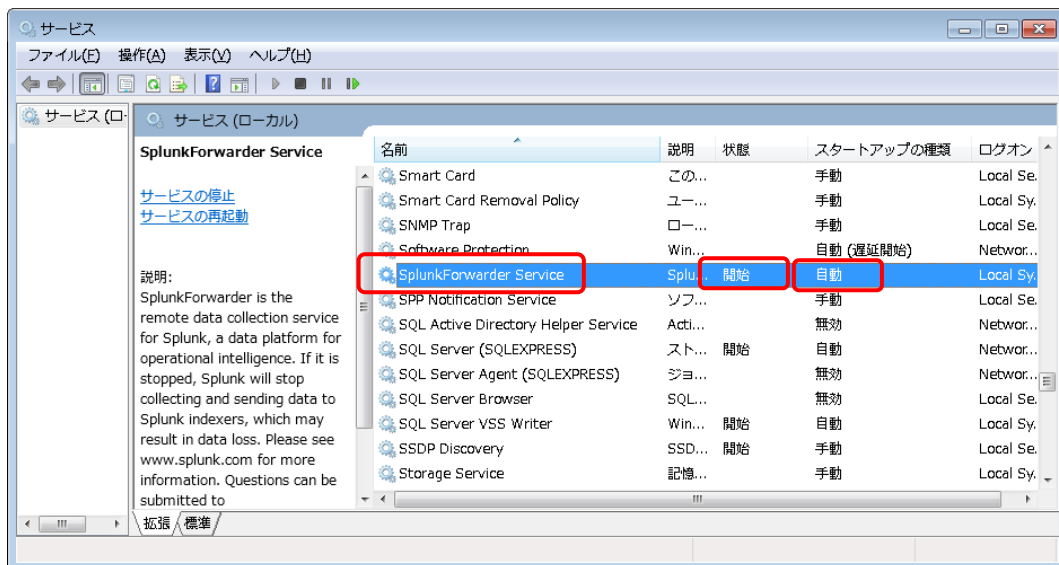
- (6) SplunkForwarder Service を起動状態にするため、「開始(S)」をクリックします。



- (7) サービスの状態が「開始」に変わることを確認し、「OK」をクリックし閉じます。

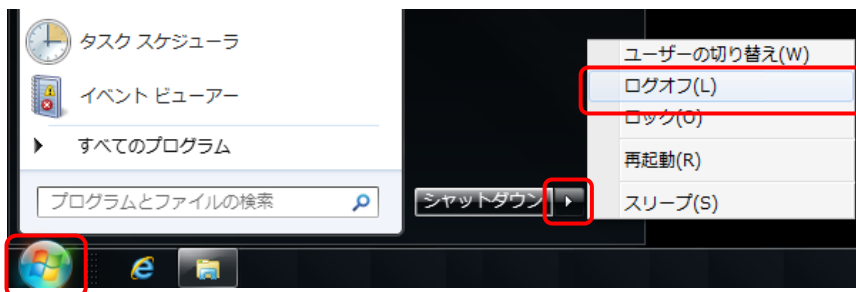


- (8) サービスの一覧から「SplunkForwarder Service」の状態が「開始」、スタートアップの種類が「自動」となっていることを確認してください。



1.10.10. ログオフ

- (1) 「スタートメニュー」→「ログオフ」を行います。



1.11. ネットワーク環境設定

1.11.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	15 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	15 分	<input type="checkbox"/>

1.11.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>

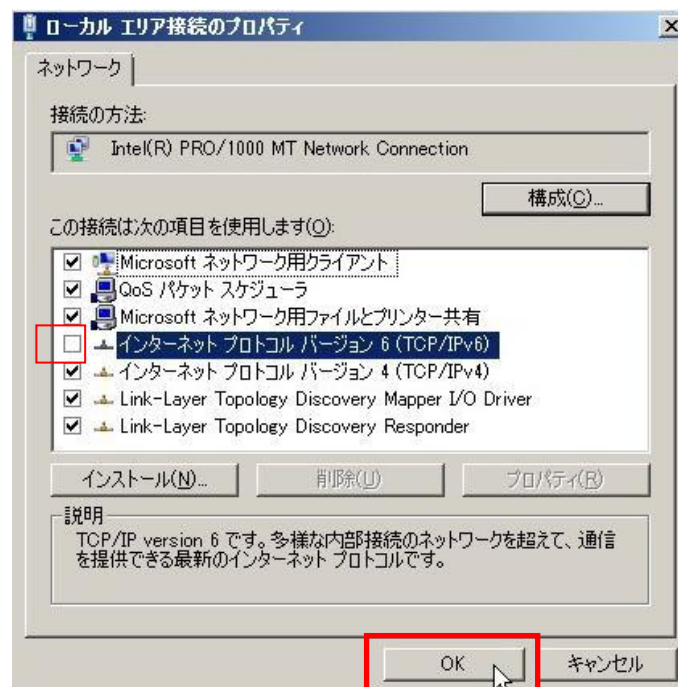
1.11.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>
2	LAN ケーブルを接続すること	<input type="checkbox"/>

1.11.4. ネットワークの設定

- (1) 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。
- (2) 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」を選択します。
- (3) 「ネットワークと共有センター」画面の「アクティブなネットワークの表示」に表示されている「ローカルエリア接続」をクリックします。
- (4) 「ローカルエリア接続の状態」画面が表示されますので、「プロパティ」をクリックします。
- (5) 「インターネットプロトコル バージョン 4」を選択し「プロパティ」をクリックします。
- (6) 「次の IP アドレスを使う」枠内に、設定変動表の **IP アドレス (自マシン)** と **サブネットマスク (自マシン)** と **デフォルトゲートウェイ (自マシン)** を入力します。
- (7) 「次の DNS サーバーのアドレスを使う」枠内に、設定変動表の **DNS サーバの検索順 (自マシン)** を入力します。
- (8) 「詳細設定」をクリックし、「WINS」タブにて、「LMHOSTS の参照を有効にする」のチェックを外し、「OK」をクリックします。
- (9) 「インターネットプロトコル バージョン 4 のプロパティ」画面に戻りますので、「OK」をクリックします。

- (10) 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面に戻りますので、「インターネットプロトコルバージョン 6(TCP/IPv6)」のチェックを外し、「OK」をクリックします。



- (11) 「ネットワークと共有センター」画面に戻りますので、画面を閉じます。
 (12) 「コントロールパネル」画面を閉じます。

注意事項

本項目「1.11.ネットワーク環境設定」の作業完了後、一定期間（約 1 時間）内に以下の作業が完了していない場合、不正接続となりネットワーク接続ができなくなりますので、速やかに実施していただく必要があります。

- ・ 1.12.PC 検疫導入
- ・ 1.13.ウイルスバスターCorp.クライアント 導入

1.12. PC 検疫導入

1.12.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	10 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント(VT 系)	10 分	<input type="checkbox"/>

1.12.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	CD-ROM	InfoCage PC 検疫 V3.1	<input type="checkbox"/>

1.12.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

1.12.4. 検疫エージェントのインストール手順

- (1) 「InfoCage PC 検疫 V3.1」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
- (2) 「E:\Agent\Setup」を実行します。
- (3) 「InfoCage シリーズ検疫エージェント用の InstallShield ウィザードへようこそ」画面が表示されましたら、「次へ」をクリックします。
- (4) 「インストール先のフォルダ」画面が表示されましたら、インストール先が『C:\Program Files (x86)\ServerW@ll_Agent』と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

- (5) 「検疫ポリシー管理サーバとの通信設定」画面が表示されましたら、以下の設定内容を確認し、「次へ」をクリックします。

設定項目	設定内容	確認
ホスト/IP アドレス	10.60.41.18	<input type="checkbox"/>
ポート番号	8740	<input type="checkbox"/>
Update 用ポート番号	8741	<input type="checkbox"/>

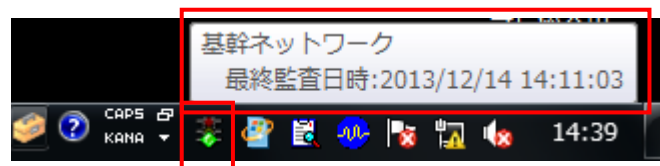
- (6) 「プログラムをインストールする準備ができました」画面が表示されますので、「インストール」をクリックします。
- (7) 「検疫エージェントをインストールしています」画面が表示され、インストールが開始されます。
- (8) 「InstallShield ウィザードを完了しました」画面が表示されますので、「はい、今すぐ検疫エージェントを起動します」にチェックされていることを確認し、「完了」をクリックします。
- (9) DVD-ROM ドライブより「InfoCage PC 検疫 V3.1」CD-ROM を取り出します。

1.12.5. 検疫エージェントのインストール確認

(1) 以下の状態を確認します。

項番	確認内容	確認
1	以下のアイコンが緑色になっていること ※ 以降の手順「1.13. ウイルスバスターCorp.クライアント 導入」を実施しますとアイコンが緑色になります。 ウイルスバスターのインストールが完了していない場合、アイコンは赤色の状態となりますので、インストール後に緑色になることを確認してください。	<input type="checkbox"/>
2	アイコンにカーソルを合わせたときに表示されるメッセージに日時が表示されること ※通信できていない場合、日時は－（ハイフン）となっています	<input type="checkbox"/>

※ VT 系のクライアントを構築している場合、アイコンが緑色にならず、日時は－（ハイフン）となりますが、正常な状態となりますので、問題ございません。
後続の構築作業を実施してください。



1.13. ウイルスバスターCorp.クライアント導入

1.13.1. 対象マシン／作業予定時間

項番	対象マシン	作業予定時間	確認
1	運用管理クライアント	15 分	<input type="checkbox"/>
2	運用管理クライアント (VT 系)	15 分	<input type="checkbox"/>

1.13.2. 準備物

項番	種別	名称	確認
1	ドキュメント	設定変動表	<input type="checkbox"/>

1.13.3. 前提条件

項番	前提条件	確認
1	「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンしていること	<input type="checkbox"/>

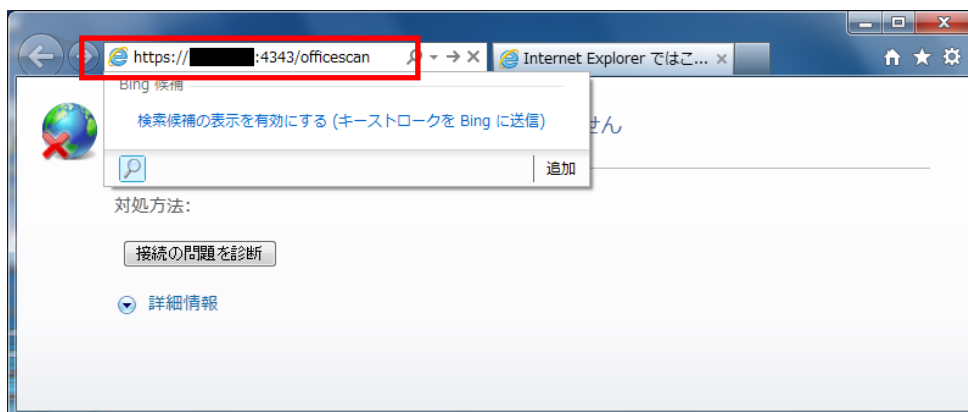
1.13.4. ActiveX の有効化の設定

- (1) エクスプローラを開きます。
- (2) 「C:\Program Files (x86)\Internet Explorer」フォルダ内の「iexplore.exe」を右クリックし「管理者として実行」を選択します。
- (3) 「Internet Explorer の設定」が表示されましたら「推奨される設定を使用しない」にチェックし、「OK」をクリックします。
- (4) Internet Explorer の「ツール」→「インターネットオプション」をクリックします。
(「ツール」が表示されていない場合<ALT>キーを押します。)
- (5) 「インターネットオプション」ウィンドウが表示されましたら「セキュリティ」タブの「インターネット」を選択し、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。
- (6) 「セキュリティ設定」ウィンドウが表示されましたら「ActiveX コントロールに対して自動的に～」を「有効にする」にチェックし、「OK」をクリックします。
(「このゾーンの設定を変更しますか」が表示されましたら「はい」をクリックします。)
- (7) 「インターネットオプション」ウィンドウに戻りましたら、「OK」をクリックし、右上の「×」をクリックし「Internet Explorer」を閉じます。

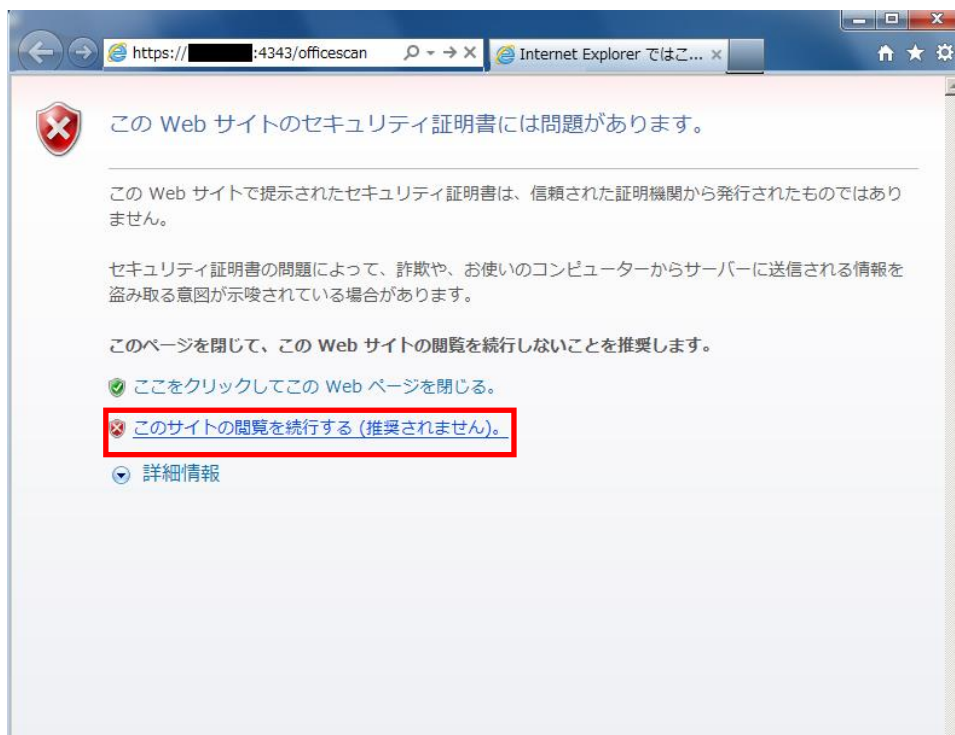
1.13.5. ウイルスバスターCorp. クライアントのインストール手順

- (1) 「C:\Program Files (x86)\Internet Explorer」フォルダ内の「iexplore.exe」を右クリックし「管理者として実行」を選択します。
- (2) 「Internet Explorer の設定」が表示されましたら「推奨される設定を使用しない」にチェックをし、「OK」をクリックします。
- (3) ウィンドウが表示されましたら、以下の URL をアドレスバーに入力してください。

項番	項目	設定値	確認
1	URL	https:// 設定変動表参照（ウイルス対策サーバの管理 LAN の IP アドレス） :4343/officescan/	<input type="checkbox"/>



- (4) 以下のウィンドウが表示されましたら、「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）」をクリックします。



- (5) 「ログオン」ウィンドウが表示されましたら、「クライアントのインストールはこちらから」の「はこちらから」のリンクをクリックします。

こちらから' (Client installation is [here](#)), which is highlighted with a red rectangle." data-bbox="163 140 613 363"/>

ログオン

ユーザ名:

パスワード:

パスワードを入力

ログオン

クライアントのインストールは [こちらから](#)

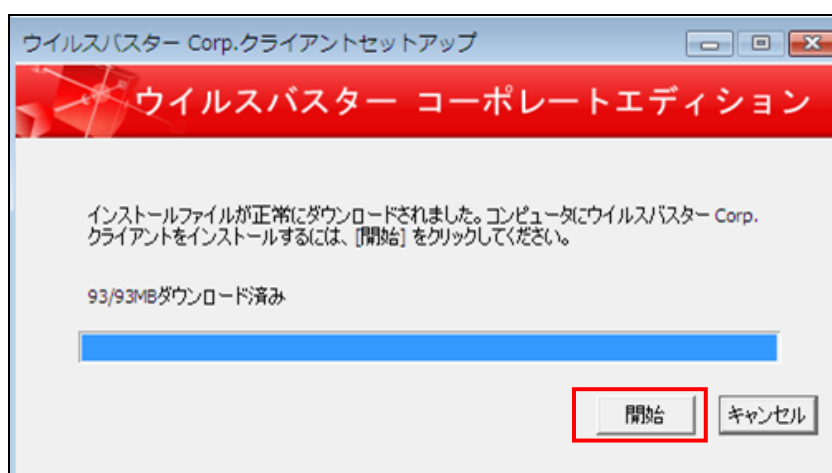
- ※ 「このソフトウェアをインストールしますか？」が表示された場合、「インストールする」をクリックします。（「Internet Explorer」の設定によっては表示されない場合があります。）



- (6) 「ブラウザからのクライアントインストール」が表示されましたら、画面を下へスクロールし「インストール」ボタンをクリックします。

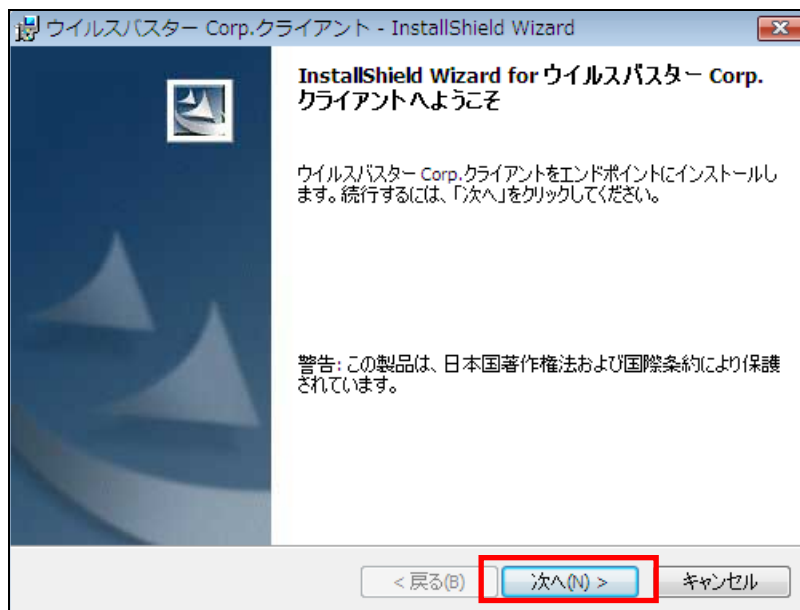


- (7) 「ウイルスバスターCorp.クライアントセットアップ」ウィンドウが表示されますので、「開始」ボタンをクリックします。

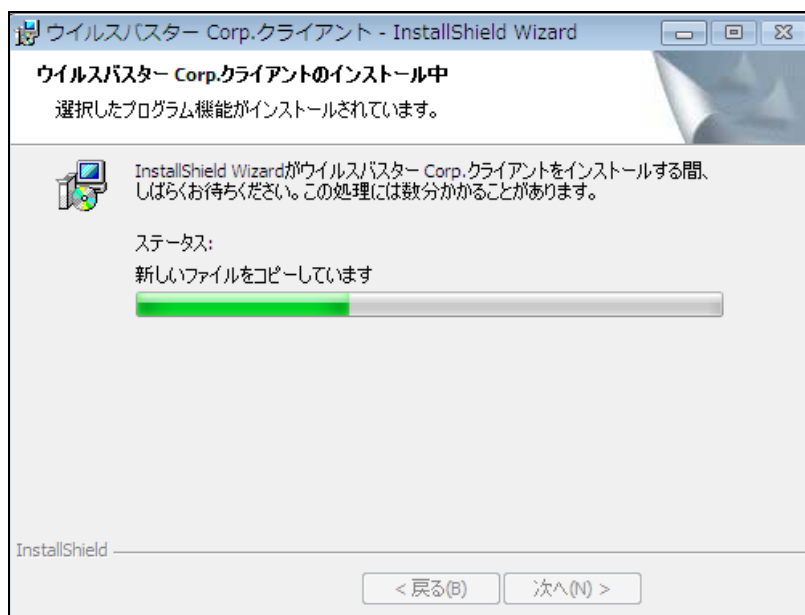


- ※ 「このソフトウェアをインストールしますか？」が表示された場合、「インストールする」ボタンをクリックします。（「Internet Explorer」の設定によっては表示されない場合があります。）
- ※ 同様のダイアログが複数回表示された場合、「インストールする」ボタンをクリックします。

- (8) 「ウイルスバスターCorp.クライアント」ウィンドウが表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



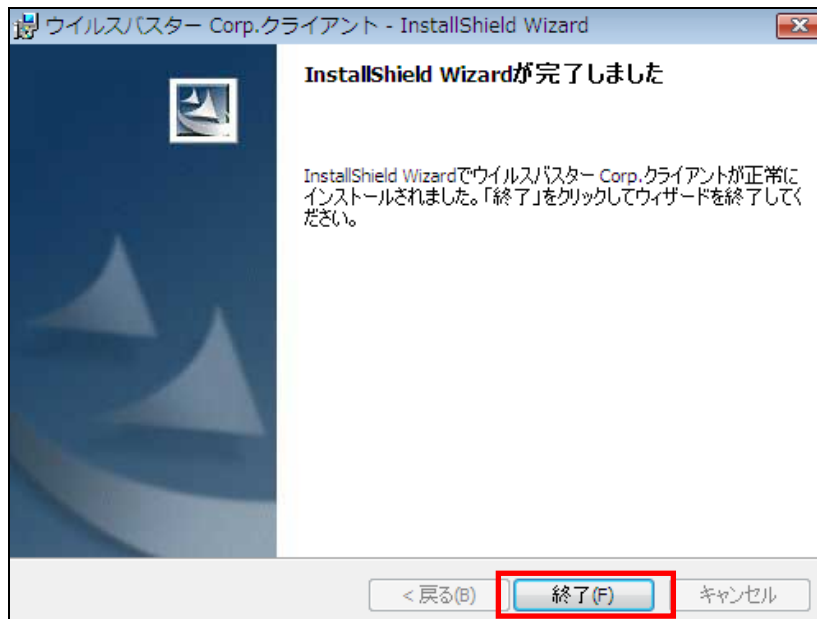
- (9) インストールが開始されます。インストールが完了するまで 5～15 分程度かかります。
(インストール時間は、環境によって異なります。)



- ※ 以下のメッセージが出力された場合、項目「1.13.8. エラー2902 が発生した場合の Corp.クライアントインストール手順」を実施してください。

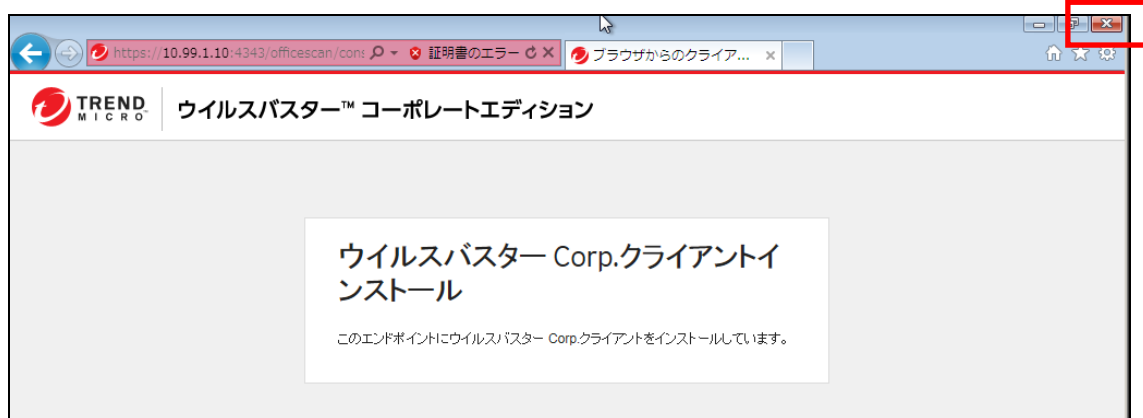
エラー2902 が発生しました。操作 ixoFileCopy が順序に従わず呼び出されました。

- (10) 「InstallShield Wizard が完了しました」が表示されますので、「終了」ボタンをクリックします。



項番	確認事項	確認
1	「InstallShield Wizard が完了しました」と表示されること	<input type="checkbox"/>

- (11) 右上の「×」ボタンで、「Internet Explorer」を閉じます。



- (12) Windows を再起動させ、「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンします。
- (13) ログオンしたら、[スタート]→[すべてのプログラム]→[ウイルスバスターCorp.クライアント]を選択し、以下のプログラムがインストールされていることを確認してください。

項番	確認項目	確認
1	ウイルスバスターCorp.クライアント	<input type="checkbox"/>
2	ウイルスバスターCorp.クライアント Readme	<input type="checkbox"/>
3	ウイルスバスターCorp.クライアントのアンインストール	<input type="checkbox"/>

- (14) タスクバー右下に Corp.クライアントのアイコンがあることを確認してください。

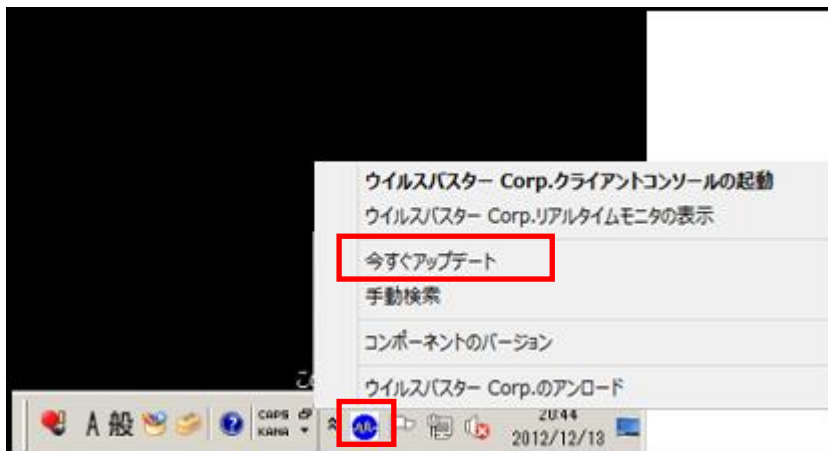
項番	確認項目	確認
1	ウイルスバスターCorp.クライアントのアイコンがあること	<input type="checkbox"/>

1.13.6. ActiveX の無効化の設定

- (1) 「C:¥Program Files (x86)¥Internet Explorer」フォルダ内の「iexplore.exe」を右クリックし「管理者として実行」を選択します。
- (2) 「Internet Explorer の設定」が表示されましたら「推奨される設定を使用しない」にチェックをし、「OK」をクリックします。
- (3) Internet Explorer の「ツール」→「インターネットオプション」をクリックします。
(「ツール」が表示されていない場合 <ALT>キーを押します。)
- (4) 「インターネットオプション」ウィンドウが表示されましたら「セキュリティ」タブの「インターネット」を選択し、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。
- (5) 「セキュリティ設定」ウィンドウが表示されましたら「ActiveX コントロールに対して自動的に～」を「無効にする」にチェックし、「OK」をクリックします。
(「このゾーンの設定を変更しますか」が表示されましたら「はい」をクリックします。)
- (6) 「インターネットオプション」ウィンドウに戻りましたら、「OK」をクリックし、右上の「×」をクリックし Internet Explorer を閉じます。

1.13.7. ウイルスバスターのアップデート

- (1) デスクトップ画面下のタスクバーより、「ウイルスバスターCorp.クライアント」アイコンを右クリックし、「今すぐアップデート」を選択します。



- (2) 「アップデートしています...」と表示され、アップデートが開始されます。



- (3) 「コンポーネントのアップデートが完了しました。」と表示されましたら、「閉じる」ボタンをクリックします。



項番	確認項目	確認
1	「コンポーネントのアップデートが完了しました」と表示されること	<input type="checkbox"/>

1.13.8. エラー2902が発生した場合の Corp.クライアントインストール手順

本項目は「1.13.5. ウイルスバスターCorp. クライアントのインストール手順」の項番(9)にて「エラー2902」が発生した場合に実施します。

- (1) 「スタート」メニューより「プログラムとファイルの検索」にて下表の内容を入力し、検索結果に表示されている「¥¥設定変動表参照（ウイルス対策サーバの管理 LAN の IP アドレス）」をクリックします。

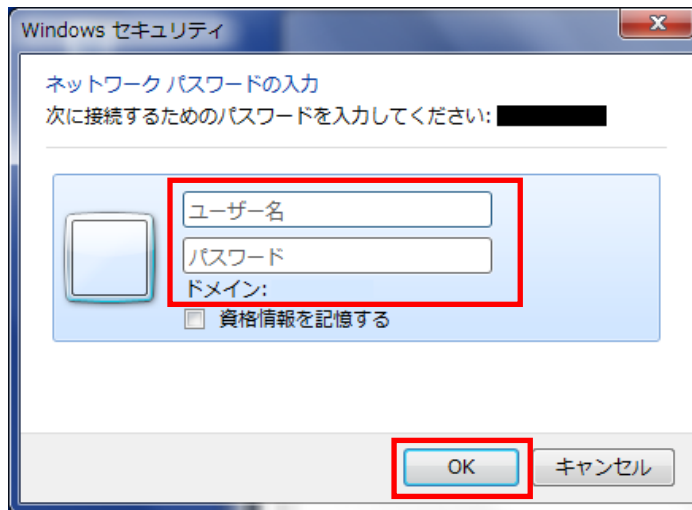
項番	入力内容	確認
1	¥¥設定変動表参照(ウイルス対策サーバの管理 LAN の IP アドレス)	<input type="checkbox"/>



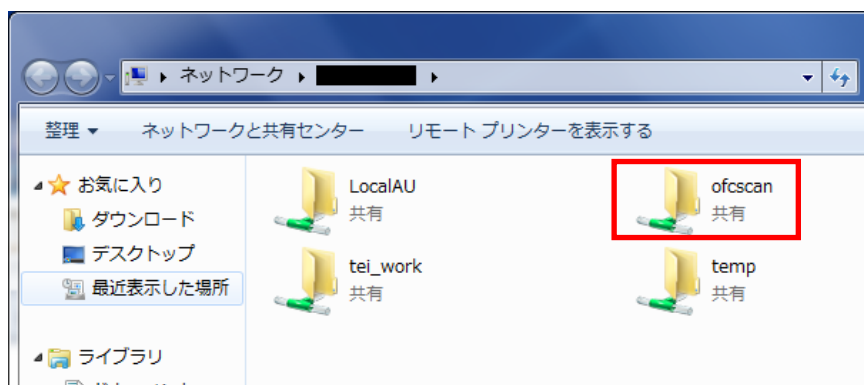
- (2) 「Windows セキュリティ」 ウィンドウが表示されましたら、以下のユーザ名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

表示されなかった場合、(3)以降の作業を実施していただき問題ございません。

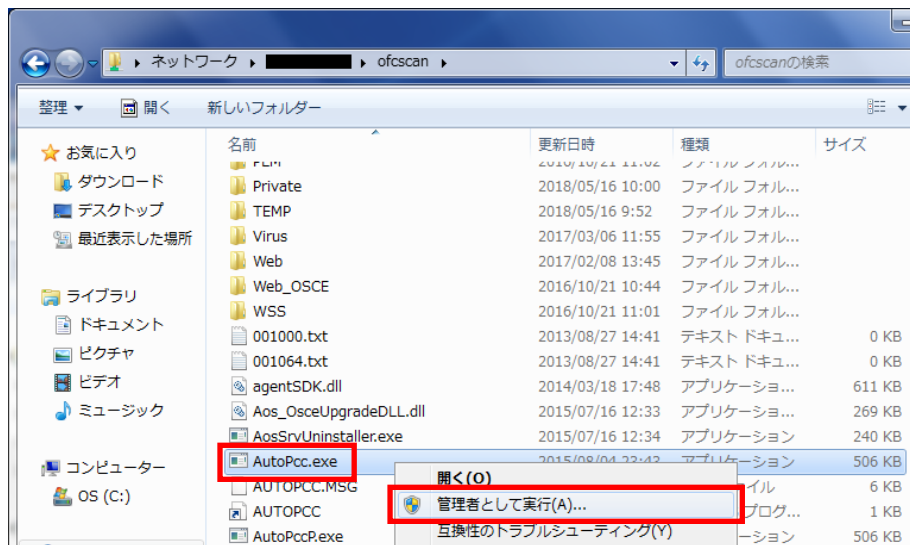
項番	項目	入力内容	確認
1	ユーザ名	XXX¥webadmin ※XXX は都道府県ドメインアルファベット 3 文字	<input type="checkbox"/>
2	パスワード	webadmin に対応したパスワード	<input type="checkbox"/>



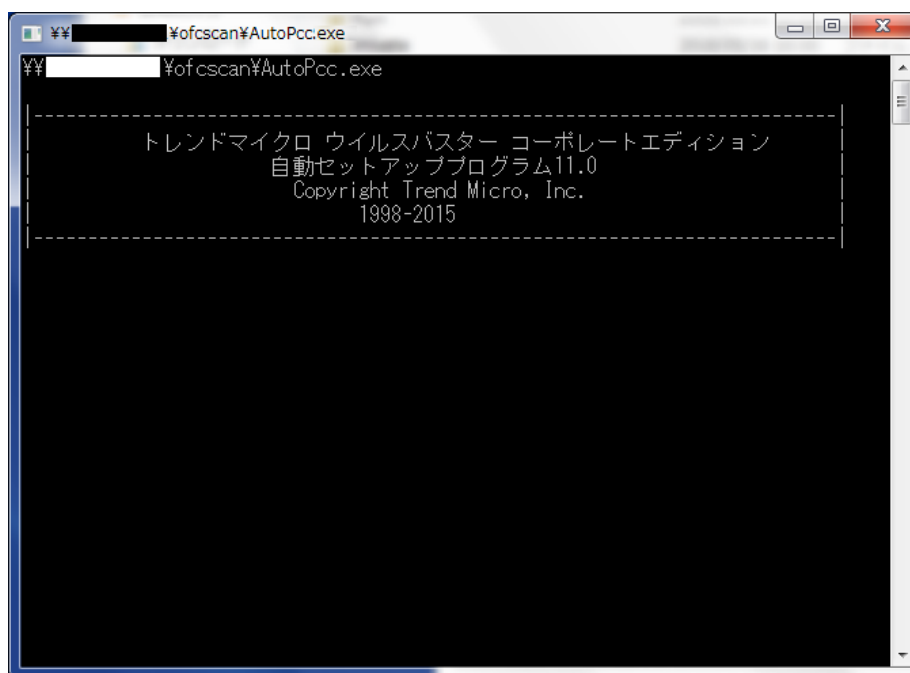
- (3) ウイルス対策サーバに接続できましたら「ofcscan」フォルダをクリックします。



- (4) 「ofcscan」フォルダ内の「AutoPcc.exe」ファイルを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。



- (5) コマンドプロンプトが立ち上がり、ファイルのコピーが始まりますので、そのまま待機します。
(約 5～10 分程度)



- (6) コマンドプロンプトが閉じましたら **Windows** を再起動させ、「1.1.6 初期セットアップ」で設定したユーザでログオンします。

「インストール完了」等のメッセージは表示されません。

- (7) ログオンしたら、[スタート]→[すべてのプログラム]→[ウイルスバスターCorp.クライアント]を選択し、以下のプログラムがインストールされていることを確認してください。

項番	確認項目	確認
1	ウイルスバスターCorp.クライアント	<input type="checkbox"/>
2	ウイルスバスターCorp.クライアント Readme	<input type="checkbox"/>
3	ウイルスバスターCorp.クライアントのアンインストール	<input type="checkbox"/>

- (8) タスクバー右下に **Corp.クライアント**のアイコンがあることを確認してください。

項番	確認項目	確認
1	ウイルスバスターCorp.クライアントのアイコンがあること	<input type="checkbox"/>

本項目「1.13.8. エラー2902 が発生した場合の Corp.クライアントインストール手順」が完了しましたら、以下の項目を実施し、後続の作業を実行してください。

- ・ 1.13.6.ActiveX の無効化の設定
- ・ 1.13.7.ウイルスバスターのアップデート